



令和2年度（2020年）
公益社団法人東京都看護協会

Annual Report

〈年次報告〉

令和2年度（2020年）
年次報告

公益社団法人東京都看護協会



〒160-0023 東京都新宿区西新宿四丁目2番19号
電話番号（代表）：03-6300-0730
<https://www.tna.or.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

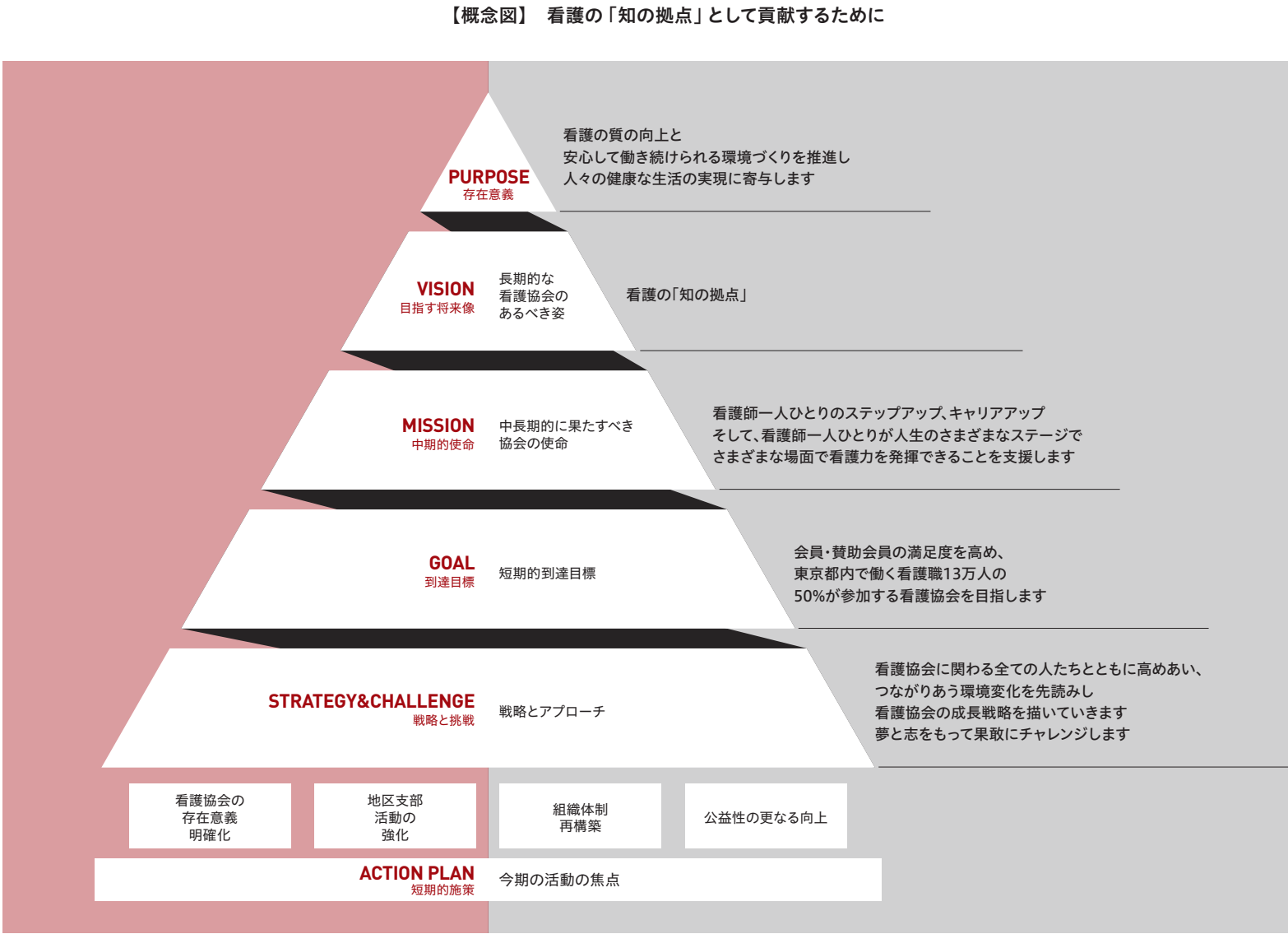
CONTENTS

公益社団法人東京都看護協会の基本理念	3
トップメッセージ	4
Topics 2020	
〔Round Table 01〕理事 座談会	6
新型コロナウイルス感染症対策支援事業	10
令和2年度事業報告 危機管理室	14
看護師広域派遣 看護師広域派遣スキーム	16
〔Round Table 02〕新型コロナウイルス感染症「応援派遣ナース」座談会	17
決算報告ハイライト	22
寄附金受取実績	24
令和2年度事業報告 教育部	26
〔Round Table 03〕教育部 対談	28
令和2年度事業報告 事業部	32
〔Round Table 04〕事業部・子育て支援委員会 座談会	34
令和2年度事業報告 東京都ナースプラザ	38
〔Round Table 05〕東京都ナースプラザ 座談会	40
令和2年度事業報告 総務課	43
東京都受託事業報告	44
委員会活動報告	46
地区支部活動報告	50
会員の状況	52
東京都予算に対する要望活動	54
理事会報告	56
役員紹介	58
退任あいさつ	62
功績顕彰 令和2年度 東京都看護協会会長賞・感謝状受賞者／各賞受賞者	63
協会へのご支援 令和2年度 寄附者・賛助会員御芳名	64
東京都及び関係団体の役員・委員等の就任状況	66
会議等出席一覧	68
外部団体共催及び後援学会等	74
公益社団法人日本看護協会会議等行事	75
委員会名簿	76
東京都看護協会地区支部役員及び委員名簿	78
東京都看護協会代議員及び予備代議員	80
東京都看護協会の公益目的事業	82
決算報告	84
組織図	96
事務局組織図	97
協会概要／アクセス	98



公益社団法人東京都看護協会の基本理念

私たちは
看護の専門家として主体的に行動します
社会の仕組みづくりの変革者として活動します
人々の健康とQOLの向上に貢献します



公益社団法人東京都看護協会のシンボルマーク

「命と向き合うあなたを支えたい。」という看護職の思いを二つの人をモチーフとした形を組み合わせることによって表現しています。サポートする、ネットワークを創るというイメージを体現するとともに、看護の頭文字Kにも見えるようデザインしています。



©十河 英三郎

Top Message

Tokyo Nursing Association

公益社団法人東京都看護協会は、東京都において、過去70余年にわたり看護の職能団体として人々の健康とQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上に貢献してまいりました。

保健師、助産師、看護師及び准看護師が看護に関する教育と研鑽に根ざした専門性に基づき看護の質の向上を図るとともに、安心して働き続けられる環境づくりを推進し、もって人々の健康な生活の実現に寄与することを目的とし活動しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延拡大により国内のいずれの医療機関においても通常の診療や治療が実施できず、さらに救急患者の受け入れ困難や、入院・手術の予定が延期を余儀なくされ、患者と家族の面会ができなくなるなど、感染症治療以外の医療も甚大な影響を受けました。医療・看護のみならず、社会経済も多大な影響を被りました。

現在、自粛一色の日々からそれぞれの活動が少しずつ再開しました。私たち看護職は、このパンデミック後をどう乗り切っていけばよいのか。世界が直面しているこのコロナ問題のみならず、自己の利益だけを考えて利己的な行動を取ってはいけません。公正性が求められること、さらに、立場の弱い人ほど「健康」が脅かされ、危機に直面している状況の中、私たち東京都看護協会が果たす役割はますます大きくなっていると言えるでしょう。

現在のこの状況は、これまで問題となっていた医療的な課題を達成するための挑戦であると同時に、問題を解決する機会でもあります。当協会ではコロナ禍で変容した社会課題を見つめ直し、新たな需要と捉え、変革の入り口として、社会に貢献する新たな看護の展開を生み出すこともできると考えております。

引き続き厳しい状況が予測されますが、看護職が一丸となり、医療提供体制確保のためにさまざまな取り組みにチャレンジしてまいります。

過去の延長線上にないこの新時代を生き抜く上で必要なのは、確かな知識と教養をもとに将来を見通すビジョンと行動力ではないでしょうか。当協会でも、研修はもとより学会や地域住民向け施策などあらゆる事業を発展させ、人々が健康で安心して暮らすことができるよう、会員の皆さまとご賛同くださった賛助会員の皆さまとともに、誠実に効果的な社会貢献活動を推進してまいります。今後とも変わらぬご支援のほど、お願い申し上げます。

令和3年9月
公益社団法人東京都看護協会

会長 山元恵子

Round
Table

01

理事 座談会

新型コロナウイルス感染症 対応支援に奔走した1年 そして未来の看護のあり方を見据えて

新型コロナウイルス感染症の感染拡大という未曾有の事態に直面した令和2年。東京都看護協会では危機管理室内に「新型コロナウイルス感染症対策プロジェクト」を立ち上げ、外部の専門家をアドバイザーとして招聘し、さまざまな角度から現場の支援に取り組みました。

今回は改めて令和2年度事業を振り返ると同時に、令和3年度以降の活動に向けて語り合います。

看護協会に求められた新たな役割 一歩踏み出したことが突破口に

——— 山元 恵子 会長

令和2年度は、看護職の応援派遣調整や 感染対策指導者養成研修など コロナ対策事業が主軸に

渡邊：まずは、令和2年度事業の振り返りを山元会長からお願いします。

山元：令和2年度は、新型コロナウイルス対策支援に明け暮れた1年であったと言えるでしょう。東京都看護協会では東京都内の病院でクラスターが発生した際に看護職員の応援派遣調整を行いました。協会の事業として行うべき支援かどうかという点について、内部でも大きく意見が分かれました。ただ、実際に動き出すと突破口になり、やがて協会の動きが全国的にも知られるようになりました。それを受けて一般の方々や企業の皆さまからご賛同を得て、1億4,000万円超という大きなご厚意をお寄せいただいたことは本当にありがたかったです。それと同時に、私たちの取り組みが高く評価されたという自信にもつながりました。

全体を見ると計画外の事業ばかりでしたが、その都度理事会の賛同、承認を得られたことで力強く事業を進めることができました。

渡邊：令和2年2月に横浜港のクルーズ船での陽性者発生後、徐々に増加し始め、病院など各所でのクラスター発生へと広がっていきましたが、クラスターが発生する前から、協会として何かできないかという話が出ていて、理事が手分けをして病院に電話をかけ、現状について実態把握をするなどしていました。

理事として関わってくださっている皆さまのご意見も伺いたいと思います。まずは佐川さん、いかがですか。

佐川：私は東京都看護協会の令和2年度のコロナ対応が、

職能団体としてのモデルになるのではと思っています。いち早く看護士の応援派遣を調整したり、感染症認定看護師がいない医療機関でもコロナ対応ができるように研修を充実させたりと、体制を整えたことは本当に素晴らしかったですね。医療機関や地域の看護師への実態調査にも積極的に取り組み、さまざまなメディアで医療現場や看護職の現状を情報発信していましたが、こうした活動で都民の方の理解を得られたのではないのでしょうか。会長のリーダーシップのもと、一つひとつ取り組んだことが、確かな実績につながったのだと思います。

渡邊：藤野さんはいかがですか。

藤野：そうですね。会長を中心に東京都看護協会が一つになったと感じられた1年間でしたし、ある意味コロナはチャンスにもなったと感じています。コロナの影響を受け、ほとんどの研修が中止になったことで、これからどうなるのか心配でしたが、すぐにコロナ関連の内容に置き換え、オンライン配信などを導入しました。研修内容も小規模の病院や施設のニーズにもマッチしたもので、現場も助かったと思います。普段からやっている看護を自分だけで終わらせるのではなく、発信することの大切さも改めて感じました。

渡邊：東部地区理事の佐久間さんはいかがですか。

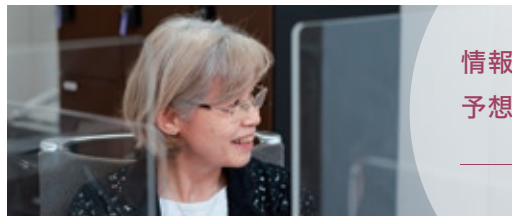
佐久間：コロナの影響を受け、さまざまな意見や反応がある中で大きく舵を切り、スピーディーにコロナ対応に切り替えたことは本当に大きな決断だったと思います。ただ、地区単位で振り返ると、従来の枠組みからの飛躍はできていなかった。地区の研修やまちの保健室のあり方など、もうひとひねり、新しい発想がほしかったと思いますし、自分を客観視してみても、地区支部の理事の力不足だったと感じています。

渡邊：地区理事の皆さんはご自身の所属施設を一番に考

令和2年度のコロナ対応は職能団体のモデルになる

——— 佐川 きよみ 副会長





情報発信に積極的に取り組む中で 予想以上の反響があったことが大きな転機となった

——— 渡邊 千香子 専務理事

えなければなりません。その上での地区支部活動ですので、力の入れ方も難しいと思います。東京都看護協会は、コロナプロジェクトを立ち上げ外部に情報発信をはじめたところ、予想以上の反応があったことが大きな転機になったと思います。このことが「今やらないと!」という意識につながったと考えています。

山元：ウェビナーやズームなどオンライン化を進めるにあたっては、システムエンジニアのサポートが必要でしたし、都内病院のクラスター支援に行った看護師が非常勤として入職したことも大きかった。さまざまな形で支援してくださる方がいたからこそ、私たちも安心して事業を進めることができたのだと思っています。

次年度は新たな視点からのコロナ対策、 看護職支援にも目を向けたい

渡邊：では、次に次年度の事業に向けて、山元会長からお願いします。

山元：新型コロナウイルス感染症の感染拡大も2年目に入り、これまでとは違う方法で事業展開していかなければなりません。研修や学会は今年も引き続きウェブで開催を続けていくと同時に新たな取り組みも考えています。

一つは看護学生が授業や看護研究にも使える学生会を形にすることです。令和3年6月には「東京都看護学会誌第1巻第1号」を創刊しましたので、こちらにも力を入れていきたい。大学や看護学校の先生に論文を投稿していただけるようになれば、学術的な面での発展、進歩にもつながるのではないのでしょうか。

二つ目は地域に向けたアプローチです。昨年行った他の学会と共同開催した地域包括ケアをテーマとした研修にたくさんの方が参加してくださり、ニーズがあることがわかりました。今後は病院の看護師だけでなく、保健師や障害者支援施設、特別支援学級などで従事する地域の看護職に向けた施策も必要だと考えています。

渡邊：佐川さんはいかがですか。

佐川：医療機関におけるコロナ対策は、まだしばらく続くでしょう。私が懸念しているのは、10年前に新型インフル

エンザが大流行した際に起こったように、コロナ対応に追われた看護職が疲弊し、メンタル面も含めてさまざまな病気にかかるなどして、離職してしまうケースです。今後、何らかの対策が求められるのではないのでしょうか。

また、地域包括ケアにもさらに取り組んでいきたいと思っています。看護職が働く場所は医療機関だけでなく、障害福祉サービスや産業保健分野などにも広がっています。一方で、少数で働いている現場では人材の育成や、その場所で看護師としての仕事を確立するための支援が必要になると感じています。

佐久間：非常事態のための人員配置をいつまで続けるのか、悩みどころですね。

今回のコロナで感じたのは、ここぞというときに中小規模の病院でもすぐに取り入れられる研修内容が求められているということです。これまでに東京都看護協会で行ってきた研修がツールとして、地域や施設で、現場に合わせて改変されながら使われていくのが理想ですね。

藤野：目的が明確な研修にニーズがあることがわかったので、これから会員獲得をするためには、「東京都看護協会の研修に参加すると現場ですぐに役立てる」と感じてもらえるような内容を企画することは大切ですね。私たちが行ってきたことを可視化して、協会の魅力を広く周知することが、会員数を増やすことにもつながるのではないのでしょうか。

また、令和2年度は多くの方からご寄附をいただいたので、これをどのように活用するか、使い道についてきちんと発信することも重要です。

看護職の輪を広げることで、 一人ひとりの成長につなげたい

渡邊：いろいろなお話がありましたが、さらに皆さんが考える次年度の課題についてお聞かせください。

佐久間：企業で働く看護師など、外部との接点が少ない看護師の横のつながりを広げていくことが必要だと思っています。東京都看護協会に行けば情報があり、新たな知識が得られ、心休まる場所である……。そんな“知の拠点”になっていけたら。その点でも、オンライン研修は気軽に

参加できて、有効な手段だと思います。

コロナが落ち着いても、医療現場はコロナ前と同じ状況には戻らないでしょう。今後、先駆的な取り組みができない医療機関は淘汰されてしまうかもしれません。地域の医療を支えるためにも、地域包括ケアを担う委員会などが中心になって“ニューノーマル”を模索することが必要ではないのでしょうか。

山元：私は、もっと生産性を高めないと日本の医療や看護は生き残れないと考えています。また、看護職の方々にはぜひ海外でも活躍してほしいですし、日本の看護のきめ細やかな対応やエビデンスに基づいたケアを海外に伝えてほしいと考えています。これらの支援の一環として協会では平成29年度から語学研修事業を実施しています。

佐川：今後、医療業界もどんどんIT、ICT化が進んでいきます。ナイチンゲールは「看護師は、看護師でなければできない仕事をやりなさい」と言っていますが、今後日本の人口が減り、少子化が進めば看護職も減るでしょう。IT、ICT化によって、看護職にしかできない仕事を整理することが求められると思います。

佐久間：今、仕事の8割を診療補助が占める“ミニドクター”のような看護師が多く存在しますが、医療の補助行為に特化しすぎること看護職としてのマインド、心が削られてしまうのではないかと懸念しています。避けたいのは、IT、ICT化が進んですべてが機械的になってしまうこと。医療機関は患者さんにとって温かさを感じる場所であってほしいですね。

山元：改めて“質の良い看護”とは何かということを考えるべきではないのでしょうか。一人ひとりの看護職が、患者さんやご家族がこの病院、この施設に来て良かったと思えるような気配りや、目の前にいる人がより良い人生を送るに

看護を自分だけで終わらせるのではなく 発信することの大切さも改めて感じた

——— 藤野 恭子 財政担当理事



はどうしたらいいか、包括的に考えながら看護ができる人に育ってほしいと思います。

あらゆる場所で働く看護職が集まる “知の拠点”を目指す

渡邊：最後に、協会事業のあるべき姿についてのお考えをお聞かせください。

山元：東京都看護協会が、看護に関わる皆さんが入会したいと思ってくださるような団体であるために、常に先のことを見据えながら新しい情報を発信していくことが重要だと思っています。これからも“知の拠点”として、すべての看護に関わる人が集まる、エネルギッシュな場所でありたいですね。

佐久間：“知の拠点”という言葉に付随して、看護職が自分たちのアイデアやノウハウを協会に持ち込むとさらに広がっていく、次のキャリアプランがひらめくなど、視点が広がる場所になればいいと思います。また、いろいろな専門職とつながることができるハブ機能を持った、医療界のプラットフォームになればいいですね。

藤野：そうですね。職能団体として、全国の看護協会のモデルとして発信できるようになると、より活性化するのではないのでしょうか。

佐川：東京都内の看護職全就業者のうち東京都看護協会に加入している看護職はまだ一部のみです。あらゆる看護職が集う場所になるように、スキルアップのための研修や、コミュニケーションの場の提供など、新しい視点での事業展開や、情報発信をしていきたいですね。

渡邊：その時々さまざまな状況やニーズに合わせて、今後も皆さんのお力を借りながら、東京都看護協会としての事業を進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。



看護協会がアイデアやノウハウが広がる場所、 ハブ機能を持った医療界のプラットフォームになればたら

——— 佐久間 あゆみ 東部地区理事



令和2年度支援概要

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、看護職能団体として看護従事者の感染症対策の一助となることを目的に関係機関等と連携しながら東京都内医療機関及び看護職に対し、会員施設に限らず、それぞれの難局した状況に対応した支援活動を実施し、感染拡大防止に取り組みました。

主なプロジェクト紹介

- 看護職員応援派遣調整
 - ・ 都内の医療提供体制確保のための活動
 - ・ 都外の医療提供体制確保のための広域派遣活動
- 看護職支援
 - ・ 新型コロナウイルス感染症対策プロジェクト会議
 - ・ 医療機関への支援
 - ・ クラスター発生医療機関への支援
- 医療用物資等無償提供
- 教育・研修
 - ・ オンライン研修の導入
 - ・ 感染対策研修の実施
 - ・ 医療従事者のための新型コロナウイルスワクチンセミナー
 - ・ 新型コロナウイルスワクチン接種のための手技セミナー
- 妊産婦・親子向け新型コロナウイルス感染対策動画
- 新型コロナウイルス感染症アンケート調査

令和3年度支援計画概要

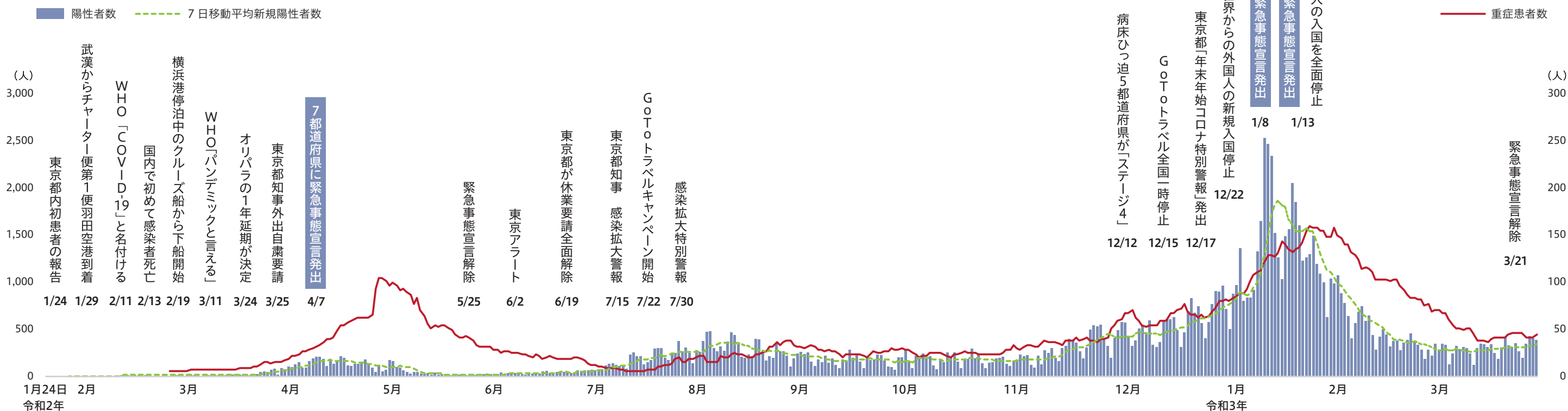
次年度もさまざまな事業を計画しております。そのうちのいくつかを取り上げてご紹介します。

主なプロジェクト紹介

- 新型コロナウイルスワクチン接種
 - ・ 潜在看護師の活用
 - ・ 新型コロナウイルスワクチン接種業務に携わる潜在看護師へワクチン接種を実施
 - ・ ワクチン接種を担う歯科医師向けの実技研修
 - ・ 東京商工会議所ワクチン共同接種に看護師派遣
 - ・ 東京ワクチンチーム（TVT）設置
 - ・ 東京ドーム3区合同ワクチン接種への協力
- 新型コロナウイルス感染症対応看護職等を支援するためのPCR無償検査事業
 - ・ 看護学生及び教員へのPCR無償検査キット提供
- 新型コロナウイルス感染症流行下における東京都内看護職のメンタルヘルス実態調査
- 新型コロナウイルス感染症に関連した施設支援
- 感染対策マネージャー養成研修
- オンライン面会支援事業
- 妊産婦への支援
- プレファミリー講座
- 教育研修
 - ・ 研修開催時における抗原検査キットの無償配布及び検査実施

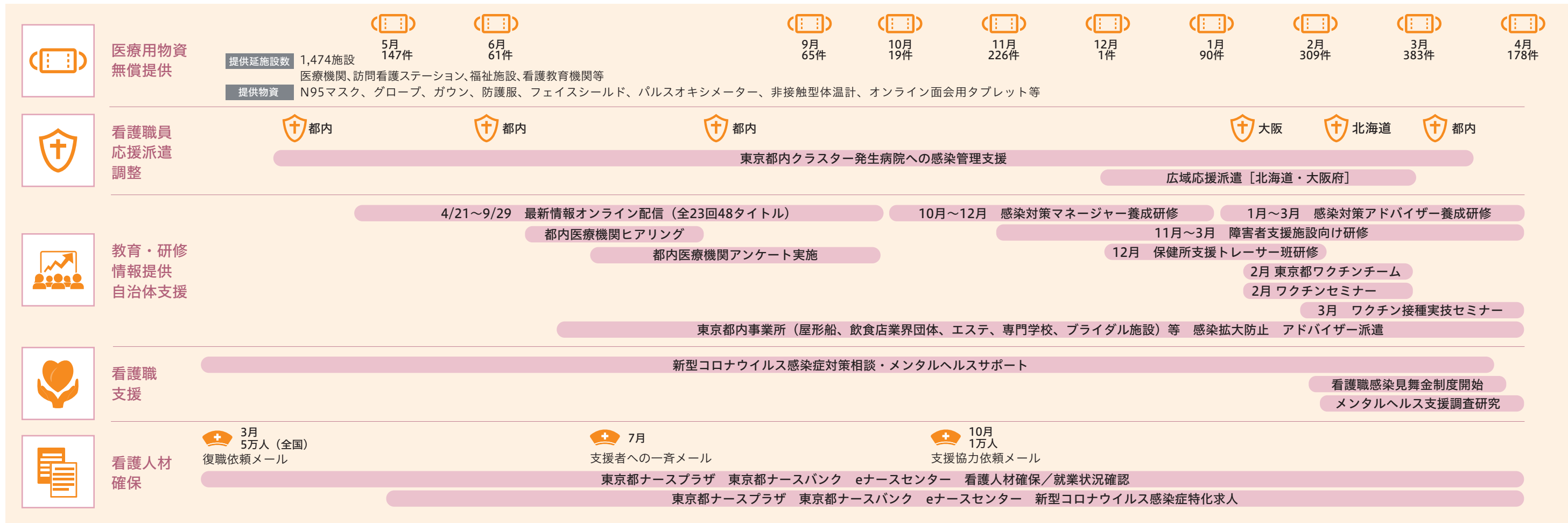


東京都の新型コロナウイルス感染症患者推移／主な出来事



【データ】東京都 表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) の著作物を改変して利用しています。

令和2年度公益社団法人東京都看護協会 新型コロナウイルス感染症対策支援事業



危機管理室

令和2年度の振り返り

令和2年度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を受け、4月1日、危機管理室に「新型コロナウイルス感染症対策プロジェクト会議」を設置しました。本プロジェクト会議の運営を担うとともに、危機管理室を中心にプロジェクトを推進し、クラスター発生施設への支援、看護職員の広域派遣調整、感染拡大防止策の最新情報発信、看護職への相談対応等さまざまな支援が実現しました。

医療機関や福祉施設等の感染対策支援を行う中で、新型コロナウイルス感染症対策の看護領域における感染管理、医療安全の知見や人的支援等において、さまざまなノウハウを蓄積していきました。このノウハウを活かし広く共有することで、医療機関や福祉施設等のリスク低減と経営の持続性、看護職の安全を守っていきます。

組織的には、このプロジェクトチームによる活動が、協会組織の「事業・人・組織」に変革をもたらす横軸展開を創出し、公益活動の積極的な推進に寄与したと考えています。

危機管理室長
仙道 かほる

事業概要

- BCPの策定、運用及び実施に関すること
- 防災対策・災害支援に関すること
- 災害備品の管理に関すること
- 会館の維持管理、修繕に関すること
- 新型コロナウイルス感染症に関すること
- 前各号に掲げるもののほか、危機管理室が所掌することが必要な業務に関すること



主な取り組み

- 災害支援ナース事業
 - ・災害支援ナースの登録・更新
 - ・災害時の派遣
 - ・災害支援ナース更新研修
 - ・災害支援ナース派遣調整訓練
- 新型コロナウイルス感染症対応研修事業
 - ・感染対策指導者養成研修 Aコース、Bコース
 - ・東京都受託事業障害者支援施設等の感染防止対策のための専門的相談・支援事業
- 新型コロナウイルス感染症対策
 - ・新型コロナウイルス感染症に関する検討・会員及び病院支援
 - ・プロジェクト会議運営
 - ・ワクチンセミナー
 - ・クラスター発生施設への看護職員応援派遣調整
 - ・感染管理認定看護師及び看護管理者による訪問指導及びアドバイス
 - ・精神看護専門看護師によるメンタルサポート
 - ・最新情報配信
 - ・東京都内医療機関等医療従事者新型コロナウイルス検査陽性者発生状況調査
- 会館内の感染対策
- 新型コロナウイルス感染症BCPの策定

令和3年度主な事業計画

- 1 新型コロナウイルス感染症対策
 - ・新型コロナウイルスワクチン接種への協力
 - ・潜在看護師の活用
 - ・新型コロナウイルスワクチン接種業務に携わる潜在看護師へワクチン接種を実施
 - ・東京商工会議所ワクチン共同接種に看護師派遣
 - ・ワクチン接種を担う歯科医師向けの実技研修実施
- 2 感染対策マネージャー養成研修
 - ・新型コロナウイルス感染症発症の中心である東京都内において、即戦力として活躍できる人材を養成する
- 3 災害支援ナース事業
 - ・令和3年度は東日本大震災から10年の節目であり、災害看護の意識を高めることを目的に、災害支援ナースの活動PRや災害時の新型コロナウイルス感染症対策研修等を企画する

看護師広域派遣スキーム

都内及び都外の医療提供体制確保に向けた当協会の活動

公益社団法人東京都看護協会は、当協会が実施している新型コロナウイルス感染症における地域の医療提供体制確保のための緊急措置として、新型コロナウイルス感染症発生施設への看護職（当協会職員）の広域派遣を実施しました。

【都外の医療提供体制確保のための活動】

当協会は、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した都外の医療機関に対し、新型コロナウイルス感染症対応のための感染症対策応援派遣ナースの応援派遣を、以下の要領で実施しました。

1

日本看護協会（以下、日看協）が、厚生労働省から「地域の医療提供体制確保のための看護職員の派遣調整事業」を受託。

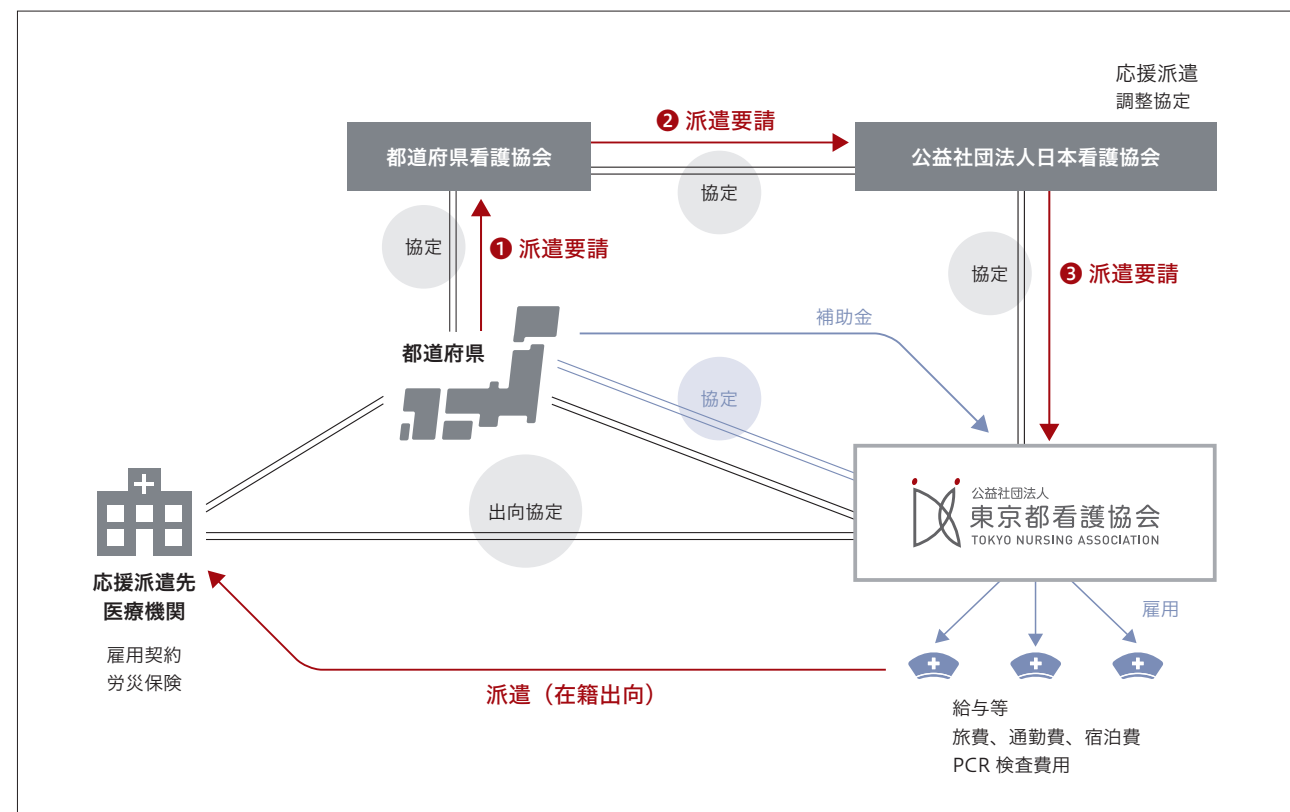
2

1に基づき、日看協と当協会との間で「新型コロナウイルス感染症対応のための都道府県看護職員の応援派遣調整に関する協定書」（以下、応援派遣調整協定）を締結。

3

応援派遣調整協定に基づき、当協会は、日看協から応援派遣要請を受け、北海道の医療機関と大阪府の医療機関に対し当協会に雇用する5名の看護職員を感染症対策応援派遣ナースとして応援派遣を実施。

I 感染症対策における看護師応援派遣のスキーム



上原 さゆり
(令和2年12月23日～令和3年1月12日)

渡辺 常子
(令和2年12月23日～令和3年1月12日)

鴨田 玲子
(令和2年12月29日～令和3年1月9日)

Round Table

02

新型コロナウイルス感染症「応援派遣ナース」座談会

応援先で責務を果たす、経験値が高まる

東京都看護協会は、令和2年12月23日から令和3年1月12日の間、北海道旭川市の「慶友会吉田病院（263床）」に3名の看護職、令和3年1月3日から2月28日まで大阪府大阪市の「大阪コロナ重症センター（重症30床）」に2名の看護職をそれぞれ応援派遣しました。

吉田病院は、令和2年11月上旬に院内感染のクラスターが発生し、危機的状態に陥りましたが、DMAT（災害派遣医療チーム）や自衛隊、外部の医療機関の協力を得て沈静化。その後、当協会の職員が入り、病院再生のお手伝いをしました。また、大阪コロナ重症センターは、令和2年12月半ばに大阪府看護協会の50名の看護師を中心に始動。全国から70名の看護師が送り込まれ、30床が運用されています。いずれも、新型コロナウイルス感染症とのたたかいの最前線です。その渦中に飛び込んだナースたちの座談会を令和3年3月22日に開きました。司会はノンフィクション作家の山岡淳一郎氏。応援派遣ナースの「本音トーク」に耳を傾けてみましょう。

大阪府大阪市「大阪コロナ重症センター」応援派遣ナース



中島 ひとみ
(令和3年1月3日～2月28日)

福嶋 真優
(令和3年2月2日～2月28日)

司会



山岡 淳一郎氏
ノンフィクション作家

昭和34年愛媛県生まれ。ノンフィクション作家。「人と時代」「公と私」を共通テーマに政治・経済、医療、近現代史など分野をこえて旺盛に執筆。時事番組の司会、コメンテーターも務める。著書に『後藤新平 日本の羅針盤となった男』（草思社文庫）、『ゴッドドクター 徳田虎雄』（小学館文庫）、『原発と権力』『ドキュメント 感染症利権』（共にちくま新書）、『医療のこと、もっと知ってほしい』（岩波ジュニア新書）ほか多数。東京富士大学客員教授、デモクラシータイムス同人。



みんなが同じ方向を向くこと

ふだんから風通しのいい組織づくりをしておくことが大事だと感じました

——— 上原 さゆり

吉田病院、職員の疲弊とマネジメントの立て直し

山岡（司会）：北海道の吉田病院に派遣されて、最初にどのようなことを感じましたか。

上原：スタッフの方々は疲弊していました。クラスターは収まりつつあったのですが、精神的に疲れ切って、不平不満が溜まっていました。連続勤務、賃金や補償のこと、感染対策も指揮命令系統がうまく回っていない印象です。

渡辺：私たちが入ったのは、2つの病棟と1つのチームが合体した混成病棟。チームとしては寄せ集めで、上と下の回路がつながりにくい感じでした。

鴨田：私は少し遅れて加わり、岩手県の大学病院の看護師さんが先に派遣されていて関係構築ができていたので、スムーズに溶け込めました。心理的支援が大切だと思い、「いつでも何でも言ってください」ウエルカムの姿勢でスタッフには接しました。

上原：やはり組織のマネジメントの立て直しが重要ですね。みんなが同じ方向を向くこと。ふだんから風通しのいい組織づくりをしておくことが大事だと感じました。

山岡：医師と看護師の連携はスムーズでしたか。

鴨田：クラスターの発生で、継続的な指示が途絶えたのですが、慢性疾患の患者さんへの指示が止まっているのが気になりました。

渡辺：高齢の女性患者さんが「私の先生はいつくるんだい」とお聞きになるんですよ。毎日でなくてもいいから、先生がベッドサイドに顔を出してくれるといいんですけどね。

上原：九州から派遣された医師が、積極的に動いてくださったのはとても良かったです。クラスターが起きると、コロナ以外の患者さんのリハビリも止まってADL（日常生活動作）が下がるんですよ。「リハビリをできる人から始めたい」と言ったら、その先生の先導でリハビリが再開されました。

渡辺：風評被害などへの対策も含めて、組織的なコミュニケーションが欠かせませんね。

上原：毎朝、幹部の方々が連絡会議を開いていましたが、週に1回でもいいから、みんなが顔を合わせて話せる機会

を、こちらが提案できていたらよかったかもしれません。

鴨田：スタッフの愚痴の聞き役もしていたのですが、「そこはこうしたらいいんじゃないですか」と簡単な提案するよう心がけました。ハードルが高いと受け入れられませんよね。

山岡：応援に行く側が注意しておいたほうがいいことは何でしたか。

渡辺：現地で看護、業務の手順マニュアルが電子カルテの中に入っているとされたのですが、どこをどう検索すればいいかわからなかった。事前に確かめておいたらよかったと思います。

鴨田：オリエンテーションを開いてほしかったけれど、無理でした。情報をしっかり取り合って共有することですね。

上原：派遣された人が困ったときの相談窓口がどこか、窓口がなければ師長や係長に相談していいのか、確認しておいたほうがいいと思います。

大阪コロナ重症センター、容態の急変にどう対処するか

山岡：大阪コロナ重症センターは、大阪急性期・総合医療センターの敷地内に建てられたプレハブ平屋建て（約45m×約18m）の臨時医療施設です。30床すべてに人工呼吸器が配備され、患者の容態が悪化した場合は、隣の急性期医療センターでエクモ（体外式膜型人工肺）の治療が受けられるそうですが、重症センターの中はどうなっていましたか。

中島：入口にCT室があって初療室を兼ねてます。フロアに30床のベッドが均等に並び、男女の仕切りはありません。フロアの中心にガラス張りのナースステーションがあり、すべての方向から患者さんが見える。ベッド上にカメラが設置され、端の患者さんもモニターで確認できます。ナースステーションの正面、7つ程度のベッドに重症の患者さんがいて、回復すると端のほうに移動。ベッドの周りにはカーテン類はなく、可動式のパーテーションが入っているくらい。プライバシーを守るのは難しい。ポータブルトイレを使うのも、見えたり、音や臭いがしたり。それが患者さんのストレスでした。

福嶋：鎮静をかけた重症の患者さんは、全体の1～2割でした。意識がはっきりしている方のほうが多かったです。回

患者さんがいれば必ず役に立てる、どこでもケアは必要、行かないとわからない、健康なら飛び込んでみたらいい

——— 渡辺 常子



復して歩行訓練をする人が、重症で人工呼吸器をつけた方の目の前まで歩いてきたりする。できるだけパーテーションで覆っていましたが、プライバシーにはもっと配慮が必要だったかもしれません。

山岡：中島さんは2か月、福嶋さんは1か月の長期派遣でしたが、何が大変でしたか。

福嶋：新型コロナウイルス感染症の患者さんの急変リスクが高いことです。これまで、さまざまな呼吸器疾患に対応してきましたが、コロナは先の予測がしにくい。心電図波形などのモニタリングはいつも以上に重要だと思いました。酸素投与下で酸素飽和度が低いのに平然としていて急に悪化します。ドクターとの関係がよかったので、逐次相談して対応しました。

中島：日々、小さな変化にも気をつけました。たとえば、筆談ができていた患者さんが、ある日、突然、字が乱れて書けなくなる。一見、何も変わらず、バイタルサインも問題なし。でも、おかしいなと思ったので医師にレントゲン、CTを撮ってほしいと依頼しましたら、小さな脳梗塞でした。その治療も並行してやりました。コロナは血栓ができやすい。心筋梗塞や脳梗塞のリスクを実感しましたね。

山岡：重症者と回復者が一緒にいることは「下り搬送」の停滞とも受け取れます。回復者の一般病院への搬送は病床確保の面で非常に大切だと思いますが、なぜ滞るのでしょうか。

中島：センター独自の退院基準が「PCR検査で2回陰性」だったので入院が長引きがちでした。回復したら、元の病院にお戻しするのが基本原則ですが、なかなか受け入れてもらえない。地域性かもしれませんが、患者さんの自己主張は強い。気管切開をして声が出ない男性患者さんが、筆談で私たちに鬱憤をぶつけてきたりとか……。

福嶋：コーラ飲みたい、ビール飲みたい。いろいろなリクエ

ストがきます。みんなで話し合ってコーラは認めました。少しでもストレスを減らすためにです。

山岡：もし患者さんが亡くなったら、どう対応するのですか。
中島：重症センターには個室が2床あって、お亡くなりになったら、その1つに安置させていただきます。死後の処置が終わって個室に移っていただいた後、ご家族1名だけ、フル防護服で15分間お顔を見る時間を設けていました。

寄せ集めチームの役割分担、リーダーシップとは？

山岡：応援派遣は異なる看護文化との出会いであり、寄せ集めチームでの実践となります。その難しさはいかがでしたか。

中島：患者さんの容態が急変したとき、自分がリーダーだったのですが、寄せ集めなのでメンバーの力量がわからない。初めて会った人に何を任せていいのか判断がつきませんでした。仕事を頼んだけどできなくて……、結局、自分でやってしまいました。

上原：災害現場でも同じですが、とにかく「これできる人」と声をあげて答えてもらう。できなければ私がやると言って、情報共有できる雰囲気をつくるのが大切ですね。

中島：自分よりも経験のある方々に「できますか」と言うのも失礼だし……。センターには5年以上の経験、ICUで人工呼吸器管理ができるという勤務条件があり、技術面は心配なかったのですが、電子カルテの入力とか、呼吸器の扱い方、デバイス類の選択とか、ハード面の操作で、できる人、できない人がいて、聞きづらかったんです。

渡辺：私はキャリアの4分の1が看護師長で、定年を終えました。一通りできと思っていたけど、派遣の初日、腕が拘縮した患者さんの足からの採血が1回でできませんでした。



ふだんできていることは場所が変わってもできます
やったことのないことはできません

——— 鴨田 玲子



さまざまな症例を経験し、
全国から集まった方々との症例カンファレンスも
大変貴重な経験となりました

—— 中島 ひとみ

これではまずいと思い、自分ができること、できないことを
病院幹部に申し上げ、患者さんの身のまわりのケア、清拭や
おむつ交換などを主にやらせていただきました。

上原：できること、できないことの判断は重要ですね。

渡辺：一方で、管理をする師長の視点で言うと、看護師を
前もってグルーピングすること。ランク付けという失礼か
もしれないけど、区別は必要ではないでしょうか。

福嶋：力量で区別するのが難しければ、派遣元が送る人の基
準を明確にしていきたいです。東京都看護協会にははっ
きりした基準がありました。他の地域の看護師さんの基準
はやや曖昧でした。看護師2年目の人もいれば、ICUから10
年以上離れている、人工呼吸器扱ったのかなあ、という方
もいました。一生懸命がんばってくれるけど、本人が重圧を
感じますし、一緒にチームになるとやはり厳しいんです。

ロング日勤、給与体系、 ホテルと病院の往復生活

山岡：東京都内での勤務に比べ、派遣先では生活面で多く
制約があったでしょう。精神的、肉体的な疲労は蓄積しま
せんでしたか。

福嶋：センターは人員が充実していたので、精神的疲労は
感じなかったです。夜勤も一般の病院に比べると短いので、
肉体的な疲れもさほどありませんでした。

中島：私は、東京にはない「ロング日勤」がキツかった。朝
の8時半から21時までの勤務です。ふつうの日勤の人が17
時で帰ってから21時までの一番疲れる時間帯に受け持ちが
増える。重症者のICU管理は気も張っているし、集中してい
る上に負荷がかかります。精神的に辛かったですね。

自分の身は自分で守るしかない、意識を高く保ち、自分を守ってほしい
機会があればまた行きたいです。貴重な経験ができました

—— 福嶋 真優



山岡：待遇面で問題はありませんでしたか。

中島：私たちは東京都看護協会がバックアップしてくれて、
勤務形態や条件を理解して支援に行きました。しかし、他地
域から派遣された看護師の中には、勤務形態や給与の額を、
まったく知らずに来ている人が少なくなかった。実際、ふた
を開けてみたら、お給料に差がついて、看護のモチベーショ
ンに関わる問題になりました。

福嶋：お給料がいいので、お金を稼ぎにきましたという態
度の人もいて、そうすると患者さんへの意識にも差が出てき
ます。

中島：病院から派遣された人の中には、所属先の給与額だ
けで手当は全然つかず、過酷なコロナ業務をしているのに、
いつもよりも月収が少ないという方もいました。現実を知っ
て、早々に帰った方もいらっしゃいます。

——（東京都看護協会の事務局の説明）今回、派遣元は東
京都看護協会、大阪重症センターと大阪府との三者の契
約です。給料に関して、派遣元が自らの基準を適用して払い
ます。他の医療機関から派遣された人にはその医療機関の
基準で払われます。最終的に行政が補助金を出す。私ども
は補助金をもとに給料をお支払いしました。大阪府は、皆さ
んの貢献に応えようと、途中で補助金を増やしたので、当初
の提示額より上がりました。さらに私どもは危険手当もブラ
スしています。他の派遣元の医療機関が補助金をどう派遣
者に還元するかは、契約上、その医療機関の裁量に任されて
います。通常の給与で済ませたのか、あるいは後からボー
ナスの形で支払うのか、医療機関の考え次第です。

山岡：宿泊施設などの生活面では不便は感じませんでしたか。



中島：ずっとホテル暮らしで、毎朝、バスが迎えに来て15分
程度でセンターに着きます。仕事を終えてバスで戻る。毎日、
そのくり返し。毎朝、お弁当が1つ配られます。その他の2
食は、自分で用意。ホテルの部屋にはキッチンがないので、
近くのコンビニや、スーパーで出来合いの物を買ってきて食
べる日々でした。センターでは「節度ある行動を」と口酸っ
ぱく言われますから、外食に行くことはありませんでした。
休日でも人混みには出ず、ホテルで過ごす。ホテル暮らしが一
番のストレスでした……。

貴重な経験、 機会があれば、また応援に行きたい！

山岡：ご苦労もあったようですが、もう一度、派遣の打診を
受けたら、どうしますか。

福嶋：機会があれば、また行きたいです。貴重な経験がで
きました。重症センターでは、感染対策上、聴診器を使えな
くて、呼吸状態をラトリグ（痰の手掌振動）で確認したり、
呼吸パターンから読み取ったり。そういうアセスメントを経
験できて、とても勉強になりました。高度医療に取り組む医
師にも相談できて、経験値が高まったと思います。

中島：全国の大学病院のICUの師長さんや、いろんな認定
を持っている方々と、あれほどカンファレンスして症例を突き
つめたことは今までありませんでした。また機会があったら、
ぜひ行きたいです。肺結核とコロナの合併症や、人工透析、
脳梗塞などさまざまな症例を経験しました。救命できたケ
ースも多く、とても充実していました。

山岡：今、改めて派遣先で一緒だった方々にどんなメッセ
ージを送りたいですか。あるいは、これから応援に入る人には
何を言いたいですか。

鴨田：吉田病院の皆さんには、よくがんばられましたね、と
申し上げたい。マネジメントのほころびはあったにしても、よく
がんばった。あれだけのクラスターが発生し、当初は孤立
したけど、立て直されました。北海道の方の人柄かもしれ
ませんが、根が温かい。人を思う気持ちは強いので、それを安
全な医療、看護につなげてほしい。今後、医療機関の支援に
行く人は、現地の病院の文化を、まずは受け入れることが大

切です。そうしないと改善点が見えてこない。ふだんできて
いることは場所が変わってもできます。やったことのないこと
はできません。そのメリハリを意識しておくといいでしょう。

渡辺：吉田病院の方々には、働きやすい病院という原点を
忘れずにやってほしい。大変な経験をバネにいい病院にし
ていただければ、と思います。今後、どこかへ応援に行く人
には、患者さんがいれば必ず役に立てる、どこでもケアは必
要、行かないとわからない、健康なら飛び込んでみたいら
い、と言いたい。

福嶋：自分の身は自分で守るしかない、とお伝えしたいで
す。寄せ集めチームにはさまざまな意識の人がいます。意
識を高く保ち、自分を守ってほしい。

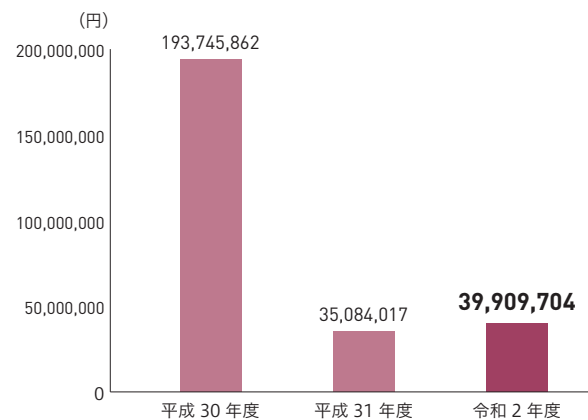
中島：センターで長く働いている人には、ストレスに負けな
いで、と伝えたい。公に禁止されてはいないけど、誰でも外
食したい、買い物に行きたい。食生活の乱れで肌も荒れる。
そこでストレスに負けて、はっちゃけたらおしまい。看護師
として働きたいのなら、自分をコントロールしてほしい。

上原：私たちが引き揚げた1週間後、詳細な報告書が吉田病
院のウェブサイトアップされました。すごく丁寧に書いて
あります。あの経験を今後活かそうという思いが伝わって
くる。感染症のチームリーダーだった副院長先生は、風評被害
で、訪問診療を断られても「こんなことで僕たちは負けない、
盛り返す」と断言されました。病院を頼って、通院する
人、入院してくる人がたくさんいます。地域で必要とされて
いる病院です。よく難局を乗り越えた。これから期待したい
です。



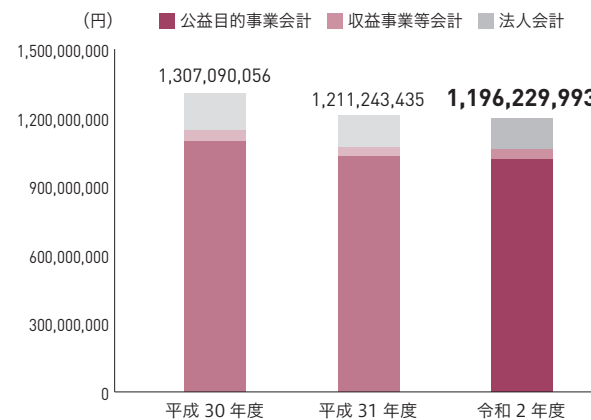
経常増減額の推移

39,909,704円



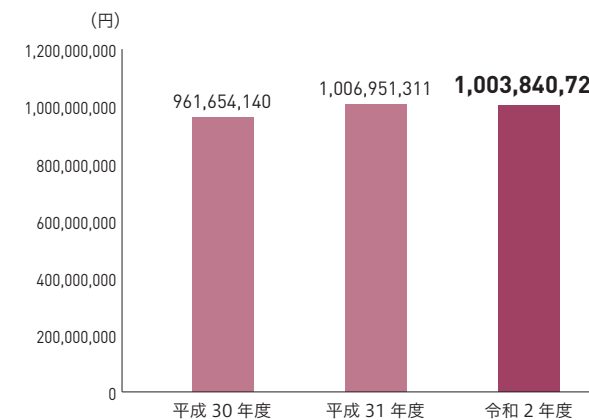
経常収益の推移

1,196,229,993円



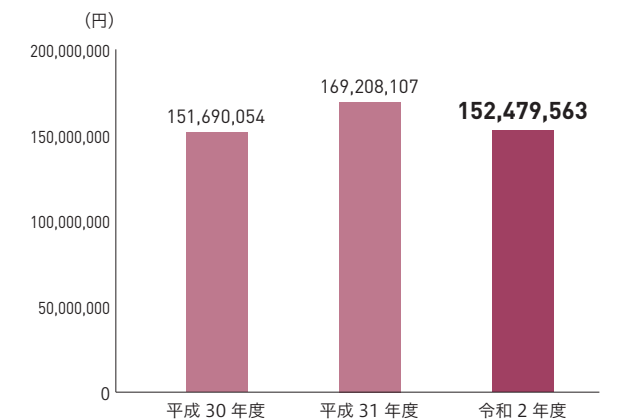
事業費の推移

1,003,840,726円



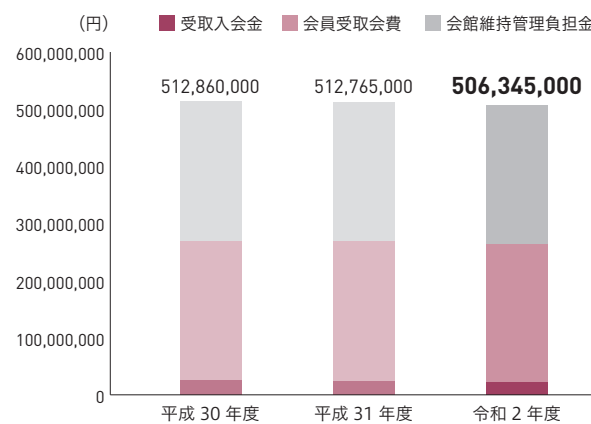
管理費の推移

152,479,563円



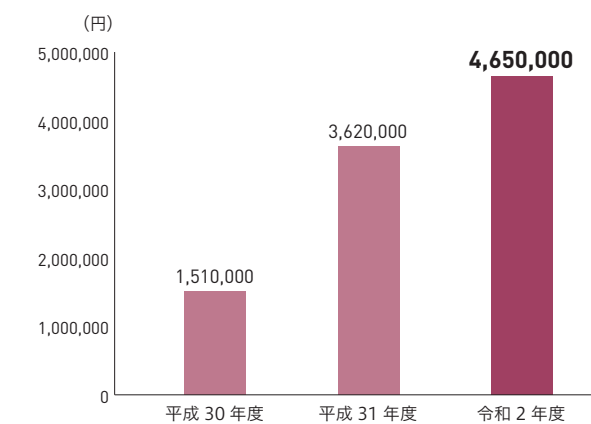
受取会費等の推移

506,345,000円



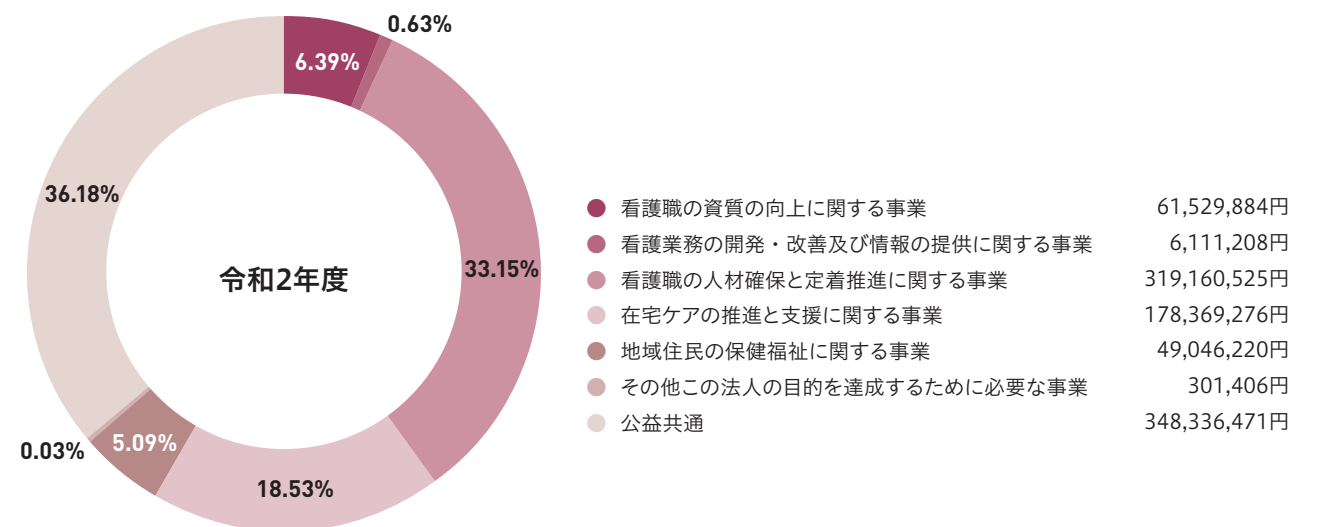
賛助会員受取会費の推移

4,650,000円



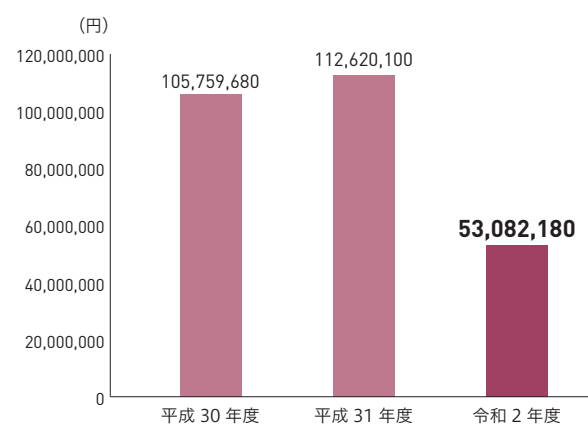
公益目的事業会計の事業費の内訳（定款事業別）

962,854,990円



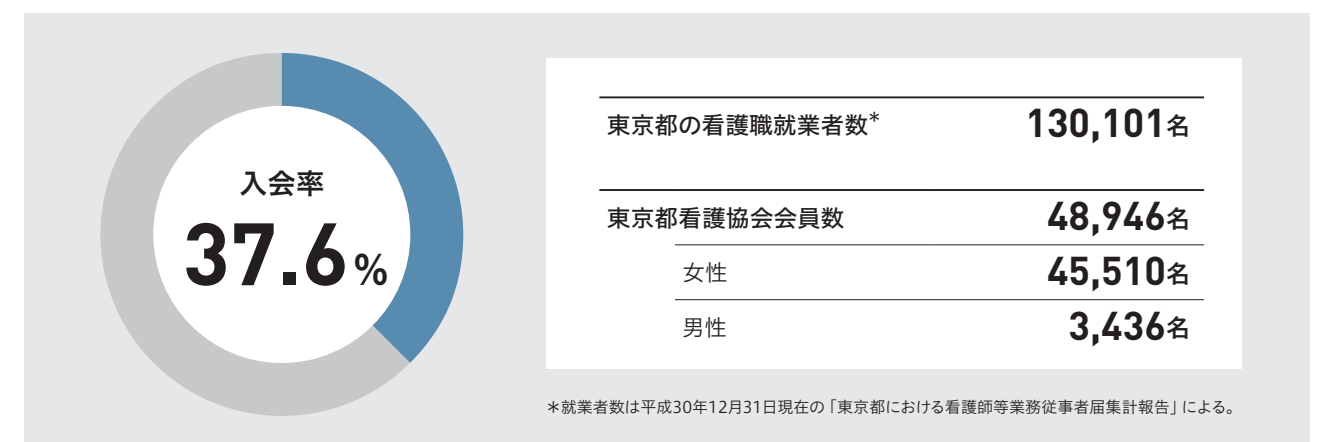
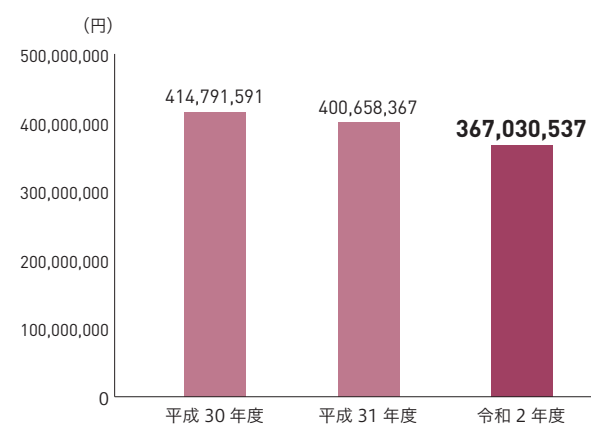
研修等事業収益の推移

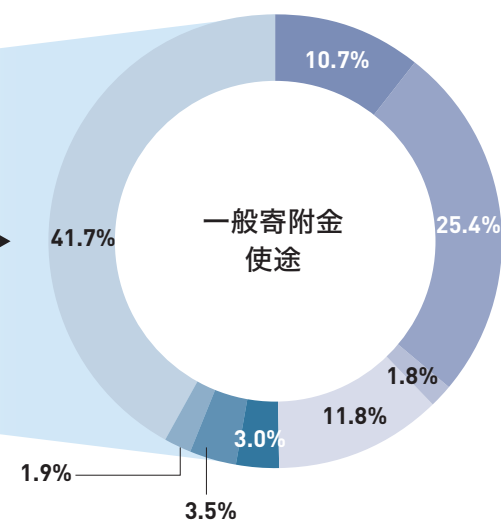
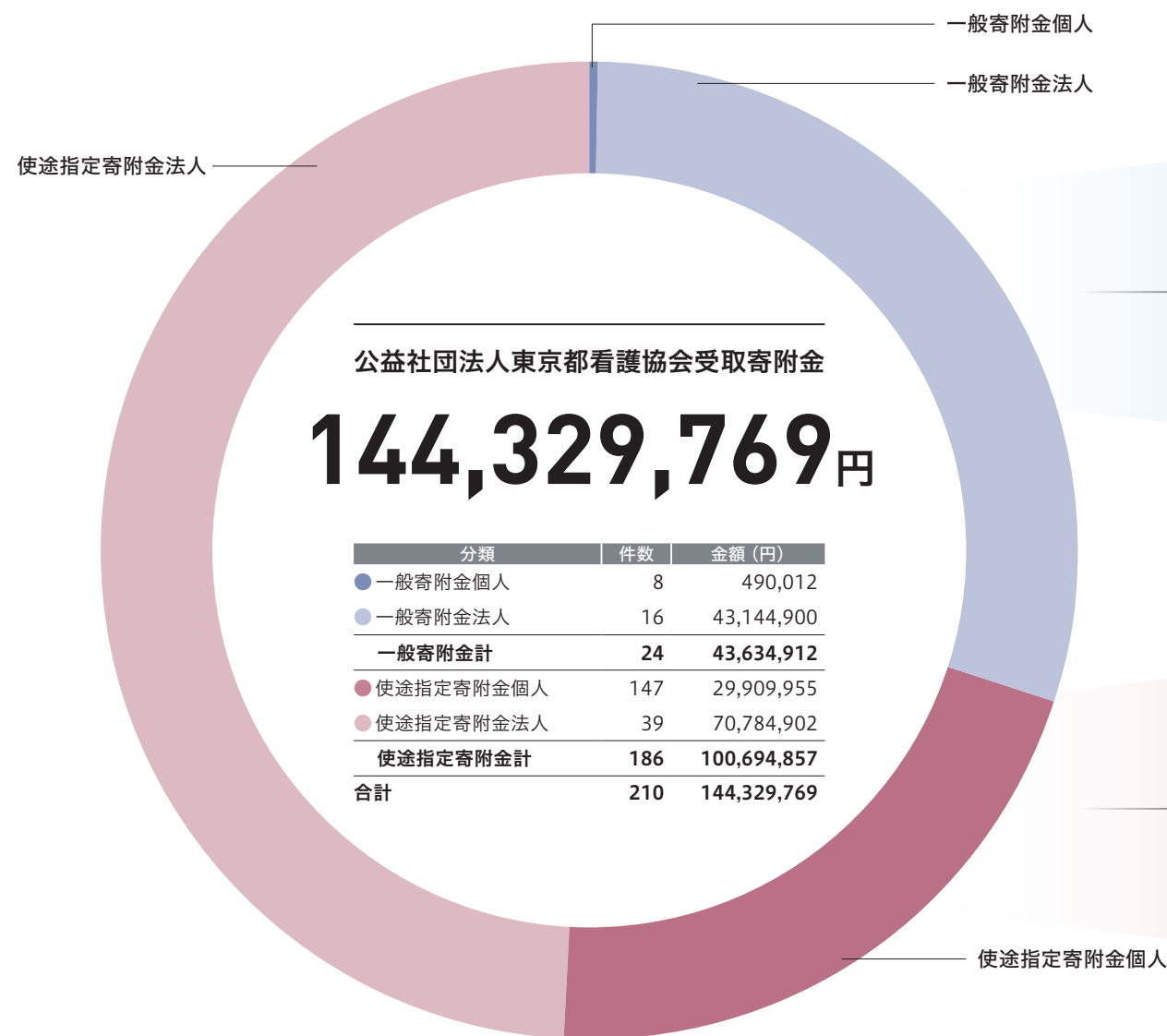
53,082,180円



受託収益の推移（東京都等受託事業）

367,030,537円



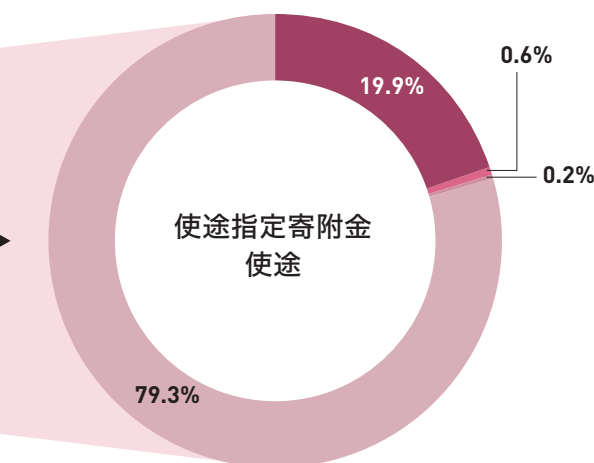


一般寄附金

43,634,912円

使途

医療物資無償提供関連費用	4,680,236円
感染対策指導者研修、ワクチンセミナー費用	11,098,448円
新型コロナウイルス感染症情報提供関連費用	790,839円
子育て支援感染症対策関連費用	5,163,938円
新型コロナウイルス感染症調査研究関連費用	1,311,960円
協会感染対策・研修環境整備関連費用	1,548,883円
オンライン研修環境整備関連費用	837,210円
新型コロナウイルス感染症対応人件費	18,203,398円



使途指定寄附金

100,694,857円

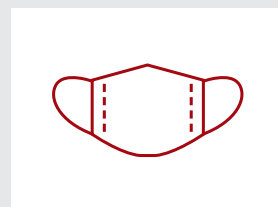
使途

医療物資無償提供費用	20,021,300円
看護職広域（都外）派遣調整費用	589,061円
東京都内医療機関看護職応援派遣費用	249,238円
令和3年度支出予定	79,835,258円

寄附物品無償提供

1,301件

不織布マスク
241,550枚



N95マスク
28,100枚



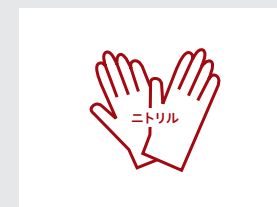
ガウン
8,483枚



グローブ
286,800双



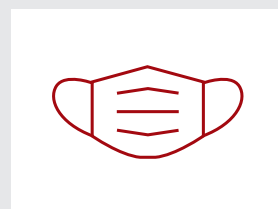
ニトリル手袋
12,000双



非接触型体温計
40個



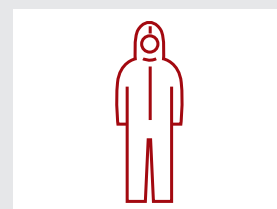
サージカルマスク
276,450枚



フェイスシールド
3,308個



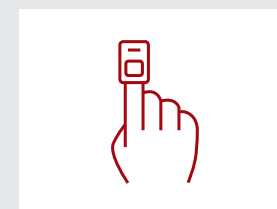
防護服
1,074枚



プラスチック手袋
313,200双



パルスオキシメーター
350個



消毒用アルコール
300本



教育部



常務理事
大橋 純江

令和2年度の振り返り

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、5月からスタートの実務実践研修と認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」の研修はすべて中止しました。しかし、重点事業である継続教育の機会を確保するため、オンライン研修の導入を全方位的に、かつ短期間で進め、6月開催の研修からハード・ソフト面でオンライン開催の環境を整え、速やかに開始しました。その後も、東京都の感染状況に応じ対面研修も柔軟に再開しました。

研修内容の質的な担保はもとより、集合型研修で重要な学びとなる、グループワーク、ディスカッション、受講者同士の交流を実現するため、Web会議ツールのチャット機能、ブレイクアウトセッション、オンラインでの資料共有等を活用して研修プログラムを構成しました。研修後のフォローアップも実施することで、より現場での実践力を高めることができる研修を提供できたと考えています。

また、例年約1,700名の看護学生が集合する「看護学生看護研究学会」や300名を超える看護職が参加する「看護研究学会」も、感染症の収束が見えない中、オンデマンド配信やWeb/Liveでのオンライン開催を余儀なくされました。オンライン開催は事前準備や環境整備等新たに必要な中、教育部のみで運営できたことはスタッフの自信にもつながりました。看護学生、看護職が一堂に会して交流、議論できる学会の魅力を維持するためにも、オンライン配信のメリットやデメリットを評価し、危機的状況下での開催方法を検討してまいります。



事業概要

1 研修事業

- ・実践実務能力の向上に関する研修
- ・実務実践マネジメント能力向上に関する研修
- ・外国語対応可能な人材の育成

2 学会開催

- ・看護学生看護研究学会
- ・看護研究学会

3 看護職の資質向上

- ・諸外国看護職能団体との交流

4 看護研究

- ・看護研究活動支援
- ・看護研究倫理審査
- ・東京都看護協会学会誌発行

5 医療安全推進

- ・医療事故調査制度支援団体としての活動
- ・医療安全相談窓口紹介
- ・医療安全関連情報提供

6 図書室の運営

令和3年度主な事業計画

1 看護職のキャリア向上のための継続教育支援

- ・看護実践研修54、教育・指導研修11、マネジメント研修34、合計99研修を開催予定
- ・その他、「看護職等キャリアアップ支援事業－特定行為の推進のための研修－」(東京都受託事業)

2 マネジメント研修の充実

- ・看護職のマネジメント能力向上を目指す
- ・新規研修として、ラダーレベルにかかわらずマネジメントを学びたい方に向けてマネジメントスキルの4コンテンツをeラーニングにより実施

3 研修でのICT活用

- ・理解を深め教育効果が上がることを目的に、さまざまな情報機器を研修に取り入れる

令和2年度研修等実績

(単位：日、名)

	研修開催数	定員	応募者数	受講者数	延べ数
教育部主催研修	106	4,981	3,697	2,939	7,924
実務実践	76	3,521	2,293	1,912	2,889
職能委員会	5	400	205	191	191
地区支部	11	510	493	425	425
認定看護管理者	3	150	168	136	3657
受託事業	3	240	383	222	222
外国語	8	160	155	53	540
委員会主催研修	3	240	168	156	478
人材確保/定着事業	2	580	323	252	322
受託事業研修	5	896	790	652	1,500
地域住民/委員会	17	2,317	2,187	1,030	1,085
総計	133	9,014	7,165	5,029	11,309

※延べ数(名)：研修実施日数に受講者数をかけたもの。「研修開催数」≠「研修実施日数」

現場のニーズに即した研修実施のために 研修に参加することで、業務の課題達成や改善、 視点を変えるヒントにしてほしい

東京都看護協会では毎年、さまざまな視点から看護職の皆さまに向けて主に実務に役立つ100を超える研修を実施しています。今後、より充実した内容の研修をお届けするために、現場では東京都看護協会の研修がどのような形で活用されているのか、多摩南地区理事であり、榊原記念病院の主任看護部長を務める池亀俊美氏と当協会常務理事大橋純江が語り合います。



常務理事
大橋 純江

多摩南地区理事
池亀 俊美



東京都看護協会が発信している研修は
常に最新でスタンダード、質が担保されている

——— 池亀 俊美 多摩南地区理事



自分が学んだことを人に伝えることによって、
さらに深く知識として習得できる

——— 大橋 純江 常務理事

看護職のキャリアアップに特化した 研修が充実

大橋：今日はありがとうございます。池亀さんご存じの通り、東京都看護協会では「看護師のクリニカルラダー」（看護師の能力開発・評価システム）を意識した講座をはじめ、会員の皆さまのニーズに対応した実務実践の研修を企画しています。

以前、会員さまに向けてニーズ調査を行ったところ、ご自身の施設ではできない企画をチョイスしているという声が多かったんですね。そこで、改めて現場ではどんなニーズがあるのか、また、研修の内容を現場でどのように活かされているのか、池亀さんにお話しただけたらと思い、お越しいただきました。

池亀：ありがとうございます。まず、榊原記念病院の現状をお話すると、看護職は約350名、新卒看護師は昨年、今年ともに50名ずつ採用しています。当院でもクリニカルラダーを取り入れた研修を組んでいて、一定の要件を満たさなければ次のラダーには進めないというルールを設けています。

ただ、当院は循環器専門の単科病院ですので、専門看護師や認定看護師がそれほどいないこともあり、研修を組

む上で難しさを感じています。企画立案やどんな方に講師をお願いするかということも悩みますし、予算にも限りがあります。また、もともとお仕事がある方たちに講師をお願いしているので、日程調整も難しいですね。

大橋：単科病院では、どうしてもラダーを網羅するのは難しいですね。

池亀：はい。循環器に関することだけでしたらなんとかあるかもしれませんが、看護について全般的に学ぶとなると、非常に難しいですね。特に当院は、マネジメント面が弱いと感じています。そこで、すべてを内部でまかなうのではなく、いろいろなリソースを活用しようと、東京都看護協会や日本看護協会の研修を取り入れています。

大橋：当協会の研修を受講された方が、研修内容を現場へフィードバックすることはありますか？

池亀：ええ、そういうこともあります。実地指導者の研修については、院内で設けている新人教育研修委員会の委員長や副委員長に受講してもらい、学んだ内容を委員会で共有しています。

大橋：自分が学んだことを人に伝えることによって、さらに深く知識として習得できますよね。例えば、お昼のミーティングのときに手短に、「こんなことを学んできました」と皆さんに共有し、投げかけをしてもらう。ご自身のレベルアッ



経験値だけではマネジメントはできない

—— 大橋 純江 常務理事

ブはもちろん、学ぶことに対して消極的な看護師さんにとってもよい刺激になるのではないかなと思っています。

池亀：単科病院かつ、公益財団法人である当院は、連携している病院があるわけでもなく、そのままにしているといういろいろな情報から取り残されてしまいます。やはり、東京都看護協会が発信している研修は常に最新でスタンダード、質が担保されているので、どんどん活用していきたいですね。

日々の課題解決としての「看護研究」やマネジメント研修

大橋：東京都看護協会では毎年、受講された方の評価やフィードバックをもとに教育委員会の方々と議論し、次年度の研修を組み立てています。傾向としては、20～30代の若い世代には、データをどう読み解くかといった実践的な研修の人气が高くなっています。30～40代の方には指導をテーマにした研修、40代以上の方になるとマネジメント関連の研修を受ける方が多くいらっしゃいます。皆さん、ご自身の状況に合わせて必要なテーマを選択されているようですね。一方で、実践の検証など「看護研究」についてですが、現場での看護研究の取り組みはいかがですか？

池亀：私たちも現場のニーズや、研修後の評価などの仕組みは取り入れています。やはりニーズが高く、こちらとしても推進しているのは病気や治療に関する研修ですね。看護研究については当院でもなかなか難しくて……。認定看護師以外は必須にはせず、自主性に任せているのが現状です。

大橋：研究的な取り組みは看護職の日々の業務には関係

ないと考える方もいらっしゃるようですが、基本的には問題解決、課題達成法なのですね。ひとつの現象に対して課題を発見し、それをどう解消すればスタッフが働きやすくなり、患者さんにとってよい状態になるかを考えるプロセスだと思うのですが、「研究」という言葉が付くだけで拒否反応を示されてしまうのも事実です。

池亀：そうですね。「研究」というだけでアレルギー反応を示す方も多いと思います。

大橋：ただ、こうした観点で看護を展開しないと、看護職の質を担保するのは難しいと思うのです。研修に参加することで、日々の業務の課題達成や改善、視点を変えるヒントが得られたら理想的ですね。物事をポジティブに捉えられる方であれば看護研究に対してもポジティブに取り組めると思いますが、ただ患者さんをケアしていればいいという考えの方だと、なかなか意識改革ができないのかなと思います。

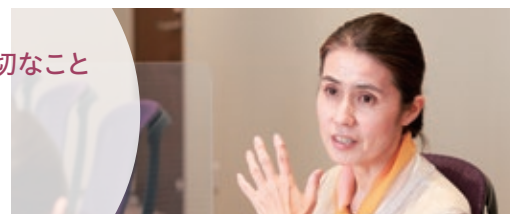
池亀：ええ、そういう方だと看護実践はできても研修では企画力が弱かったり、一定の人数を相手に教えることが難しかったり。当院も管理者育成やマネジメント面で大きな課題を抱えています。

大橋：マネジメント面の課題を抱えているのは池亀さんの病院だけではないと思いますよ。私は、スタッフを活かすも殺すもマネジャー次第だと考えています。予測できないトラブルはたくさん起こりますし、看護の仕事現場は常に有事です。こうした状況の中で、いかに早く問題解決するか、あるいは、事が起こる前に気づいて回避するか。リスクマネジメントができるマネジャーの存在はとても重要です。

マネジメントスキルの中でも池亀さんは、今一番、何が重要だと考えていますか？

研修先でいろいろな施設の方々と交流するのは非常に大切なこと
職場以外の人間関係を築くことも現場で役立つ

—— 池亀 俊美 多摩南地区理事



池亀：スタッフを支える力、人を支える力をつけてもらうにはどうすればいいかということでしょうか。コミュニケーションやコーチングなども研修に取り入れてはいるのですが。

常に現場をモニタリングして、スタッフや患者さんの様子を見ながら起きている事象を見て、分析し、改善していく……、というPDCAサイクルを回すためにはどうしたらいいか、頭を悩ませています。

大橋：よくわかります。私がよくマネジメント研修で申し上げているのは「経験値だけではマネジメントはできない」ということです。分析するためには手法が必要であり、それはやはり学ばないと身につかないもの。研修を通して、現場で働く一人ひとりが業務に注力できるようにマネジメントできる人が育ってほしいなと思います。

IT化推進

デジタルネイティブではない世代にこそ、親しんでほしい

大橋：ひとつ、アピールしたいこととして、東京都看護協会では2年前からIT化を進めています。手書きだったアンケートをオンラインで簡単に回答し送信できるようにし、令和元年にはタブレット端末を40台導入しました。特にITに対して苦手意識が強い年齢層が多いサードレベルの受講者に使っていただき、あらゆる面で優れたマネジャーになってもらいたいという狙いもあります。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、東京都内にある病院の8割を占めるとされる200床未満の小規模病院が大打撃を受けました。こうしたことを防ぐためにも、まずは師長、副師長クラスの方に、ファーストレベルの研修から受けていただきたいと思います。

池亀：必要なことだと思います。認定看護管理者向けの公開講座は、当院のスタッフに意図的におすすめしてきました。**大橋：**ありがとうございます。業務が忙しくて研修に行く時間がないという方も多くいらっしゃいます。そこで次年度からの新たな試みとして、マネジメントスキルのeラーニングを導入します。

また、フィジカルな研修については、帰宅途中に復習し



ていただけるような理解度テストのようなコンテンツ配信も予定しています。

池亀：時代に沿ったプログラムですね。研修一覧を見ると、私自身も受講したいと思うものがたくさんあります。

大橋：そう言っていただけるとうれしいです。池亀さんから東京都看護協会に対してご要望はありますか？

池亀：どの分野にしても最新のものが学べる場所であることや、時代を先読みできる知見があるといいなと思います。今でしたらサステナブル（持続可能）など、社会の動向に合ったテーマにも興味があります。オンラインは魅力的なので、今後もぜひ継続していただきたいのと、オンデマンドも充実していくといいですね。

大橋：オンライン研修は令和2年5月からスタートし、オンデマンドも今年度中には実施できるよう準備を進めています。ただ、対面での研修も続けていきたいですね。

池亀：ええ、研修先でいろいろな施設の方々と交流するのは非常に大切なことですので、すべてをオンラインにする必要はないと感じています。ここぞというときには集まって、その場所での人間関係を築くことも現場で役立つと思っています。なんといっても東京はアクセスのよさも魅力ですよ。今後も対面研修を活用したいです。

大橋：貴重なご意見をありがとうございます。今後も、現状に満足せずに、看護職の皆さまのニーズに対応できるさまざまな研修を実施していきますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

事業部



常務理事
黒田 美喜子

令和2年度の振り返り

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、各種研修や両親学級、看護フェスタ等の開催方法をオンライン開催にするなど、事業実施体制を大幅に変更しました。

実施にあたっては、協会内及び関係機関と十分な協議を重ね、オンデマンド講義やWeb会議システムを活用し、各事業のオンライン開催を実現しました。当初、オンライン開催はハードルが高いと感じていましたが、実施してみると「移動時間もなくて参加しやすかった」等の意見が多く寄せられ、回を重ねるごとにトラブル対応も減少しました。円滑な運営と研修の質の担保に配慮しながら取り組むことで、事務局のITリテラシー向上につながり、今後の事業展開にも好影響を与えていると考えています。

次年度も各事業の開催については、感染状況に応じてオンラインと集合研修を併用しながらニーズに合った内容を検討し実施していきます。

訪問看護ステーション事業は、独居の方の在宅看取り、土日や遅い時間の対応、エリア拡大などを行い、ニーズに応えることができました。また、訪問看護事業でリハビリの強化もあり、訪問件数が増加しました。教育ステーションは、新型コロナウイルス感染症の影響で受講者数増加はできませんでしたが、研修生の満足度は高いものとなりました。次年度も、各ステーションの地域特性に合わせた質の高いケアの提供と教育ステーション事業を確実に遂行していきます。

事業概要

- 地域住民の健康支援
- 地域包括ケアシステム構築の推進
- 次世代育成事業
- 訪問看護・居宅介護支援事業



※常務理事の黒田は令和3年6月退任



主な取り組み

- 両親学級
- すくすく広場
- 出前事業
- 都民健康講座
- 看護フェスタ
- 感染症予防対策事業
- 高齢者・福祉関連施設の看護の充実とネットワークづくり
- 准看護師交流及び情報提供

令和3年度主な事業計画

- 妊産婦支援
 - ・地域の助産師への支援
 - ・妊娠・分娩・出産に係る施設の看護職・管理者の情報交換会の開催
 - ・新型コロナウイルス陽性妊婦に対する家庭訪問時の対応についての研修会開催
- 子育て支援事業
 - ・両親学級名称変更「プレファミリー」講座 テキスト刷新
- 保健所支援
 - ・感染症予防対策事業 第3回東京都会計年度任用職員育成研修（東京都受託事業）
 - ・新宿区保健所への支援（在宅陽性者の健康観察）
- 在宅ケアの推進と支援に関する事業
 - ・入退院時連携強化研修事業（東京都受託事業）
 - ・訪問看護人材確保事業（東京都受託事業）

参加者と一緒に作り上げる「プレファミリー講座」 子育て支援委員会が参加者に寄り添うこだわりとは

子育て支援委員会は保健師、助産師、看護師が一体となり、地域住民向けの「プレファミリー講座（旧両親学級）」や「出前授業」を開催するなど、さまざまな形で子育て支援、次世代育成に関する事業を行っています。

令和3年6月5日、委員の皆さんによる活動報告会が開催されました。各事業紹介や、コロナ禍における支援活動、これからの展望について情報を共有しました。



委員長
大久保 嘉子



委員
今井 洋子



委員
尾高 大輔



常務理事
黒田 美喜子



事業部
秋野 たみ子



事業部
佐々木 祥子

助産師職能委員会からスタートした 子育て支援委員会

佐々木：まずは、東京都看護協会における子育て支援委員会の位置づけについてお聞かせください。

黒田：東京都看護協会では、地域で働く看護職の方々の支援と都民の健康に関する普及・啓発の2つを軸に活動を展開しています。

中でも子育て支援委員会は、都民の健康に対する普及・

啓発の面で大きな役割を果たしています。特に令和2年度はコロナ禍において、多くの病院や産院で両親学級が中止された中、オンラインを通じて子育てに関するさまざまな情報を提供してきました。

佐々木：ここで改めて、子育て支援委員会の経緯について、お聞かせいただけますか。

秋野：子育て支援委員会は、私が助産師職能委員会の委員長を務めていた平成8年、当時の副会長からの「もっと地域住民に貢献する活動をしよう」という提案をきっかけに、助産師職能委員会の活動として立ち上がりました。

平成8年の立ち上げ当初、初年度わずか44組の参加でしたが、
今では年間600組を超える申し込みがあります

——— 事業部 秋野 たみ子



その年の9月から原宿（現日本看護協会）の研修室で両親学級を始めました。助産院や保健所、クリニックなどにポスターを配り、貼ってもらったのですが、当初はなかなか人が集まらず、初年度の参加はわずか44組だけでした。

その後、少しずつですが、皆さんに知っていただけるようになり、平成26年頃からは年間600組を超える申し込みがあります。当初は5名の職能委員が交代で運営していましたが、令和元年からは保健師、看護師の方も加わり、子育て支援委員会として独立しました。現在は、多くの子育て支援協力員の方々にもご協力をいただきながら活動

を進めています。

両親学級以外にも、生後3か月～1歳3か月のお子さんを対象とした子育て支援イベント「すくすくフェスタ」を年に1度開催していました。令和元年からは、対象年齢を就学前の子どもまで広げて「すくすく広場」として、広く健康や子育てに関する講演、個別相談などを行っています。また、令和3年4月から、両親学級もさまざまな家族形態に対応し、多様化する家族と子どもを支援できるよう、「プレファミリー講座」と名称を変更し、シングルマザーや婚姻関係ではないパートナーも参加できるようになりました。



多くの病院や産院で両親学級が中止された中、
オンラインを通じて子育てに関するさまざまな情報を提供

——— 黒田 美喜子 常務理事

カメラに向かって話すことも難しくて。本当に毎回、反省の連続でした
この1年、思い出せないくらい大変でしたが、続けてよかった

——— 大久保 嘉子 委員長



この他にも、子育て支援委員会主催で、小・中学校、高校に出向いて、いのちの大切さなどを伝える「出前授業」や、子育て支援委員、協力員のスキルアップにつながるような勉強会を行っています。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、 試行錯誤しながらもオンライン配信を導入

佐々木：これまで関わってこられた先輩方のご苦労がうかがえます。

さて、令和2年度はコロナ禍において活動をするためにさまざまな工夫や対応が求められたと思います。活動を振り返って、いかがでしたか。

今井：令和2年4月に緊急事態宣言が発出され、このまますべての活動が止まってしまうのではないかと心配しましたが、両親学級は6月からオンラインでの開催に踏み切りました。誰もが不慣れでしたので、初めの頃は声が小さい、見えにくいなど厳しいご意見もたくさんいただきました。参加者にはご自宅にある人形を使っていただき沐浴指導を行うなど、手探り状態でしたが、毎回工夫を重ねてアップデートをしていき、ようやくオンラインでありながらも「参加してよかった」と言っていたできるようになり、一体感がある両親学級ができるようになりました。

大久保：今まで対面での指導しか経験がなかったので、カメラに向かって話すことも難しくて。本当に毎回、反省の連続でした。委員からは「動画配信でよいのでは」という声もあがりましたが、ライブ配信にこだわりました。その背景には、コロナ以降、産後にメンタルの不調を訴えるお母さんたちの声が以前より増えたことにあります。私を含

め、子育て支援委員や協力員の方々はそれぞれ勤務先でもとても大変な状況だったと思いますが、とにかく子育てに悩んでいるお母さんやお父さんのために何かしたい、直接コミュニケーションを取ることで、少しでも不安の解消につながれば……という思いで活動をしていました。この1年、思い出せないくらい大変で途中もうダメかも、と思うこともありましたが、事務局の皆さんにも支えられ、本当に続けてよかったと感じています。

佐々木：沐浴の様子が参加者によく見えるよう、カメラアングルを変えたり、ベビーバスの下にタオルを入れて角度をつけてベビーバスの中が見えるように工夫したり、本当に試行錯誤でした。参加者の方のために情熱を持って取り組んでくださって、ありがとうございました。

すすく広場はいかがでしたか？

尾高：すすく広場は令和元年に始まったばかりで、ベースがまだ固まらないままオンラインとなったので、はじめはどうなることかと不安でした。結果としては、看護師による事故予防の講演や栄養士による調理実習など幅広いテーマで展開ができたと自負しています。

一方で、いまだにオンライン上でのやりとりの難しさを感じています。というのも、ライブ配信中に参加者のビデオがオフになっていると、こちらとしては、やりにくいと感じてしまうのです。画面が真っ黒のところに話しかけるといことに、最初はなかなか慣れることができませんでした。しかし、お子さんが泣いているからビデオやマイクをオフにしていたり、授乳などさまざまな状況の中で参加してくださったりという方もいることがわかってきました。そもそも、小さいお子さんを連れての外出は大変ですから、今後でも対面とオンラインを併用した“ハイブリッド”のすすく広

ぜひ男性の看護職の方にも加わっていただけたらと思っています
「医療現場に、お医者さん以外にも男性がいるんだ」ということを知り
これからの世代が看護職を目指す道が広がったらうれしい

——— 今井 洋子 委員



場もニーズがあるのではないかと感じています。

佐々木：すすくフェスタ2020では動画配信も取り入れていましたね。

尾高：はい、台本から手がけたので、まるで一本の芝居を仕上げるような気持ちでした（笑）。今はライブ配信と同じように、動画配信にもメリットを感じています。せっかくですから、これまでに撮影した動画をアーカイブ化し、より多くの方に届けたい、東京都看護協会のウェブサイト上などでいつでも見られるようになったらいいなと思っています。

佐々木：それはよいアイデアですね。出前授業もオンライン開催となりましたが、いかがでしたか？

今井：令和2年度は駒沢学園女子高等学校のみの開催でした。オンライン開催で生徒さんの顔を一切映さないことが条件だったので、本当に伝わっているのかな……と不安でしたが、終了後の感想や質問の内容がとてもしっかりしたもので感動しました。表情が見えなくても伝わるのだと手応えが感じられてうれしかったです。

臨機応変に対応しながら、 子育て支援の継続を

佐々木：令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が続いています。令和2年度の活動を踏まえて、次年度の取り組みについてお聞かせください。

大久保：ワクチン接種が進んでいるとはいえ、子育て世代に順番が回ってくるのはまだ先になるでしょう。まだまだ看護協会会館での開催は難しく、プレファミリー講座はオンライン開催が続くと思います。私たちもようやく慣れてきたので、次年度はさらに研究、改善を重ねながら、継続し

ていきたいです。

尾高：次年度のすすく広場は、すでに日程や内容が決定しているので、それに合わせて準備を進めていきます。1、2回目はオンライン講義を計画しているのですが、今後の感染状況によっても内容が変わってくるかと思いますが、まずは無事に開催することを目指したいと思っています。

今井：出前授業は、すでにご依頼をいただいています。日頃、出会う機会が少ない世代に伝えることの難しさや課題はありますが、ぜひ男性の看護職の方にも加わっていただけたらと思っています。学生の皆さんが「医療現場に、お医者さん以外にも男性がいるんだ」ということを知り、興味を持ってもらうことで、これからの世代が目指す道が広がったらうれしいですね。

大久保：学習会もオンライン開催が中心になるのでしょうか。総論を学ぶだけでなく、ポイントを絞って開く講座にもニーズがありそうです。

尾高：私はお父さんの支援にも力を入れたいと思っているんです。いずれ対面で集まれるようになったら、プレファミリー講座やすすく広場で「パパ会」を開催したいです。

佐々木：対面だとちょっと聞いてみようかな、と声をかけやすいかもしれませんね。

ハイブリッドでの講座開催の検討や、これまでに撮った動画の公開など、前向きな課題がたくさんあります。委員会の皆さんのご負担が増すばかりですが、事務局もがんばりますので、本年度もよろしくお願いいたします。

一同：実はみんな、楽しみながらそれぞれの活動に取り組んでいます。これからもがんばっていきましょう！

動画配信にもメリットを感じています。
これまでに撮影した動画をアーカイブ化し、より多くの方に届けたい

——— 尾高 大輔 委員



ハイブリッドでの講座開催の検討や、
これまでに撮った動画の公開など、前向きな課題がたくさんあります

——— 事業部 佐々木 祥子



東京都受託事業

東京都ナースプラザ



東京都ナースプラザ所長
佐藤 浩子

令和2年度の振り返り

令和2年度はコロナ禍の影響を大きく受けました。

研修事業は研修会定員を見直し、6月以降、東京都のガイドラインに沿った感染拡大防止対策を実施しながら研修会を開催しました。8月以降、長期研修の一部にオンライン研修を導入し、1月の緊急事態宣言下では、ほぼオンライン研修に変更しました。

復職・定着事業は事業の開始が例年より2～3か月遅れてのスタートとなりました。また、感染回避目的で活動が抑制され、参加病院数・研修受講者数・保健医療圏会議の実績は減少しましたが、復職支援研修では、受講者の就業率は上昇、アウトリーチ型支援ではZoomを用いたサテライト研修を開催し、地域ネットワークの活発化を図ることができました。

普及啓発事業では、「一日看護体験学習」を中止した代わりに、感染症対策を講じた上で、高校生対象の「一日看護体験セミナー」を開催しました。

ナースバンク事業では、コロナ禍でも就業による支援を申し出た看護職を「コロナ支援者」として登録しました。また、緊急に看護職を必要とする医療機関や行政の求人を「コロナ特化求人」として「eナースセンター」の他にナースプラザホームページの特設コーナーにも掲載し、その都度「コロナ支援者」へ一斉メールを送信するサービスも実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響は次年度も続くと予測されるため、オンライン研修の開催は必須と考えています。研修事業については大幅な研修計画の見直しを行い、就業支援研修の他、定着促進研修として看護職キャリア継続を支援する研修を開催します。復職支援研修は病院体験コース・施設体験コースに再構築され、アウトリーチ型支援は支援施設規模を拡大してネットワーク研修も行っていきます。

ナースバンク事業は、次年度も、新型コロナウイルス感染症に関連した看護職の確保への対応は継続して求められるため、迅速に細やかな対応を継続していきます。

東京都は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、医療施設等に従事する看護職員を確保するため、「東京都ナースプラザ」を設置しています。公益社団法人東京都看護協会は運営を受託して、離職中の看護職の再就職相談やあっせん、再就職に役立つ研修、看護についての普及啓発活動を行っています。

事業概要

東京都内で看護業務に従事する看護職員の質・量を確保する

● 就業の促進

- ・ ナースバンク事業
- ・ 看護職員地域確保支援事業

● 定着の促進

- ・ 研修事業
- ・ 看護職員定着促進支援事業

● 普及啓発の推進

- ・ 普及啓発事業



主な取り組み

● ナースバンク事業

- ・ 求人求職相談の充実による就業促進
- ・ 看護職員地域確保事業との連携強化による再就業・定着促進
- ・ 多様な働き方を支援する取り組みの推進

● 研修事業

- ・ 就業意欲を高める研修の充実
- ・ 資質向上のための研修の充実
- ・ 定着促進への研修科目・内容の充実

● 普及啓発事業

- ・ 一日看護体験学習実施
- ・ 情報誌「やっぱり看護が好き」発行
- 看護職員地域確保支援事業
 - ・ 復職支援研修「手厚くしっかり体験コース」
 - ・ 復職支援研修「気軽にさくっと体験コース」

● 看護職員定着促進支援事業

- ・ アウトリーチ型定着促進（中小病院巡回訪問）の実施
- ・ 集合研修型定着促進支援
- ・ 勤務環境支援センターとの連携

令和3年度主な事業計画

● ナースバンク事業

- 研修事業
- 普及啓発事業
- 看護職員地域確保対策事業
- プラチナナース就業継続支援事業（新規事業）

看護職支援と確保という使命に向けて、 サービス向上と事業の拡充に努めていく

東京都ナースプラザでは、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づく看護師確保事業を東京都から受託し、看護職の就業促進や看護の魅力を伝える普及活動など、さまざまな事業を展開しています。
今回はナースプラザ事業に携わる職員が令和2年度の活動や、新たに始まった取り組みなどについて振り返りました。



(写真左から) 滝口 珠子 研修係長、佐藤 浩子 東京都ナースプラザ所長、高島 千恵 確保係就業協力員、増山 有希 ナースバンク係長、秋山 恭子 庶務係長、中村 智子 プラチナナース支援係長

コロナ禍を受けて、 改めて看護職確保の重要性を体感

佐藤：令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、計画に沿った事業展開が難しかったと思います。まずは各係の事業内容と、大変だった点や工夫された点について教えていただけますか。

増山：ナースバンク係は、看護職の就業相談と就業継続相談、そして看護職を目指す方々の資格取得相談など看護職

に特化した無料職業紹介事業を行っています。令和2年度は医療のひっ迫や看護師不足が大きな問題になりましたが、ナースバンクとしても迅速な人材確保に奔走した1年でした。クラスターが発生した病院へナースバンクから人材確保支援したことをきっかけに、コロナ対応への支援看護職の登録が新たな取り組みとして始まりました。

また、年に8回開催している「ふれあいナースバンク就職相談会」については、感染予防対策や事前予約制などを導入し、新しい形で継続して活動しています。

滝口：研修係では、離職中の看護職の再就労支援をはじ



佐藤 浩子 東京都ナースプラザ所長



増山 有希 ナースバンク係長

め、中小規模の医療施設、訪問看護ステーション、高齢者福祉施設などに勤務する看護職を対象とした無料の研修を開催しています。令和2年度は55科目188回の研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、そのうち25回は中止せざるを得ませんでした。どうしても対面でなければならない研修については、定員数を大幅に見直し、受講前の健康チェックなど感染症対策を徹底した上で実施していました。その後は対面とオンラインを取り入れ、1月からはほぼオンライン研修に切り替えています。
振り返ってみると、改めて研修で何を学ぶべきか見直す機会にもなりまして、オンラインだからこそ研修に参加できるという方も増え、成果も感じられる1年でした。

高島：私たち確保係では、東京都の看護職員の安定的な確保と、就業の継続支援の2つを事業の大きな柱としています。昨年は20か所の病院で離職中の看護職の就労支援を目的とした研修を開催しました。例年約120名前後参加しますが、昨年度は66名と半数に減少しています。ただ、参加者のうち33名が就職につながり、皆さん高い意識を持って参加してくださったんだと感じています。コロナ禍という環境の中で、研修を受け入れてくださった病院にもとても感謝をしています。

また、中小規模病院を対象に、1年間かけて人材育成や職場の環境改善などに取り組む「アウトリーチ型定着促進支援事業」では、緊急事態宣言期間中は病院訪問ができず、2か月遅れでのスタートになりましたが、なんとか期間内に課題を解決することができたと思っています。

コロナ禍を受け、私たちも研修にオンラインシステムを導入しました。今後もオンライン配信技術のレベルアップが必要ですが、今までとは違う形で研修ができたことはと

ても良かったと思っています。

秋山：庶務係は、看護に関する理解と関心を高めていただくために、学生向けのパンフレット作成や配布、看護職の再就職を応援する情報誌「やっぱり看護が好き」の発行など、さまざまな情報発信を通して「看護の魅力を伝える広報」を目指しています。

毎年5月と夏休みには、看護職を目指す学生さんや社会人を対象に一日看護体験学習を実施しています。平成31年度は1,885名の方にご参加いただきましたが、昨年度は緊急事態宣言により中止せざるを得ませんでした。これに代わって9月と11月に開催したのが高校生を対象とした「高校生のための一日看護体験セミナー」です。予想以上に応募者が多かったため、参加できなかった方に向けて、講演会の様子や看護の仕事がわかる動画を作成し、東京都ナースプラザYouTube公式チャンネルにて配信を行いました。参加してくださった方からは、参考になったというお声もいただき、開催して良かったと思っています。

新たにプラチナ世代の キャリア継続を支援する事業がスタート

佐藤：たくさんの苦労がありつつ、成果もあった1年でしたね。今年は事業の大幅見直しが行われ、新たに「プラチナナース就業継続支援事業」が始まりました。プラチナナース支援係の中村係長から、新しい事業についてお話しただけですか。

中村：これまで東京都ナースプラザでは、中高生や子育て世代など、いろいろな年齢層での看護師確保に取り組んできましたが、さらなる看護職員確保推進に向けて、令和3年



滝口 珠子 研修係長



秋山 恭子 庶務係長



中村 智子 プラチナナース支援係長



高島 千恵 確保係就業協力員

4月から50歳以上のプラチナ世代を対象とした「プラチナナース就業継続支援事業」がスタートしました。定年退職をきっかけに潜在看護師になることも多いプラチナナースですが、退職前から定年後のことを考え準備することで、キャリアの継続を支援することを目的としています。キャリアコンサルタントの方を講師に迎えたセミナーの開催や、病院や介護施設での職場体験会、就職相談会などを行っています。

佐藤：ありがとうございます。令和3年度が始まりましたが、いまだコロナ禍は収まらず……といった様相です。苦労もあるかと思いますが、令和3年度事業を開始してみても、皆さんの感想や意見をお聞かせください。

中村：まずは「プラチナナース」という言葉の定着を目標に、コロナ禍2年目を迎えた今は、オンライン等も駆使して、セミナーや職場体験会などを何があっても開催する、という姿勢で事業を進めています。

増山：2025年には高齢化に伴い、看護師が大幅に不足すると言われています。新型コロナウイルスの感染拡大は、コロナ対応やワクチン接種のための人員など、看護職の就業者が増加したという一面もありました。この方たちを潜在化させず、定着して就業していただくための支援を継続することも大切なことだと思います。

滝口：オンラインでの研修も慣れてきましたので、今後はさらにオンライン研修の内容を充実させていきたいと思っています。特に今年度入職した新人は、コロナの影響で学生時代に十分な実習ができなかったため、職場適応の遅れや看護実践能力の低さが課題となっている、といった声も届いています。少しでも補完できるよう、追加の研修を計画しているところです。

時代に合わせた方法で、 看護職の確保・定着における課題解消を目指す

高島：私たちが実施している復職支援研修では、カリキュラムの見直しがありました。病院体験コースは3日・5日に凝縮されたほか、ご自身のスケジュールに合わせていつでも研修に参加できる1日コースを新たに設けています。

また、病院以外の施設に就職する看護職も増えているこ

とから、訪問看護ステーションや診療所などの施設で研修を行う1日・3日の施設体験コースも始まっています。

後半に向けては、ワクチン投与や抗体カクテル療法など社会の要望に合わせた演習が組めるように、工夫しながら研修の内容を考えていきたいと思っています。

秋山：今年度は5月と8月に81施設のご協力によって一日看護体験学習を開催することができました。

今回はコロナ禍での開催ということもあり、皆さんが安心して参加できるよう、受け入れ施設にアンケートをとって3つの取り組みを考えました。1つ目は体験日の2週間前から体調をチェックして、当日持参していただく「健康観察表」の導入。2つ目は希望施設には参加者にPCR検査を事前に受けてもらい、陰性結果の提出、3つ目は初めてオンラインによる一日看護体験学習を行いました。

さまざまな課題がありましたが、合計で581名の中・高生、社会人の方に参加していただきました。未来のナースを育てるためにご協力いただいた受け入れ施設の皆さまに感謝しています。また、参加して下さった皆さまには、この体験をぜひ将来に活かしていただけたらうれしいですし、今後も夢を応援できるような企画を考えていきたいです。

佐藤：皆さん、ありがとうございました。東京都ナースプラザの事業は、看護師確保という使命に向かって、互いに協力しながら進めていくことが必要だと改めて思いました。引き続きよろしくお願いします。



総務課



総務課では、当協会の運営及び管理に関することを所管しています。

当協会の適正かつ円滑な運営に寄与するため、他部署をサポートするほか、主として以下の業務を行っています。

主な業務

- 当協会の運営及び管理
- 社員総会の運営
- 当協会の決算及び予算案策定
- 会館の維持管理
- 寄附金に関すること
- 医療用物資無償提供関連
- 国・地方公共団体の施策及び予算に対する提案要求 等
- 当協会の情報提供の企画・発信 等

主な取り組み

- 新型コロナウイルスワクチン接種関連事業
- 新型コロナウイルス感染症対応看護職等支援PCR無償検査事業
- 新型コロナウイルス感染症医療用物資無償提供関連事業
- 地区支部との連携強化 等

東京都入退院時連携強化研修

事業目的	都内入院医療機関及び地域の医療・介護関係者に対し、入院前から退院後の在宅療養生活を見据え、相互に連携・協働して入退院支援に取り組む人材を養成するための研修を実施し、入退院時における入院医療機関と地域の医療・介護関係者との連携・情報共有の一層の強化を図り、高齢者等が安心して在宅療養を受けることができる環境を整備することを目的とする。
開催実績	A日程：令和2年10月6日（火）、10月9日（金）、10月16日（金） B日程：令和2年12月8日（火）、12月11日（金）、12月14日（月） C日程：令和3年1月26日（火）、1月29日（金）、2月2日（火） 受講者総計：424名 入退院時連携強化事業フォローアップ研修：令和3年2月13日（土） 受講者数：58名 在宅療養支援窓口取組推進研修：令和3年3月10日（水） 受講者数：41名

東京都新人看護職員研修・教育担当者研修

事業目的	新人看護職員研修ガイドラインに基づく臨床研修の実施内容・方法等の普及を図るため、研修責任者・教育担当者に対する研修を行い、適切な研修実施体制を確保することにより、看護の質の向上、離職防止・定着促進を図ることを目的とする。
開催実績	令和2年度東京都新人看護職員研修責任者研修：令和2年10月20日（火） 受講者数：79名 東京都新人看護職員教育担当者研修 第1回：令和2年8月17日（月） 受講者数：74名 第2回：令和2年8月31日（月） 受講者数：69名

東京都訪問看護人材確保事業

事業目的	地域包括ケアシステムの構築に向けて、訪問看護サービスの安定的な供給を促進するため、看護師等に訪問看護の実際や重要性、その魅力をPRし、新卒訪問看護師の確保等、訪問看護への人材の供給を促すとともに、都民の訪問看護サービスに対する理解促進を図り、今後増加が見込まれる在宅療養高齢者の在宅看護ニーズに対応することを目的とする。
開催実績	訪問看護フェスティバル開催：令和2年1月23日（木） Web開催ライブ配信 訪問看護普及啓発リーフレット作成、グッズ作成 看護職及び一般都民に配付

東京都新任訪問看護師就労応援

事業目的	看護職に対し訪問看護への理解促進を図るとともに、訪問看護未経験の看護職を雇用し、育成を行う訪問看護ステーションに対し、教育体制の強化を図るための支援策を行うことにより、訪問看護未経験の看護職が不安なく訪問看護分野への就労を選択できる環境を整え、もって、就労を促し、質の高い訪問看護師の確保を図ることを目的とする。
事業実績	事業実施事業所数：75事業所 新任訪問看護師採用事業所：53事業所 採用数：105名（育成完了97名、育成中止8名） 看護職者及び看護学生を対象とした講演会：令和2年10月31日（土）オンライン開催 「知りたい!聞いてみたい!訪問看護」 参加者：95名 平成28年～令和2年度事業実施ステーションの管理者・指導者137か所を対象としたフォローアップ研修会：令和2年7月18日（土）オンライン開催 参加者：34名

東京都島しょ看護職員定着促進事業

事業目的	島しょ地域において働く看護職を対象に出張研修や一時的に島を離れる際の短期代替看護職員派遣を実施することにより、島しょ地域に勤務する看護職員の働きやすい環境を整え、定着を促進することを目的とする。
事業実績	出張研修：Web開催ライブ配信 6回開催 参加者数：104名 短期代替看護職員派遣回数：12回 派遣人数：12名 派遣延べ日数：93日

東京都助産師出向支援導入事業

事業目的	助産師就業の偏在把握や、助産師出向の検討等を行い、助産実践能力の強化、助産学生の実習施設等の確保及び助産師就業の偏在是正を図ることを目的とする。
事業実績	協議会実施：3回 出向先・出向元募集：応募施設2施設 説明会・相談会：4施設応募

東京都保健所支援拠点等における新型コロナウイルス感染症対策関連業務従事

事業目的	職員に対する育成研修等の実施事業 東京都は、新型コロナウイルス感染症対策により業務負担が増大している保健所の支援を行うため、保健所支援拠点（以下「支援拠点」という。）を設置し、新型コロナウイルス感染症対策関連業務に従事する会計年度任用職員（以下「感染症対応従事職員」という。）を100名程度採用し、支援拠点等に配置することを予定している。本委託は、都が採用した感染症対応従事職員が、積極的疫学調査をはじめとする感染症対応に係る保健所支援業務に必要な知識を習得し、職務を遂行することができるよう、研修を実施する等して人材を育成することを目的とする。
開催実績	研修計3回（2日間1セット）実施 受講者総合計55名（保健師：5名、看護員：24名、事務専門員26名）

東京都障害者支援施設等の感染防止対策のための専門的相談・支援事業

事業目的	障害者支援施設等の感染防止対策のための専門的相談・支援事業は、障害者支援施設等において利用者が新型コロナウイルス感染症に感染し、軽症者等に該当すると医師が判断した場合には施設内で療養することも想定されているため、施設等が利用者の施設内での療養に備え必要な準備や感染症対策を行うに当たり、感染防止対策に係る専門的な助言等を受けられる体制を確保することを目的とする。
事業実績	管理者向けワークショップの開催と感染対策に関するオンデマンド研修実施 オンデマンド動画を視聴し、巡回訪問を希望した15施設へアドバイザーを派遣

職能委員会報告

保健師職能委員会

中堅期保健師コンサルテーションプログラムについては、コロナ禍で実施困難と判断して中止とし、「2019年度中堅期保健師コンサルテーションプログラム」実施報告書を作成・発行した。産業保健師研修会はZoomで開催、東京産業保健師勉強会（自主勉強会）は年6回の開催予定であったが、コロナ禍で2回の実施に留まった。また、東京都看護協会が令和3年3月に実施した「コロナ禍における地域保健活動の実態調査」に協力した。

令和2年度は、コロナ禍により計画した研修や交流会などが実施できなかった。一方、オンライン研修などの方法に取り組むことができた。有効な研修方法の一つとして今後も積極的に取り入れていきたい。

次年度	予防接種を含めコロナ関係への対応に東京2020オリンピック・パラリンピックへの対応が加わるなど、自治体保健師の業務の切迫状況は継続すると思われる。このような状況にあるからこそ地域包括ケアの実現を支えるためにも、保健師職能の能力向上と看護職間の連携強化が必要である。時宜にあった研修や交流会の開催など、さまざまな活動の機会を捉え積極的に取り組んでいきたい。また、保健師の会員数が伸びない状況から、関係会議への参加や研修、交流会等を通して入会促進を積極的に図っていきたい。
-----	--

助産師職能委員会

委員会活動として年4回の研修会を企画したが、新型コロナウイルス感染症により、対面式の2回の研修は中止とした。メンタルヘルス研修（基礎編、実践編）は、委員会としては初めてオンライン研修を実施した。受講者は、オンライン研修に慣れており、非常に好評であった。産科関連病棟の管理者や若手助産師看護師間のネットワーク作り及び助産師の専門性を活かした地域住民へのサービス活動推進を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった。

次年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実践しながら、助産師が、高い専門性を発揮した活動を実践することを支援する。また、多職種と連携してコロナ禍における地域包括ケアの実現とを地域住民へのサービス活動を継続実践できるように医療チームのネットワーク作りを推進する。
-----	---

看護師職能委員会領域Ⅰ

令和3年2月13日（土）に実施した研修会は職員のメンタルヘルスサポートに関して看護管理者の方々の興味が高く参加者は109名となった。多くの質問や活発な意見交換があった。委員会やその他の講演会等の企画は、コロナ禍のため中止となった。

次年度	新型コロナウイルス感染症の対応は次のステージへと移り、共存・共栄のための方策が必要になってくる。患者を取り巻く新たな生活様式が求められている中で、看護管理者は危機管理やコロナ禍での働き方改革の推進も喫緊の課題である。特に中小の病院では、感染管理に関して、認知症高齢者への対応も含めた専門的な看護師の育成が必要である。また、看護師等へのタスク・シフティングやタスク・シェアリングは、待ったなしで量と質の双方が求められており社会の期待は高く、さらに高度で複雑な管理能力を求められる。 今後も地域や他職種、そして看護職間の「連携」を強化して超高齢社会とACP（アドバンス・ケア・プランニング）、労働人口の減少と労働環境改善、外国人労働者の受け入れと共存、ICTの活用や働き方改革などの課題に取り組む。
-----	--

看護師職能委員会領域Ⅱ

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に始まり、完全収束に至らないままに終わりを迎えた。当委員会でも同様で、会議や研修も危機管理に必要な看護管理者の役割についての話し合いや研修を企画実施した。看護師がそれぞれの働く場所でこの感染と闘った1年であったが、この経験を「禍を転じて福となす」ように看護職能の領域を超えた連携が必要である。

次年度	研修形式はリアル研修だけでなくオンライン研修も継続したい。
-----	-------------------------------

委員会報告

教育委員会

令和2年度は初の試みとして、研修計画の仕様をタブロイド版に刷新し、会員全員に配布できるよう変更した。計画した研修は96研修、定員4,471名であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、20研修（定員950名）が中止となった。開催した研修は76研修あり、感染対策上定員数を減らし3,521名とした。診療報酬加算研修である医療安全管理者養成研修（第1回）も中止せざるを得なかった。結果、応募者2,293名、受講者数1,912名、平均受講率54.3%となった。そのうち開催方法がZoomによる遠隔講義に変更になったのは15研修であり、開催時期を変更したのは2研修であった。認定看護管理者教育課程の公開講座については、各課程2科目ずつ計8科目を計画したが、実施できたのは「サードレベル」1科目、「セカンドレベル」2科目計3科目のみであった。

次年度	有事の際、研修中止を可能な限り回避し、開催できるような体制を整備する。
-----	-------------------------------------

学術推進委員会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催方法を集合からライブ配信及びオンデマンド配信に変更し実施した。71演題の応募があり、上位16演題を口演発表、続く39演題を示説発表、16演題を不採択として対応した。学会参加応募者数は314名となった。シンポジウムのテーマは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況から、日本初新型コロナ専門病院を立ち上げた「大阪市立十三市民病院」の担当者3名にシンポジストを依頼（ライブ参加）、各々の立場からの発表は参加者の共感を得て好評であった。

次年度	ライブ配信及びオンデマンド配信の運営は、遠方（他県等）者の参加を促進することができる。さらにシンポジストや特別講演等も遠方者に依頼可能であり、今後も積極的に活用したい。ただし、学会参加希望者全員がオンライン配信対応できる環境にある訳ではない。感染対策を徹底しながら、来場による参加への対応検討も必要である。
-----	---

看護学生学会ワーキンググループ

令和2年10月19日（月）開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により会場開催を中止し、オンデマンド開催に変更し実施した。感染拡大で実習開始が大幅に遅れ、学内演習に切り替えられるなど学習面で影響が出ている状況にもかかわらず12演題の応募があった。11月1日（日）収録、12月1日から令和3年1月末までの配信予定であったが緊急事態宣言延長により1か月延長し配信した。視聴数は27校、約1,700名となった。

次年度	オンデマンド開催が決定している。新型コロナウイルス感染症の感染状況により看護系学校の臨地実習が制限されているため、演題が集まるか懸念される。発表内容の検討及び募集時の対応を検討し、学生が参加しやすいようにしていく。
-----	---

認定看護管理者教育課程・教育運営委員会

ファーストレベル、セカンドレベル、サードレベルを各1回開催した。
ファーストレベルは第1回を中止せざるを得なかったが、第2回を全リモートで開催した。中止となった第1回受講予定者は次年度第1回に振り替えとすることを決定した。3課程ともに、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて集合またはZoom参加等が選択できる体制を整え、ハイブリッドでの開催も取り入れた。3課程の受講者全員が、途中辞退もなく無事に各課程を修了した。

次年度	有事の際、柔軟に研修運営が可能となる体制の整備、応募者多数の場合の受け入れを検討する。
-----	---

社会経済福祉委員会

看護職の勤務環境改善は、診療報酬加算である「看護補助者の活用の推進のための看護管理者研修」を継続で2回開催した。また、看護補助者と看護職が利害を超えて協働するための支援として「看護補助者のための研修」も継続して実施した。看護職のタバコ対策の推進は、日本禁煙学会認定の卒煙サポーター研修を継続実施した。

次年度	看護職に向けたタバコ対策支援として会報にチラシを同梱するなど看護職の勤務環境改善のためのイベント企画を予定している。
-----	--

看護制度委員会

看護師学校養成所2年課程進学に向けての説明会について新型コロナウイルス感染症対応としてWeb開催ライブ配信で開催した。参加者は11名であった。2年課程進学に向けての説明会では、受講者が少なかったため、周知期間・方法について再検討し、受講者増加を目指したい。従来、進学を希望している准看護師が受講しているが、希望していない准看護師にも受講してもらい、進学への関心を持てるような企画をしたいと考える。

次年度	2年課程進学に向けての説明会の受講者の大半が奨学金のことを知りたいと回答していることから、説明会の中に進学に関する経済面のことも含めた内容とする。 准看護師のスキルアップ支援として、看護実践に役立つ最新情報の提供や他施設の准看護師との交流を通して、モチベーションアップや進学を考える機会となる企画をしたい。
-----	--

医療安全委員会

医療安全管理者養成研修は2回実施予定であったが、5月開催の第1回及びフォローアップ研修は緊急事態宣言が発出されたことにより中止とした。医療安全管理者研修は、施設課題の共有や施設間の協働推進など、演習等を含む参加型研修とすることに大きな意義がある研修だけにリモート開催への不安もあった。受講者同士のコミュニケーションや課題の共有等は集合で実施するフォローアップ研修で補うこととしたい。

リスクマネジャー研修では、施設の医療安全にかかわる多職種のリスクマネジャーが交流し課題を検討した。主に、薬剤師の参加と看護管理者も多く参加し組織的対策の重要性について共有した。

次年度	医療安全管理者養成研修を2回開催予定である。日本看護協会主催の「医療安全管理者養成研修」オンデマンド講義を採用する。集合演習は5時間となっており、開催方法も含め十分な検証をしていく。また、リスクマネジャー研修の開催、フォローアップ研修を予定している。
-----	---

広報委員会

令和2年度は、コロナ禍でも執筆者のご協力などにより充実した内容の会報を発行することができた。新型コロナウイルス感染症の内容についてはタイムリーに発信できた。また、表紙デザインが好評を得た。

会報発送方法の変更は、施設担当者の負担軽減、所属変更があっても直接個人の手元に届くなど、個人宛発送にしたことで、会員が手にする機会も増え、確実に目を通してもらえるようになり情報提供の充実につながった。

地区支部情報掲載は、当該地区のみでなく他地区の情報や活動内容を把握し、自地区の活動の参考にできるようになった。

次年度	編集計画については、看護職自身が心身と向き合い、セルフマネジメントできるための方法など、リフレクションの紹介や取り組み等を検討する。また、病院、訪問看護等々、この1年困難であったこと、工夫して活動したこと等を紹介する。
-----	---

感染対策委員会

委員会主催研修を計画通り年3回（7月・10月・11月）実施した。テーマは当初「結核感染症」「冬の感染症」を予定していたが、トピックスである新型コロナウイルス感染症に絞りテーマを変更した。アンケート結果より、満足度は90%以上で高評価を得られた。

次年度	令和2年度同様、研修会は年3回開催を予定とし、開催方法は感染状況に応じてオンラインと集合研修を併用しながら実施する。テーマは新型コロナウイルス感染症対策が需要もあり関心のあるテーマと考えるが、ワクチン接種開始やオリンピック・パラリンピック開催などもあるため、状況を見ながらニーズに合った内容とする。また、感染対策の基本は標準予防策であり、状況を見て少人数での集合研修で実技演習も検討する。 令和2年度の第1回は応募者も多かったが、第2回、第3回は20名程度であったため、募集案内の方法や受講対象者の枠を拡大するなど検討する必要がある。
-----	--

災害対策委員会

令和2年度はコロナ禍のため、GW（グループワーク）や演習を多用した研修を実施することが困難であったが、現地とオンラインのハイブリッド開催で養成研修を実施し、新規登録者を増やすことができるなど、オンライン研修のメリットも実感できた。

次年度	新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて集合研修とオンライン研修を併用しながら、災害支援ナースの登録・更新研修を実施したい。 また、令和3年は東日本大震災から10年の節目であり、災害看護の意識を高めることを目的に、災害支援ナースの活動PRやシミュレーション研修等を企画していきたい。
-----	---

子育て支援委員会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、両親学級、すくすく広場、すくすくフェスタ、出前授業等、都民に向けたすべての事業をオンラインで開催した。可能な限り講師と参加者が双方向性で参加できるよう、回を重ねるごとに運営方法を工夫しながら実施したことにより、いずれも参加者の高い評価を得ることができた。特に両親学級は毎月開催であり、助産師委員と協力員の多大な尽力により、開催することができた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、すべての事業がオンライン開催となったが、両親学級では参加者の希望が多い沐浴体験を提供することができなかった。看護職者への学習会や子育て関連の事業の案内が十分に行き届いていない可能性があった。

次年度	可能な限り参加者のニーズに添えるよう、オンライン開催の利点は活かし、不十分な箇所は何らかの方法で補えるよう内容を検討する。 より多くの看護職者が本事業を利用できるよう周知方法を検討する。
-----	--

地域包括ケア委員会

地区ごとに計画を立てたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、活動は各地区とも制限された。その中でも、新型コロナウイルス感染症に関わるアンケート調査やインタビューなどを実施し、対面での活動にはつながらなかったが、次年度につなぐ課題は把握できた。

次年度	新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けた活動が中心になってくると考える。ワクチン接種が開始されたが、医療従事者も含め2回目の接種が終了する時期が見通せない状況であり、令和2年度の課題の具体的な対策が必要である。 看看連携により情報収集や情報共有など積極的に行い、課題解決に向けて取り組むことが求められる。また、地域で活動する保健師との連携が必要であり、生活の場である地域を含めて活動していくことが課題である。
-----	--

東部地区支部

足立区 荒川区 江戸川区 葛飾区 江東区 墨田区

質向上を目的とした4回の研修会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、すべて中止とした。会員相互の交流はメールやオンライン会議を併用し、各活動の今後の進め方について検討した。組織強化については、地区支部の活動報告として地区支部ニュースを計画通り年3回発行した。

しかし、地区支部としての活動がなかったことで、会員増加や組織強化につながる取り組みを行えなかった。「まちの保健室」は7月、11月に開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、すべて中止とした。

次年度	引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、施設外での活動や研修参加の自粛など事業を進めにくい状況が想定される。これまでの活動方法を見直し、新たな生活様式の中で、どのように会員及び地域住民に同じ価値を提供できるかを考え、取り組んでいく。また、今回の感染拡大は地域における医療機関・施設・行政との連携が重要視された。各区内での関係もさることながら、地区としても各機関との連携にこれまで以上に力を注いでいく。
-----	---

西部地区支部

板橋区 北区 新宿区 杉並区 豊島区 中野区 練馬区

地区支部研修については4回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、2回の開催となった。アンケートの結果では満足度が高く、次年度も開催を望む声が多かった。

他の地区支部・医療圏との連携については、地区理事との情報共有のみとなってしまう全体的な会員への情報伝達には至らなかった。

「まちの保健室」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、緊急事態宣言等により状況の改善が見込めず、中止とした。

地域における看護職の組織事業の推進については、東京都地域医療構想調整会議や在宅ワーキング等に参加し、看護協会の活動等を情報提供した。看護職の組織事業を推進するためには行政等との連携も必要であると考えるが、具体的な行動にまでは至らなかった。

次年度	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を常に考えながら役員会、研修、「まちの保健室」等、内容及び方法等を検討し実施する。また、会員拡大については、地区支部研修の開催は非常に有効な機会であり、そこで看護協会の活動や看護職への支援などの情報提供をしながら、身近な存在であることをアピールしていきたい。
-----	--

南部地区支部

大田区 品川区 渋谷区 世田谷区 目黒区

看護実践能力向上の支援については、研修会を4回開催した。

情報発信については、地区支部だよりを3回発行し、「看護とうきょう」へ原稿を寄稿した。

「まちの保健室」については、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止とした。

地域包括ケアシステム構築のために看護職の連携、多職種連携推進については、地区支部だよりに看護連携に関する記事を掲載し、診療所での看護活動、地域包括ケア委員会の取り組みを紹介した。

入会促進活動は、地区支部定例会で南部地区の入会状況を報告し、地区支部研修会で入会促進活動を行った。

次年度	コロナ禍もあり、ウェブ等を利用して新しい活動形態を模索しながら進める。支部だよりではウェブサイトを活用して地区支部活動についての情報発信を行い、会員施設の看護活動の紹介を行いながら看護連携を図っていく。
	研修会は会員の要望を取り入れながら企画運営し、支部だよりや研修会を通して会員拡大を行っていきたい。
	地域包括ケアシステムを推進するために、地域包括ケア委員会と連携しながら地域住民の状況を把握し、地域住民への健康維持、疾病予防の啓発を行っていきたい。

中部地区支部

台東区 千代田区 中央区 文京区 港区 大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村

予定していた研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、緊急事態宣言が解除されてからは、募集人員を制限しながら、感染防止対策を徹底し3コースを実施することができた。

広報活動は、「中部地区だより」を2回、「中部地区だより 臨時号」を発行した。

「まちの保健室」「老人月間事業」については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止とした。

会員拡大については、各施設、新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、役員同士協力しながら、地区支部活動を実施した。

次年度	コロナ禍における、地区住民活動として「まちの保健室」や「老人月間事業」を、安全に運営するための開催方法などを継続して検討する必要がある。 地区支部研修は会員の要望も多く、看護の質の向上に寄与し、会員獲得の機会にもなる。協会との連携を密にし、感染防止対策を徹底して行い、全コースの開催を目指していく。 情報発信については、地区支部における医療・看護・介護の活動や取り組みに関する情報を、会報やWebページを活用して共有できるよう、協会と連携していく。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、施設により参加制限等がある中で、地区支部活動を円滑に遂行できるよう、定例会の方法を含めて検討する。
-----	---

多摩北地区支部

昭島市 あきる野市 青梅市 清瀬市 国立市 国分寺市 小平市 立川市 西東京市 羽村市 東久留米市 東村山市 東大和市 福生市 武蔵村山市 奥多摩町 日の出町 瑞穂町 檜原村

地区支部研修は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため募集人員を半数にして2講座開催した。多摩北地区支部は都下という状況で、毎年、他の地区支部より開催回数を多く企画しているが、新型コロナウイルス感染症により中止せざるを得なかった。

広報活動は、「多摩北ニュース」を2回発行し、「看護とうきょう」へ原稿を寄稿した。

「まちの保健室」はすべて中止とした。

次年度	引き続き、看護職の資質の向上のため、「人材育成」「感染対策」「認知症看護」を企画していく。講師は地区支部で活躍している認定看護師などへ依頼し、認定看護師の活動への支援も行う。また、医療施設以外で働く看護職へも参加できるように働きかけ、オンラインを活用した参加を検討していく。 地域活動はコロナ禍のもと、感染対策をしっかりと行い、少人数制で時間を区切り活動が可能か検討しながら開催を考える。
-----	--

多摩南地区支部

稲城市 小金井市 狛江市 多摩市 調布市 八王子市 日野市 府中市 町田市 三鷹市 武蔵野市

実務実践能力の向上を支援する研修は、一部オンラインにて開催し好評だったが、他の研修は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、中止とした。

広報活動としては、「多摩南ニュース」を8月に発行した。

「まちの保健室」活動は、例年、調布市老人保健月間にあわせて実施していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。

地区活動の活性化については、東京都地域医療調整会議（オンライン）に出席し、地区活動の活性化を図った。事前に役員間にて、メール会議を実施し、本会議への事例検討及びアンケートへ回答した。

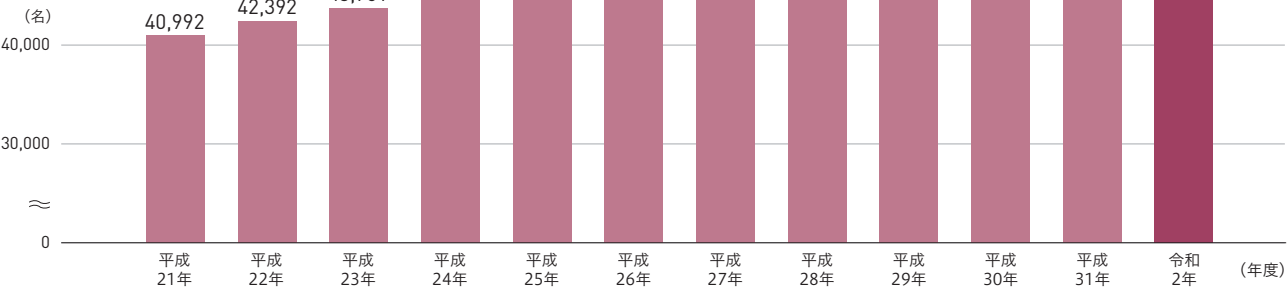
会員拡大については、地区支部役員会を4回実施し（すべてオンライン）、役員を通して、会員拡大を図った。会員数は7,817名（入会率34.3％）であった。

次年度	感染予防対策に努めながら、研修会ならびに「まちの保健室」活動などの地区活動への参加を促進し、多摩南地区における看護を活性化させたい。新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン開催も検討したい。 スローガンは、令和2年度に引き続き、「チームワーク・つなぐ・多摩」トリプルTで進む～地域ネットワークの構築へ、看護職の持てるチーム力を集結しよう!!～看護力と連携力とし、活動する。
-----	---

会員数（令和3年3月31日現在）

48,946名

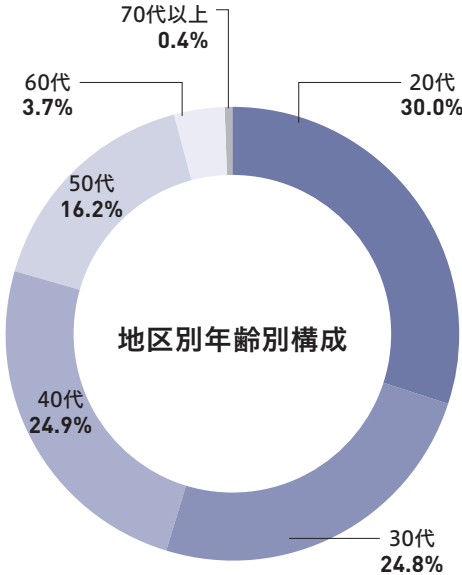
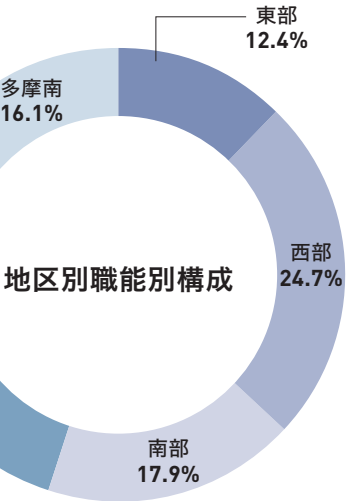
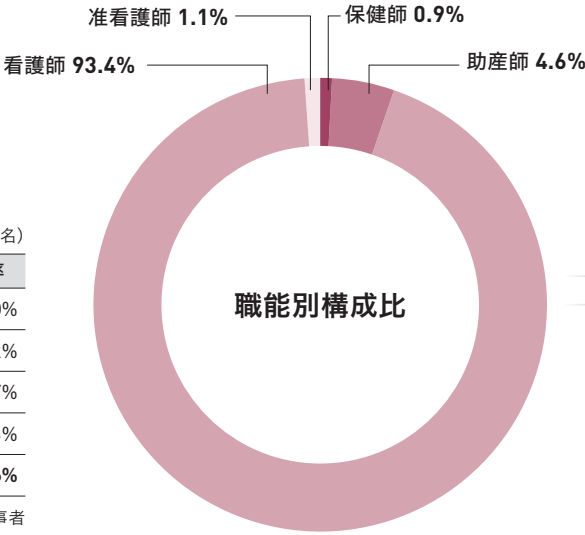
会員数の推移



職能別会員数（令和3年3月31日現在）

	女	男	合計	就業者数*	入会率
保健師	418	16	434	3,931	11.0%
助産師	2,256	0	2,256	4,088	55.2%
看護師	42,347	3,363	45,710	109,517	41.7%
准看護師	489	57	546	12,565	4.3%
総計	45,510	3,436	48,946	130,101	37.6%

*就業者数は平成30年12月31日現在の「東京都における看護師等業務従事者届集計報告」による。



地区別職能別構成（令和3年3月31日現在）

	保健師	助産師	看護師	准看護師	会員数	就業者数*	地区入会率
東部	57	230	5,445	124	5,856	19,998	29.3%
西部	98	606	10,850	101	11,655	29,013	40.2%
南部	124	490	7,714	100	8,428	22,653	37.2%
中部	56	407	8,585	31	9,079	20,326	44.7%
多摩北	41	157	4,305	91	4,594	15,303	30.0%
多摩南	51	306	7,142	78	7,577	22,808	33.2%
総計	427	2,196	44,041	525	47,189	130,101	36.3%

※令和2年度総会員数48,946名のうち、退会・他県移動等会員数1,757名は除く。
*就業者数は平成30年12月31日現在の「東京都における看護師等業務従事者届集計報告」による。

地区別年齢別構成（令和3年3月31日現在）

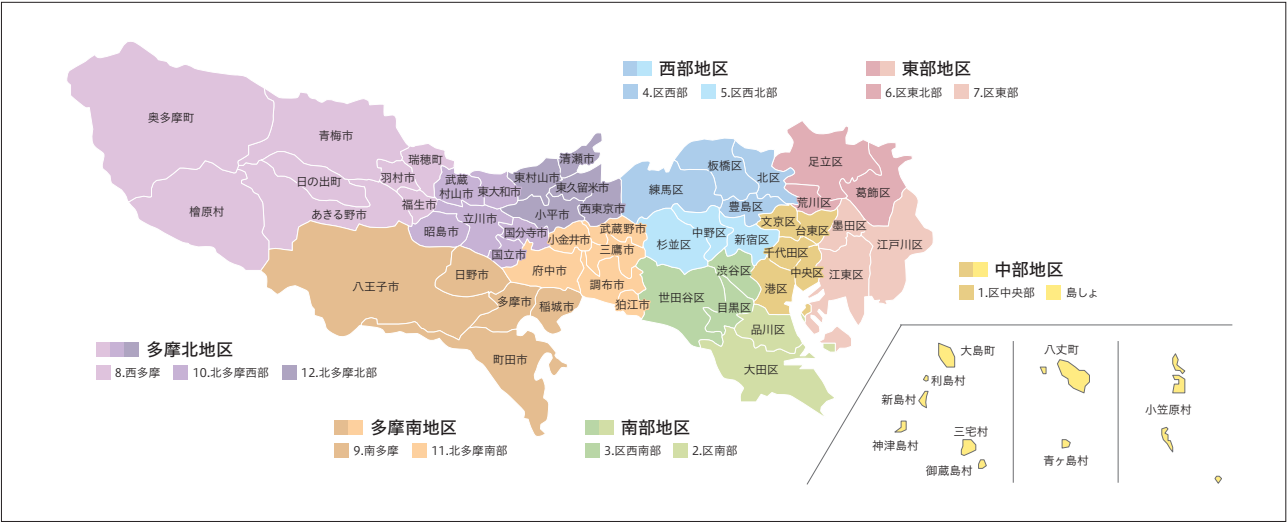
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	会員数	平均年齢
東部	1,543	1,384	1,617	1,061	228	23	5,856	39.68歳
西部	3,607	3,132	2,658	1,699	503	56	11,655	38.20歳
南部	2,337	2,288	2,151	1,315	305	32	8,428	38.73歳
中部	3,748	2,100	1,884	1,116	217	14	9,079	35.87歳
多摩北	830	991	1,410	1,114	230	19	4,594	42.43歳
多摩南	2,088	1,819	2,017	1,340	282	31	7,577	39.34歳
総計	14,153	11,714	11,737	7,645	1,765	175	47,189	38.63歳

※令和2年度総会員数48,946名のうち、退会・他県移動等会員数1,757名は除く。

地区支部別会員数（令和3年3月31日現在）

施設	東部		西部		南部		中部		多摩北		多摩南		合計	
	施設	会員	施設	会員	施設	会員	施設	会員	施設	会員	施設	会員	施設	会員
合計	1,330	5,856	2,076	11,655	1,412	8,428	838	9,079	900	4,594	1,160	7,577	7,716	47,189
病院	108	4,492	109	9,293	82	6,824	48	8,083	83	3,588	104	6,346	534	38,626
診療所	33	62	48	131	30	54	54	112	26	57	32	60	223	476
助産所	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2
保健所・保健センター	3	4	0	0	1	1	1	1	2	3	3	4	10	13
省庁・地方自治体	6	6	8	12	2	3	6	8	3	6	3	3	28	38
検(健)診センター等	0	0	2	22	0	0	3	3	0	0	2	2	7	27
企業等の健康管理部門	1	1	2	3	4	37	19	27	4	6	3	4	33	78
訪問看護ステーション	34	78	57	119	35	61	18	53	42	84	39	87	225	482
在宅介護支援センター	1	1	2	2	3	3	2	2	3	3	4	4	15	15
介護老人福祉施設	6	7	7	12	2	3	2	4	4	4	4	5	25	35
介護老人保健施設	9	22	11	28	2	3	2	16	10	24	9	16	43	109
グループホーム等	0	0	6	8	0	0	3	3	2	2	6	9	17	22
その他の居宅サービス	4	5	3	4	4	4	2	2	1	1	2	2	16	18
その他の社会福祉施設	2	2	6	7	3	5	1	10	8	24	4	5	24	53
看護系教育研究機関	9	55	26	194	18	187	20	70	8	86	12	97	93	689
その他	11	18	17	48	15	32	28	56	2	4	2	2	75	160
個人	1,103	1,103	1,771	1,771	1,210	1,210	629	629	702	702	931	931	6,346	6,346

※総会員数の中には、他県よりの移動者384名が含まれる。
※この他に退会・他県への移動等の会員数が1,757名あり、これを含めると総会員数は48,946名となる。



要望日程	令和2年	8月31日	都民ファーストの会東京都議団
		9月 2日	都議会自民党
		9月 2日	都議会公明党
		9月 2日	都議会立憲民主党・民主クラブ
		9月 7日	東京都福祉保健局長
		9月 7日	東京都医療政策部長
		10月 1日	自由民主党東京都支部連合会
		10月12日	日本共産党都議団
		11月20日	東京都知事
要望事項	1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策について（新規）		
	2. 看護職確保のための資格管理体制の構築（新規）		

1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策について（新規）

（1）病院におけるクラスター発生時の看護職員等への緊急支援体制の構築

現状ではクラスター（集団発生）した場合、濃厚接触が疑われる看護職員が大量に発生し、特に中小の病院では看護の継続が困難となる。看護職員を速やかに派遣できるように二次医療圏内において、看護管理者、感染管理マネジャー、実働できる看護職等の緊急支援体制を早急に構築されたい。

また、クラスター発生時には清掃業者が撤退することが多く、看護助手や補助業務等も含めたオールスタッフが揃った支援チームが直ぐに活動できるように緊急支援体制の強化を図られたい。

（2）医療機関、介護施設等における感染管理を順守するための、専門性の高い看護師の養成と活用支援

小規模医療機関及び介護施設の多くは感染対策に対する設備や人材が十分でなく、職員への正しい感染予防教育を実施されていないところが多く、特に日常生活ケアでは利用者と「密」になり、クラスターが発生しやすい環境である。

COVID-19への対応では、感染管理認定看護師など感染管理のスペシャリストが多大な力を発揮しているが、多くは大規模病院に配置されている。

東京都内の7割を占める小規模医療機関や介護現場での感染制御のために看護管理及び感染対策などの専門性の高い教育を受けた看護師の配置を義務づけ、院内の感染対策の徹底を図られたい。

（3）COVID-19への危機管理に適切に対応するため保健所や地域包括支援センター等の保健師の増員及び人材育成

保健所の現状についてみると特別区では平成6年の53か所から令和2年には23か所と30か所減少しており、それに伴い保健師も減少している。しかしながら、COVID-19による感

染者数の大幅な増加により通常業務に加え COVID-19に関する患者の発見、積極的疫学調査、患者搬送、検査体制の強化、クラスター分析及びその対応等業務量が急速に増大し、経験したことのない逼迫した状況にある。このため、保健所の体制強化や感染症対策を担う保健師の増員を早急に図られたい。

また、COVID-19への感染拡大防止対策として外出自粛等が長期化していることで、配偶者への暴力や児童虐待、自殺者の増加、高齢者や障害者の健康レベルの低下、アルコールやネット依存等のアディクション問題等多くの健康課題が表在化している。これらの相談支援は区市町村や地域包括支援センターの保健師が担っており、COVID-19が蔓延する中で業務はますます増大している。このため、区市町村及び地域包括支援センター保健師の増員を図るとともに、これら多種多様の課題に適切に対応していくための人材育成と設備等の体制整備についても検討されたい。

（4）看護職員及び看護助手等に対する危険手当の支給の拡大

現状では看護職員でも病院、施設によって危険手当の額や支給の基準にばらつきがある。

特に、クラスターの発生した現場では看護職員だけでなく看護助手や補助業務を担っている方々の危険手当の支給がないため、撤退せざるを得ない状況にある。このことが看護職の人手と負担を増大し、混乱させている現状が散見されている。

看護職員はもとより看護助手等にも広く危険手当の対象を広げられたい。

（5）医療従事者の安全確保のため、感染防護具の安定供給体制の確立

①医療従事者のマスクや手袋等の感染防護具の不足に関しては、COVID-19拡大の早い時期から危機感が高まっていた。最前線に立つ医療従事者の防護が不十分なままでは、感染

のリスクにさらされるだけでなく、治療を遂行することが困難となる。

感染防護具の調達を各医療施設にまかせるのではなく、国や都が必要量を確実に安定供給できる体制を早急に構築されたい。

②国のCOVID-19に関する緊急対応策により、産後ケアを実施する施設に対して自治体がマスクやアルコール消毒等を支援する際に、国から100%の補助が行われることとなっている。しかしながら、産後ケアを実施していない助産所はこうした支援を受けることができない。

全ての助産所や地域の助産師が万全に感染対策を行ったうえで活動することができるよう、感染防護具の費用の支援を図られたい。

（6）出産を経験する女性が全ての区市町村において、産前産後のケアや支援を利用できるように支援

都においては令和2年度予算において、「産後ケア事業」の補助が100%に拡充され、これにより、区市町村が負担していた費用も都が負担することになった。

しかしながら、COVID-19への感染拡大の影響を受け、出

2. 看護職確保のための資格管理体制の構築（新規）

COVID-19の収束が見通せず、第二波、第三波による重症者や死亡者の増加も危惧されている。しかし、重症者のために人工呼吸器やECMOを活用しようにも「設備は足りても医療の人材が確保できていない」というマンパワー不足が深刻となっている。現在、医療や介護現場における看護師の人材不足はますます危機的な状況にある。

また、将来的にも団塊の世代が75歳以上となる令和7年には地域の医療と生活を支える看護師約196 ～ 206万人が必要とも推計されている。

こうした看護師の人材不足を解消するには、現在職を離れている潜在看護師の復帰やマンパワー動態の現状把握が是非とも必要である。

しかしながら、現在日本の看護師免許制度は取得時における終身登録制度であるため、医師や歯科医師のような資格保有者全体を把握する仕組みがなく、潜在看護師の全体像を把握することが困難である。

平成27年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の改正により、病院等を離職した場合には届け出が義務化されたものの、登録制度は努力義務に過ぎないこともあり、未就業

産をめぐる環境が非常に厳しいにも関わらず、産後ケア事業について未だ実施されていない区市町村もあるのが現状である。

出産を経験する女性が全ての区市町村において産前産後のケアや支援を十分に利用できるよう、産後ケアを実施する施設や人材の確保を含め、引き続き各市区町村に対し事業の実施について周知を徹底されたい。

（7）訪問看護ステーションへの支援

COVID-19の感染拡大の影響を受け、訪問看護における利用回数の減少や感染防護具への支出増や利用者の減少が続 き、訪問看護ステーションの経営状況は悪化の兆しがある。

また、COVID-19感染者への在宅訪問が増えていく中で、ケア内容や状態によっては複数対応が必要になる場合や軽症者の在宅患者のサポートをリモートによることも今後必要となってくる。

現在「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業」として補助的支援が行われているが、COVID-19の感染が長期化の様相を見せている中で、一時的ではなく継続的な支援をお願いしたい。

の資格保有者の全てを把握できていない。

そのため、潜在看護師を含めた離職中の看護師の復職支援や人材確保の推進のためには以下のような新たな資格管理体制の構築を図る必要がある。

- ①医師、歯科医師のように未就業者を含む全ての資格保有者の届け出を義務化するとともに、看護師の資格情報を適切に管理するためのデータベースを構築する。
- ②教員免許や自動車運転免許のように看護師免許に更新制度を新たに創設し、潜在看護師の動向を的確に把握するとともに、更新にあたって研修を行うなど看護の資質の向上を図る。

都は国に対し、看護師の資格情報の届け出の義務化及びデータベースの構築並びに看護師資格更新制度の創設を強く要請されたい。また、看護師の復職支援や人材確保推進のため、東京都独自の制度の導入も視野に入れ、看護師資格の管理制度の在り方について検討されたい。

(名)					
回	開催日	開催場所	出席理事	出席監事	計
第1回 理事会	令和2年 5月28日	東京都看護協会会館大研修室	17	3	20
第2回 理事会	令和2年 6月25日	東京都看護協会会館大研修室	18	3	21
第3回 理事会	令和2年 7月16日	東京都看護協会会館大研修室	17	3	20
第4回 理事会	令和2年 9月17日	東京都看護協会会館理事室	17	3	20
第5回 理事会	令和2年11月19日	東京都看護協会会館理事室	17	3	20
第6回 理事会	令和3年 1月21日	東京都看護協会会館研修室	16	3	19
第7回 理事会	令和3年 3月18日	東京都看護協会会館理事室	18	3	21

令和2年度
第1回 理事会
〈令和2年5月28日〉

- I 協議・承認事項
- 1 令和2年度改選役員及び推薦委員の候補者について

2 令和2年度委員会委員の承認について

3 令和2年度東京都看護協会長表彰推薦候補者について

4 令和2年度東京都看護協会選挙管理委員候補者について

5 令和3年度日本看護協会代議員及び予備代議員の選出について

6 令和3年度東京都看護協会代議員及び予備代議員について

7 平成31年度事業報告（案）について

8 平成31年度決算報告及び会計報告（案）について

9 平成31年度公益目的事業会計の剰余金の取扱いについて

10 令和2年度通常総会招集手続きについて

11 事務局人事について

12 特定金融資産の保有について

- II 報告事項
- 1 （公社）日本看護協会理事会及び当協会事業に関して

2 新型コロナウイルス感染症に対する当協会の対応について

3 総会運営事項

4 事業報告（定款事業4条－1～6）

5 令和3年度看護関係予算・東京都予算要望事項について

6 その他

III その他

令和2年度
第2回 理事会
〈令和2年6月25日〉

- I 協議・承認事項
- 1 理事の選定について

2 会長及び専務理事の職務の代行の優先順位（案）について

令和2年度
第3回 理事会
〈令和2年7月16日〉

- I 協議・承認事項
- 1 令和3年度看護関係予算要望（案）について

2 有限責任あずさ監査法人に対する報酬額等の決定について

- II 報告事項
- 1 （公社）日本看護協会理事会及び当協会事業に関して

2 新型コロナウイルス感染症に対する当協会の対応について

3 役員賠償保険加入について

4 寄附金ご入金額及び使途内容について

5 事業報告（定款事業4条－1～6）

III その他

令和2年度
第4回 理事会
〈令和2年9月17日〉

- I 協議・承認事項
- 1 運営細則の一部変更について

2 令和3年度会議・行事日程表（案）について

- II 報告事項
- 1 （公社）日本看護協会理事会及び当協会事業に関して

2 新型コロナウイルス感染症に対する当協会の対応について

3 事業報告（定款事業4条－1～6）

III その他

令和2年度
第5回 理事会
〈令和2年11月19日〉

- I 協議・承認事項
- 1 令和3年度日本看護協会名誉会員及び会長表彰候補者の推薦について

- II 報告事項
- 1 （公社）日本看護協会理事会及び東京都からの報告

2 新型コロナウイルス感染症に対する当協会の対応について

3 令和2年度中間監査実施報告について

4 事業報告（定款事業4条－1～6）

5 その他報告・連絡事項

(1) 新型コロナウイルス感染症対策第1次対応状況報告書

(2) プレスリリースの件

(3) 今後の会議等の予定

令和2年度
第6回 理事会
〈令和3年1月21日〉

- I 協議・承認事項
- 1 令和3年度事業方針、事業計画（案）について

2 令和3年度収支予算の概要（案）について

3 公益社団法人日本看護協会の名誉会員資格を有する当協会会員の会費等の免除について

4 令和3年度東京都看護協会会議等行事日程について

- II 報告事項
- 1 （公社）日本看護協会理事会及び当協会事業について

2 新型コロナウイルス感染症に対する当協会の対応について

3 東京都看護協会名誉会員及び会長表彰候補者推薦ご協力について

4 事業報告（定款事業4条－1～6）

5 令和2年度委員会・地区支部活動報告まとめ、提出について

6 令和3年度東京都看護協会代議員研修会について

7 その他報告・連絡事項

令和2年度
第7回 理事会
〈令和3年3月18日〉

- I 協議・承認事項
- 1 令和3年度事業方針、事業計画（案）について

2 令和3年度収支予算（案）の概要について

3 令和3年度資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類（案）について

4 令和3年度剰余金の使途について

5 諸規程の改正について

6 令和3年度各委員会に所属する委員の決定について

7 令和3年度東京都看護協会会議等行事日程について

8 令和3年度通常総会の開催方法について

- II 報告事項
- 1 （公社）日本看護協会理事会及び当協会事業について

2 新型コロナウイルス感染症に対する当協会の対応について

3 日本看護協会名誉会員及び会長表彰推薦候補者決定について

4 諸規程改正について（常任理事会・常勤役員会決定事項）

5 事業報告（定款事業4条－1～6）

6 令和3年度合同委員会について

7 令和3年度日本看護協会代議員研修会について

8 その他報告・連絡事項

やまもと けい こ

会長 山元 恵子

座右の銘

諦めたら
そこですべてが
終わってしまう!!



スタッフのやる気を出すためには

ものごとや仕事をしていく上では、さまざまな課題や、予期せぬ出来事に遭遇しますが、それを理由に自分自身が「諦めて」しまったらそこで終わってしまいます。そこからどうしたらうまくいか、①新しい方法を考える、②ほかの方法を組み合わせる。選択肢はこの2つです。言われたままに仕事をするのは作業者。仕事は自分で工夫してやると本気になります。

ほん だ ひろ こ

副会長 本田 浩子

座右の銘

心掛けていることとして、
Cool Head but Warm Heart
「冷静な頭脳 温かい心（情熱）」



スタッフのやる気を出すためには

やる気を持つために、キャリアステップが見えていることや自己重要感等が重要だと思います。

面接場面や日常の業務を通して、専門職としての経験や目標を把握し、個人の特性に応じた育成プランと一緒に立てます。必要な研修を提案し、OJTの中でできたことは褒め、できなかった際は振り返るなどフィードバックします。

まつもと ひろ こ

副会長 松本 弘子

座右の銘

ものは考えよう



スタッフのやる気を出すためには

スタッフを信頼し認め、やりがいを持って働くことができるようにすることだと思います。そうして日々成長し学ぶことで、自身のキャリアを築いていく。それは患者・家族をはじめとする多くの人の健康に貢献することにつながります。あなたはそういった素晴らしい資格を持っているのです！

さ の ひろ こ

副会長 佐野 廣子

座右の銘

雲外蒼天



スタッフのやる気を出すためには

仕事の先にある「希望」への支援。誰かの役に立てるという実感、人としての成長、生活の安定など人によって違うものであっても、その希望に向かって進むことが大切。その支援にあたっては「やってみせ、言って聞かせてさせてみて褒めてやらねば人は動かじ。…やっている姿を感謝で見守って、信頼せねば人は実らず」を心掛けています。

わたなべ ち か こ

専務理事 渡邊 千香子

座右の銘

まず行動し後で考える



スタッフのやる気を出すためには

座右の銘にある言葉は、私がモットーとしていて経験を踏まえて人に勧めてきました。考えて行動することはもちろん必要ですが、いつまで考えても何も始まらないし、生まれないし、変わらないと思っています。要はバランスで、考えるだけで動かないとか、動いただけで考えないのが一番問題ですが…。

おおはし すみ え

常務理事 大橋 純江

座右の銘

教えることは学ぶこと



スタッフのやる気を出すためには

組織やチームでは、自分のやりたい仕事ばかりではありませんが、人として切片に光る部分を持っています。例えば、相手の仕事を理解する力、効率性を高める力など、役割分担していても組織全体として自分を活かすことを実行している時は褒めるようにしています。時に留まり考えることも必要ですが、その時間を可能な限り短縮できるためのジャッジやヒントを絶え間なく注ぐことが私の仕事です。

さがわ

常務理事 佐川 きよみ

座右の銘

三顧の礼



スタッフのやる気を出すためには

三顧の礼は三国時代、劉備玄德が諸葛孔明を迎えるために三度訪ねたとする故事です。

この故事は、相手に礼を尽くすことだけではなく、諦めないことを伝えているのではないのでしょうか。1回でうまくいなくても、その失敗から学ぶことが成功に導くことだと思います。諦めないで、粘り強くがんばりましょう。

never give up !

ふじ の きょう こ

財政担当理事 藤野 恭子

座右の銘

継続は力なり



スタッフのやる気を出すためには

まず自分自身が元気であること、笑顔であること。

そして1日1回はスタッフと会話すること、スタッフを承認すること、一人ひとりのスタッフの個性と向き合うように支援することを心掛けています。看護師としてのやりがいや看護の魅力をモチベーションのもとに引き出せるよう努めています。

か ぐ ら おか すみ

保健師職能理事 神楽岡 澄

座右の銘

置かれた場所で咲く



スタッフのやる気を出すためには

今いる場所で自分にできることを一生懸命やる。仕事は先手必勝を意識して取り組む。一見相反しているように感じますが、言われてやるより先に計画したほうが、先が見えます。ポジティブになれるし、やる気も出る。気持ちや時間に余裕が持てると周囲との関係も良くなります。意識の持ちようが自分の環境をより良いものにします。

こ び やま あつ こ

助産師職能理事 小檜山 敦子

座右の銘

人の生くるは直し



スタッフのやる気を出すためには

私は「愛情の対義語は無関心」という言葉を大切にしています。また、人に対して常に誠実でありたいと思っています。それは、愛情と誠実さがなければ、人の心に自分の思いが届くことはないと思うからです。そのため、相手に「やる気」など何かを求めるのではなく、相手へ関心と真心を持って向き合うようにしています。

看護師職能理事

なかのひろみ

中野 博美

座右の銘

危機は転機、そして好機に



スタッフのやる気を出すためには

苦しい時ほど、前を向き、仲間と密に情報を共有し、笑顔で声を掛け合う。失敗も許し合い、それぞれが大きな心で受け止める。そして、柔軟な思考で、新しいものごとの見方を見つけ出し変化を起こす行動が大切です。失敗を恐れず、一歩前に出る。後ろで支えてますから、安心して進みましょう。

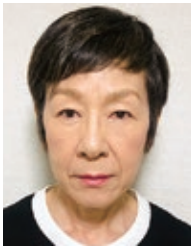
准看護師理事

いとうちえ

伊藤 ちえ

座右の銘

人の振り見て我が振り直せ



スタッフのやる気を出すためには

准看護師理事として2年目になります。初めての大役に、会長やそのほか理事の方々に助けていただきながら1年が過ぎました。昨年から新型コロナウイルス感染蔓延により、看護職や看護協会が注目され、活動に興味を持った方が増えたように思います。今年度も引き続き、協会の活動のお手伝いができればと思っております。よろしくお願いいたします。

東部地区理事

さくま

佐久間 あゆみ

座右の銘

暗いと不平を言うよりも、あなたが進んで明かりをつけなさい



スタッフのやる気を出すためには

気をつけているのは「承認」と「目指す状態を言葉にする」こと。

承認では、相手の良いところ（特に仕事に結びつく、活かされている点）をエピソードを交えて伝えること、さらに周囲の評価や感謝の言葉を伝える間接承認も意図的に行います。

目指す状態は、病院や病棟という場合もありますが、患者さんを主語に伝えるようにしています。

西部地区理事

おおぬまふくこ

大沼 扶久子

座右の銘

楽しんでやらなければ何事も身につかない



スタッフのやる気を出すためには

自分が主任時代の時に上司から「後輩が自分を超えていく時にはそれを喜び支援しなさい」と言われたことがあります。そのことを心掛けスタッフがやりたいこと、目指したいことをチャレンジできるようにサポートしています。

そして私の信条として、相手に対しては自分の価値観で評価・判断しないことです。

南部地区理事

さとうみか

佐藤 美加

座右の銘

迅速果断



スタッフのやる気を出すためには

「個人の承認」「個人を尊重する」こと。その人が大事に思っていること、興味のあること、チーム内での役割、良いところ（好ましい部分）などを見つける。また、その人を知っている・頼りにしている・期待していることを対峙して、しっかり伝える・役割を与えることが信頼関係を築く要。ON・OFFを上手に使った現場にしています。

中部地区理事

きむら

木村 ひづる

座右の銘

「時勢に応じて自分を変革しろ」～坂本龍馬～
時代の変化に対応できるよう学び、常に自分を変革させ続けていかなければ！と気づかされます。



スタッフのやる気を出すためには

スタッフが、質の高い看護を提供し組織に貢献できるよう、組織目標を共有し、個々の目標達成に向けてその成長を支援する。まず、安心してイキイキと働くことができるよう、環境を整えること。そして、日頃からスタッフ一人ひとりをよく見る、個人面談では、看護実践の「がんばり」を認め、伝えることがやる気につながると考えています。

多摩北地区理事

いとうえみこ

伊東 恵美子

座右の銘

初心忘るべからず



スタッフのやる気を出すためには

感謝とねぎらいを込めてあいさつをする。

課題を明確に示しスタッフを信頼し、任せること。任せたことへの情報を共有し、行動に対し見守り、フィードバックをする。良い結果や気づきに対し具体的に褒める。失敗に対しては結果ではなく、挑戦したことに対し評価を行う。

振り返りを行い共感し、共に学ぶ姿勢を示す、ことだと思っています。

多摩南地区理事

いけがめとしみ

池亀 俊美

座右の銘

人間到る処青山あり



スタッフのやる気を出すためには

今、何に興味があるのか？ なぜそう思うのか？ スタッフにとって、良き聴き上手となり、発見と気づきを促す質問をすることです。それは、スタッフの自尊心を高めるやりとりとなり、適切なフィードバックをもらうこと、時に苦言を呈してくれることがスタッフのやる気につながると思います。

監事

かわかみじゅんこ

川上 潤子

座右の銘

「転禍為福」(災い転じて福となす)



スタッフのやる気を出すためには

コロナ禍の「職員の安全確保を第一にする」という組織の方針をわかりやすく伝えること。またまだ先のことは考えられない状況ですが、この状況下で患者を真摯に看護しているスタッフ全員に感謝の気持ちと支援を具現化していきたいと考えます。そして、自分たちの未来、今後のキャリアを描けるよう、組織、看護部の道筋を提示していきたいとします。

監事

やまうちとよあき

山内 豊明

座右の銘

神よ 我らに与えたまえ
変えることのできないものを受け入れる
冷静さと変えるべきものについてそれを
変える勇気とこの両者を識別することの
できる智恵とを。



スタッフのやる気を出すためには

「おだてるのではなく、褒める」

おだてるのは楽なこと、褒めるためには相手の行動や思いを深く知る必要があります。

「怒るのではなく、叱る」

怒るのは自己の感情コントロールができないみっともない姿、相手を思う気持ちがあって初めて叱ることができるのです。

監事

かさだともひろ

笠田 朋宏

座右の銘

命長ければ恥多し



スタッフのやる気を出すためには

「スタッフのやる気を出すためには？」と、スタッフから直接聞き出すことでしょう。十人十色なので各人モチベーションは違うはずですが、できるだけスタッフの意見を尊重してあげることでしょう。

もちろん、このように話し合える組織風土は当然ながら必要になると思います。

常務理事

くろだ みきこ
黒田 美喜子

座右の銘

一所懸命（一生は長く辛いので一つ所を懸命に）



退任あいさつ

平成28年6月より常務理事として事業係、千駄木訪問看護ステーション、会員係を担当いたしました。特に、会員係として中小規模の病院を訪問した際には、各看護部長さんの熱意に感激したことが鮮明に思い出されます。そして、そのことがそれぞれの事業に大きく役立つことになりました。

COVID-19拡大に伴い衛生資材の不足の際は、各施設の管理者の皆さまの苦悩が目に見え、一刻も早くお届けしたいと事業部一丸となって発送作業を行いました。

これからもさまざまな難題に直面することもあるかと思いますが、東京都看護協会の駆動力を持って乗り越えていくことを確信しております。

これまで委員会や事業におきまして、多くの方のご支援をいただきましたことを感謝申し上げ、東京都看護協会がさらに発展いたしますことを願っております。

助産師職能理事

きくち あつこ
菊地 敦子

座右の銘

努力あるのみ



退任あいさつ

助産師職能理事としての4年間、山元会長様はじめ東京都看護協会の理事の皆さま、職員の皆さまには、過大なるご指導とご支援を賜りました。また、都内の助産師の皆さまから、たくさんのご協力もいただきました。心からお礼を申し上げます。理事としての経験は、私の誇りであり財産となりました。

コロナ禍において、妊産褥や新生児、その家族へのきめ細やかな支援を実践していくことが大きな役割と認識しています。今後も、これまでの経験を活かして役割を発揮できるように、努力していきたいと思ひます。そして、コロナ禍の状況が収束し、人々が健康で充実した日々を過ごすことができる日が1日でも早く訪れることを心から願っております。

南部地区理事

さとう ふみえ
佐藤 文江

座右の銘

努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る



退任あいさつ

地区理事として4年間、大変お世話になりました。南部地区を中心に、会員の皆さまとの交流や看護職と地域との関わり方を模索し活動してきました。まちの保健室の活動や、病院と訪問看護ステーションとの連携を強めるための出前講座、コロナ禍で地域住民の方々に情報提供する試みなどを行ってきました。

この4年間で、東京都看護協会の活動は多岐にわたる内容の濃いものであることを改めてみてきました。協会の活動を多くの会員にお知らせし参加していただくところに力が及ばなかったと思いますが、自分自身は多くを学び感謝しております。

今後、東京都看護協会がさらに発展するよう、一会員として参加していきたいと思ひます。

監事

こしぶ たかずみ
小澁 高清

座右の銘

覚悟に勝る決断はなし



退任あいさつ

「監事の任期を終えて」

このたび、2021年6月の定時総会をもちまして監事を退任いたしました。この2期8年は、私の人生にとって多くの皆さまと出会い、掛け替えのない時間を過ごさせていただきました。任期中の大きな出来事と言えば、看護の「知の拠点」として素晴らしい新会館竣工が無事に行われたこと、さらに未曾有の新型コロナウイルス感染症に対し、東京都看護協会は医療従事者の中心的な存在としてご活躍され、世間の方からも絶大なる感謝と信頼を得たことは非常に印象的です。このような団体に関われたことを本当に誇りに思ひます。皆さまのますますのご活躍、ご発展を祈願して退任の言葉とさせていただきます。本当にお世話になりました。

令和2年度 東京都看護協会会長賞・感謝状受賞者

公益社団法人東京都看護協会 協会長表彰規程第3条の該当者

- (1) 通算20年以上会員で、本会への功労が認められた者
- (2) 本会の役員2期以上、委員3期以上従事した者
- (3) 看護業務及び研究、教育に20年以上従事し、功績があったと認められる者

池島 美智子	保健師職能理事	芝田 真由美	感染対策委員
伊藤 由美子	多摩南地区理事	石井 幸	感染対策委員
岡田 美保	保健師職能委員	宇賀神 ゆかり	広報委員
志村 明子	保健師職能委員	柳井 孝恵※	子育て支援委員
小檜山 敦子	助産師職能委員	山崎 桃子	子育て支援委員
佐藤 實	看護師職能委員(領域I)	真田 紀子	エイズ・ピア・エデュケーションSVチーム
大和田 陽子	教育委員	堂元 奈津子	エイズ・ピア・エデュケーションSVチーム
小松 由佳	教育委員	竹内 里絵子	エイズ・ピア・エデュケーションSVチーム
天舛 成子	医療安全委員	石原 実千代	南部地区 副支部長
中澤 恵子	医療安全委員	平山 房恵	南部地区 会計
大沼 扶久子※	社会経済福祉委員		

※は感謝状

令和2年度 各賞受賞者

春の叙勲	瑞宝双光章	太田 日出	公益社団法人日本看護協会会長表彰	青鹿 由紀
	瑞宝双光章	松下 博美	令和2年6月11日	秋野 たみ子
	瑞宝双光章	木村 弘江		安部 崇子
秋の叙勲	瑞宝単光章	村田 千幸		飯島 さく子
	瑞宝単光章	今 麗子		金指 るみ子
				嘉茂 すみ代
				西内 千代子
				福地本 晴美

令和2年度 寄附者・賛助会員御芳名

公益社団法人東京都看護協会へお寄せいただきました令和2年度の寄附は、教育・研究活動の支援、看護職確保定着等の公益事業充実のために活用しております。
ご寄附賜りました方々への感謝の意を込め、公開のご承諾をいただいた方についてご紹介いたします。

医療用物資等寄贈者〔個人〕

原田 祥子 様
風雲 空 様
鈴木 美智子 様
吳 秉倫 様

医療用物資等寄贈者〔法人〕

SOMPOコミュニケーションズ株式会社 様
株式会社イングリウッド 様
株式会社クレシオ 様
株式会社メビウス製菓 様
株式会社ヤクルト本社 首都圏支店 様
スタジオナミヤ大阪 様
ビジョンタヒラ株式会社 様
プラス・ケア株式会社 様
プレミアグループ株式会社 様
株式会社エル・ディー・アンド・ケイ 様
株式会社クレオラボ 様
株式会社セイワ・プロ 様
株式会社鎌倉製作所 様
公益財団法人東京都歴史文化財団 様
新興和製菓株式会社 様
新宿区立新宿養護学校 様
村中医療機器 様
大陽日酸株式会社 様
東京北ロータリークラブ、台北北ロータリークラブ 様
東洋羽毛工業株式会社 様
東洋羽毛首都圏販売株式会社 様

(以下、公益社団法人日本看護協会経由)
アメジスト大衛株式会社 様
株式会社ファーストリテイリング 様
株式会社ファンケル 様
株式会社マーキュリアインベストメント 様
ナガイレーベン株式会社 様
国際ロータリークラブ 様
東京海上日動火災保険株式会社 様
公益社団法人日本看護協会 様

一般寄附金寄贈者〔個人〕

山田 誠一郎 様
大沢 哲 様
黒澤 和子 様
島田 美樹 様
中澤 隆太 様
佐藤 岩雄 様

一般寄附金寄贈者〔法人〕

株式会社ジンテック 様
OC&Associates株式会社 様
日本看護用品協会 様
一般財団法人松本財団 様
株式会社シミズ・ビルライフケア 様
株式会社テレビショッピング研究所 様
株式会社金馬新聞 様
東洋羽毛首都圏販売株式会社 様
ニュートンワークス株式会社 様
栄研化学株式会社 様
ユニデンホールディングス株式会社 様
株式会社伊藤園新宿支店 様
東京キリンビバレッジサービス株式会社 様
一般社団法人渋谷青色申告会女性部 様

使途指定寄附金寄贈者〔個人〕

太宰 光子 様
中村 恭子 様
三上 修 様
大山 税 様
野澤 政伸 様
中村 謙 様
齋藤 勝雄 様
西尾 忠良 様
瀬戸 光一 様
佐藤 涼 様
江端 徳人 様
樋口 宗武 様
加藤 清吾 様
富田 紀義 様
野口 由紀 様
竹内 進哉 様
石井 啓二 様
堀田 芳生 様
飯田 佐恵 様
山下 啓一 様
戸村 智恵 様
奥 郁子 様
西 礼子 様
稲田 耕基 様
加茂 宏明 様
八木 隆明 様
坂本 優香子 様
寺島 輝夫 様
寺島 恵子 様
岡崎 隆之 様
五十嵐 達治 様
越智 貴雄 様
内田 龍馬 様
罇 五郎 様
佐伯 洋子 様

使途指定寄附金寄贈者〔法人〕

大磯産業株式会社 様
A hundred photo exhibition 様
社会福祉法人読売光と愛の事業団 様
経営企画出版 様
コートキーパー 様
有限会社しんばし 様
株式会社鎌倉製作所 様
バッドミュージックグループ音楽出版 様
株式会社On Court Racquet 様
株式会社メビウス製菓 様
株式会社レスメッド 様
ブントデザイン有限公司 様
ガーベラボランティア団体 様
薩摩建設株式会社さつま会 様
ティー・ロウ・ブライズ・ジャパン株式会社 様
株式会社ウィルエージェンシー 様
株式会社ジンテック 様
株式会社オールウイズ 様
株式会社HSジュエルカンパニー 様
ヒロマル防災株式会社 様
東京南ロータリークラブ 様
HLB Meisei有限責任監査法人 様
JIN'sMATE株式会社 様
HRガバナンス・リーダーズ株式会社 様
株式会社アドバンテスト 様
大学不動産連盟 様
グランヴェン株式会社 様
ビリーフ株式会社 様
生活協同組合コープみらい 様
株式会社ジオコード 様
株式会社新宿区新聞社 様
一般財団法人凸版印刷三幸会 様

使途指定寄附金寄贈者〔団体〕

都立東大和療育センター内第1病棟父母の会 様
12名の旅する写真家による医療従事者支援プロジェクト 様
東洋英和女学院中学部・高等部母の会 様
運河を美しくする会 様

賛助会員

フォーク株式会社 様
伊豆アート印刷株式会社 様
公益社団法人東京都助産師会 様
株式会社オーセンティックス 様
株式会社インターメディカ 様
東京インターナショナルリスクサービス株式会社 様
株式会社安全推進研究所Im SAFER研究会 様
一般社団法人日本病院会東京都支部 様
株式会社山菊 様
株式会社トータル保険サービス 様
一般社団法人日本能率協会 様
ニプロ株式会社東京第一支店 様
一般社団法人日本臨床看護マネジメント学会 様
睦技研株式会社 様
株式会社信公 様
一般社団法人日本動物看護職協会 様
株式会社トップ東京営業所 様
株式会社ジェイ・エム・エス 様
株式会社学研メディカルサポート 様
株式会社日本ケアコミュニケーションズ 様
佐藤 岩雄 様
株式会社EPARK 様
一般社団法人医療の質・安全学会 様
一般社団法人東京都訪問看護ステーション協会 様
株式会社ヤクルト本社首都圏支店 様
株式会社シーエイチシー 様
黒川 亨 様
サクラグローバルホールディング株式会社 様
生井 悦子 様
カシオ計算機株式会社 様
和洋女子大学 様
株式会社キタジマ 様
株式会社キューネットワークス 様
株式会社トップクラスジャパン 様
大成祭典株式会社 様
ビジョン株式会社 様
株式会社朝日エル 様
東洋羽毛首都圏販売株式会社 様
アイホン株式会社 様
日本光電工業株式会社東京支社 様

(順不同)

委員会・会議名	就任者役職氏名	
一般社団法人東京都訪問看護ステーション協会顧問 一般社団法人東京都日本病院会支部理事 公益社団法人日本看護協会地区理事 特定非営利活動法人キャンサーリボンス理事 一般社団法人日本臨床看護マネジメント学会理事 一般社団法人日本医療受診支援研究機構理事 一般社団法人日本臨床医学リスクマネジメント学会理事 一般社団法人日本臨床医学リスクマネジメント学会評議員 公益財団法人東京都福祉保健財団評議員 公益財団法人東京都医学総合研究所評議員 日本周麻酔期看護医学会世話人会世話人 東京都輸血療法研究会世話人会世話人 公益社団法人日本看護協会看護職賠償責任保険制度事故審査委員会委員長 公益社団法人日本看護協会看護業務の効率化・生産性向上のための支援策検討委員会委員 公益社団法人東京都医師会医療介護等人材検討委員会委員 東京都都立病院経営委員会委員 東京都都立病院医療安全推進委員会委員 東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会委員 東京都災害医療協議会委員 東京都医療審議会委員 東京都地域医療対策協議会委員 東京都地域医療対策協議会看護人材部会委員 東京都地域医療対策協議会看護人材部会准看護師養成に関するワーキンググループ委員 独立行政法人国立病院機構村山医療センター治験審査委員会委員 国立病院機構認定看護管理者教育課程（サードレベル）教育運営委員会委員 一般社団法人日本看護管理学会倫理委員会委員 一般社団法人医療安全全国共同行動企画委員会技術支援部会委員 一般社団法人日本病院会ホスピタルショウ委員会委員 HOSPEX Japan 2020 展示実行計画委員会委員 日本医療福祉設備学会プログラム委員会委員 東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議委員 第52回日本看護学会学術集会抄録選考委員	会長	山元 恵子
一般社団法人東京都訪問看護ステーション協会理事 社会福祉法人東京都社会福祉協議会評議員 公益社団法人東京都医師会地域包括ケア委員会委員 東京都保健医療計画推進協議会委員 東京都地域医療構想調整部会委員 東京都看護師等修学資金選考委員会委員 東京都ナースプラザ運営協議会委員 東京都感染症医療体制協議会委員 東京都循環器病対策推進協議会委員 東京糖尿病療養指導士認定機構幹事 一般社団法人日本禁煙学会評議員 公益社団法人東京都医師会タバコ対策委員会委員 公益社団法人東京都薬剤師会学術倫理特別委員会委員 東京都医療事故調査等支援団体連絡協議会運営委員会委員 東京都医療安全推進協議会委員 東京都糖尿病医療連携協議会委員 東京都リハビリテーション協議会委員 東京都リハビリテーション協議会地域リハビリテーション支援体制機能強化検討部会委員 東京都地域医療対策協議会勤務環境改善部会委員 東京都アレルギー疾患対策検討委員会委員 東京都医療情報に関する理解促進委員会委員 聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程学外委員 日本赤十字社幹部看護師研修センター運営委員会委員 東京医療福祉専門職大学教育課程連携協議会委員 国立成育医療研究センター医療事故調査委員会外部委員 第4回日本ヘルスケアダイバーシティ学会企画委員会委員	副会長	佐川 きよみ
一般社団法人東京都訪問看護ステーション協会理事 社会福祉法人東京都社会福祉協議会評議員 公益社団法人東京都医師会地域包括ケア委員会委員 東京都保健医療計画推進協議会委員 東京都地域医療構想調整部会委員 東京都看護師等修学資金選考委員会委員 東京都ナースプラザ運営協議会委員 東京都感染症医療体制協議会委員 東京都循環器病対策推進協議会委員 東京糖尿病療養指導士認定機構幹事 一般社団法人日本禁煙学会評議員 公益社団法人東京都医師会タバコ対策委員会委員 公益社団法人東京都薬剤師会学術倫理特別委員会委員 東京都医療事故調査等支援団体連絡協議会運営委員会委員 東京都医療安全推進協議会委員 東京都糖尿病医療連携協議会委員 東京都リハビリテーション協議会委員 東京都リハビリテーション協議会地域リハビリテーション支援体制機能強化検討部会委員 東京都地域医療対策協議会勤務環境改善部会委員 東京都アレルギー疾患対策検討委員会委員 東京都医療情報に関する理解促進委員会委員 聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程学外委員 日本赤十字社幹部看護師研修センター運営委員会委員 東京医療福祉専門職大学教育課程連携協議会委員 国立成育医療研究センター医療事故調査委員会外部委員 第4回日本ヘルスケアダイバーシティ学会企画委員会委員	専務理事	渡邊 千香子
一般社団法人東京都訪問看護ステーション協会顧問 一般社団法人東京都日本病院会支部理事 公益社団法人日本看護協会地区理事 特定非営利活動法人キャンサーリボンス理事 一般社団法人日本臨床看護マネジメント学会理事 一般社団法人日本医療受診支援研究機構理事 一般社団法人日本臨床医学リスクマネジメント学会理事 一般社団法人日本臨床医学リスクマネジメント学会評議員 公益財団法人東京都福祉保健財団評議員 公益財団法人東京都医学総合研究所評議員 日本周麻酔期看護医学会世話人会世話人 東京都輸血療法研究会世話人会世話人 公益社団法人日本看護協会看護職賠償責任保険制度事故審査委員会委員長 公益社団法人日本看護協会看護業務の効率化・生産性向上のための支援策検討委員会委員 公益社団法人東京都医師会医療介護等人材検討委員会委員 東京都都立病院経営委員会委員 東京都都立病院医療安全推進委員会委員 東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会委員 東京都災害医療協議会委員 東京都医療審議会委員 東京都地域医療対策協議会委員 東京都地域医療対策協議会看護人材部会委員 東京都地域医療対策協議会看護人材部会准看護師養成に関するワーキンググループ委員 独立行政法人国立病院機構村山医療センター治験審査委員会委員 国立病院機構認定看護管理者教育課程（サードレベル）教育運営委員会委員 一般社団法人日本看護管理学会倫理委員会委員 一般社団法人医療安全全国共同行動企画委員会技術支援部会委員 一般社団法人日本病院会ホスピタルショウ委員会委員 HOSPEX Japan 2020 展示実行計画委員会委員 日本医療福祉設備学会プログラム委員会委員 東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議委員 第52回日本看護学会学術集会抄録選考委員	常務理事	大橋 純江

委員会・会議名	就任者役職氏名	
東京都がん対策推進協議会委員 東京都がん対策推進協議会がん計画推進部会委員 東京都がん対策推進協議会病院機能部会委員 東京都在宅療養推進会議委員 東京都在宅療養推進会議訪問看護推進部会委員 東京都高齢者保健福祉施策推進委員会委員 東京都高齢者保健福祉計画策定委員会委員 東京都准看護師試験委員 東京都災害時こころのケア体制連絡調整会議委員 東京都後期高齢者医療懇談会委員 東京都認知症対策推進会議認知症医療支援体制検討部会委員 東京都地方精神保健福祉審議会委員 東京都多職種連携連絡会委員 団体向け新型コロナウイルス感染防止対策自主点検等支援事業補助事業者選定委員会委員 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業に係る関係者連絡会委員 女性も男性も輝くTOKYO会議委員 東京マラソン財団医療救護委員会委員 東京都立広尾病院業務委託等総合評価委員会特別委員 昭和大学看護キャリア開発・研究センター教育委員会委員 東京都介護労働懇談会構成員 東京都感染拡大防止アドバイザー	常務理事	黒田 美喜子
東京都地域医療構想調整会議構成員（区東北部・区東部）	東部地区理事	佐久間 あゆみ
東京都地域医療構想調整会議構成員（区西部・区西北部）	西部地区理事	大沼 扶久子
東京都地域医療構想調整会議構成員（区南部・区西南部）	南部地区理事	佐藤 文江
東京都地域医療構想調整会議構成員（区中央部）	中部地区理事	木村 ひづる
東京都地域医療構想調整会議構成員（西多摩・北多摩西部・北多摩北部）	多摩北地区理事	伊東 恵美子
東京都地域医療構想調整会議構成員（南多摩・北多摩南部）	多摩南地区理事	池亀 俊美
東京都地域医療構想調整会議構成員（島しょ）	地域包括ケア委員	西浜 直江
公益社団法人日本看護協会認定看護師教育機関審査会委員 東京労働局 医療・福祉分野求職開拓事業に係る提案書技術審査委員会委員	ナースプラザ所長	佐藤 浩子
一般社団法人日本医療保育学会資格認定委員会委員	事業係主任	佐々木 祥子
日本看護図書館協会監事	図書係司書	勢田 玲生
東京都感染拡大防止アドバイザー	事業係	渡辺 常子
東京都感染拡大防止アドバイザー	会員係	駒木根 由美子
東京都感染拡大防止アドバイザー	危機管理対策係	上原 さゆり
東京都感染拡大防止アドバイザー	危機管理対策係	中島 ひとみ
東京都介護保険審査会委員	千駄木訪問看護ステーション管理者	竹内 里絵子
東京都国民健康保険団体連合会介護給付費審査委員会委員	千駄木訪問看護ステーション主任	根本 万里子
東京都多職種連携連絡会事例検討ワーキングチーム委員	会員	末吉 美花
東京都認知症疾患医療センター審査会委員	会員	桑田 美代子
東京都国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員	会員	松浦 美紀
東京都輸血療法研究会世話人会世話人	会員	長内 佐斗子
国分寺市介護認定審査会委員	会員	須貝 恵目
北区障害者介護給付費等審査会委員	会員	吉田 孝子
北区介護保険認定審査会審査委員	会員	井町 恭子
北区介護保険認定審査会審査委員	会員	小暮 和歌子
北区介護保険認定審査会審査委員	会員	高橋 麻由美
北区介護保険認定審査会審査委員	会員	西村 祐子
北区介護保険認定審査会審査委員	会員	川上 滋子
豊島区介護認定審査会委員	会員	社本 ゆかり
豊島区介護認定審査会委員	会員	佐々木 美枝子
豊島区介護認定審査会委員	会員	會本 啓子
町田市介護認定審査会委員	会員	鳥谷 邦子
町田市介護認定審査会委員	会員	松本 美榮子
町田市介護認定審査会委員	会員	本田 直子
町田市介護認定審査会委員	会員	池島 美智子
町田市介護認定審査会委員	会員	竹縄 直子
町田市障害支援区分認定審査会委員	会員	臼井 豊子

日程	委員会・会議名	出席者	備考
令和2年4月2日	昭和大学看護キャリア開発・研究センター 認定看護管理者教育課程教育委員会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和2年4月6日	東京都感染症医療体制協議会	渡邊 千香子(専務理事)	書面開催
令和2年4月8日	日本看護協会理事会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年4月9日	東京都薬剤師会学術倫理特別委員会	大橋 純江(常務理事)	書面開催
令和2年4月9日	聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程委員会	大橋 純江(常務理事)	書面開催
令和2年4月21日	日本病院会東京都支部理事会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年4月30日	東京都感染症医療体制協議会	渡邊 千香子(専務理事)	書面開催
令和2年5月8日	日本看護協会理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年5月11日	東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年5月15日	HOSPEX Japan 2020展示実行計画委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年5月19日	日本病院会東京都支部社員総会	山元 恵子(会長)	
令和2年6月1日	東京都認知症対策推進会議認知症医療支援体制検討部会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和2年6月11日	日本看護協会通常総会	山元 恵子(会長)	他10名
令和2年6月11日	日本看護協会理事会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年6月12日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和2年6月15日	東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年6月16日	日本病院会東京都支部定時総会	山元 恵子(会長)	
令和2年6月16日	日本病院会東京都支部看護部会	山元 恵子(会長)	
令和2年6月18日	東京糖尿病療養指導士認定機構幹事会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年6月19日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年6月22日	東京都医学総合研究所評議員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年6月23日	東京都地域医療構想調整会議(区南部圏域)	佐藤 文江(南部地区理事)	Web開催
令和2年6月24日	東京都地域医療構想調整会議(区西部圏域)	大沼 扶久子(西部地区理事)	Web開催
令和2年6月26日	東京都社会福祉協議会評議員会	渡邊 千香子(専務理事)	書面開催
令和2年6月26日	東京都後期高齢者医療懇談会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和2年6月26日	東京都高齢者保健福祉施策推進委員会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和2年6月29日	東京都訪問看護推進部会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和2年6月29日	東京都地域医療構想調整会議(南多摩圏域)	平田 真由美(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年6月30日	東京都高齢者保健福祉計画策定委員会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和2年6月30日	東京都地域医療構想調整会議(北多摩西部圏域)	伊東 恵美子(多摩北地区理事)	Web開催
令和2年6月30日	東京都国保連合会介護給付費等審査委員会	根本 万里子(千駄木訪問看護ステーション主任)	
令和2年7月1日	東京都地域医療構想調整会議(西多摩圏域)	松浦 典子(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年7月2日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年7月2日	東京都訪問看護ステーション協会理事会	山元 恵子(会長) 渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和2年7月2日	東京都地域医療構想調整会議(北多摩北部圏域)	藤島 智子(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年7月3日	東京都医師会地域包括ケア委員会	渡邊 千香子(専務理事)	
令和2年7月3日	東京都地域医療対策協議会勤務環境改善部会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年7月3日	東京都地域医療構想調整会議(北多摩南部圏域)	池亀 俊美(多摩南地区理事)	Web開催
令和2年7月6日	日本看護協会看護業務の効率化・生産性向上のための 支援策検討委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年7月6日	東京都地域医療構想調整会議(区西北部圏域)	市橋 富子(地域包括ケア委員長)	Web開催
令和2年7月7日	東京都准看護師試験委員会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年7月7日	東京都地域医療構想調整会議(区中央部圏域)	木村 ひづる(中部地区理事)	Web開催
令和2年7月8日	東京都地域医療構想調整会議(区西南部圏域)	笠松 由佳(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年7月9日	東京都医療安全推進協議会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年7月9日	東京都多職種連携連絡会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年7月9日	東京都地域医療構想調整会議(区東北部圏域)	小原 かおる(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年7月9日	日本看護図書館協会理事会	勢田 玲生(教育部図書係司書)	Web開催
令和2年7月10日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和2年7月13日	日本医療福祉設備学会プログラム委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年7月13日	東京都災害医療協議会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年7月14日	東京都地域医療構想調整会議(区東部圏域)	佐久間 あゆみ(東部地区理事)	Web開催
令和2年7月17日	HOSPEX Japan 2020展示実行計画委員会	山元 恵子(会長)	Web開催

日程	委員会・会議名	出席者	備考
令和2年7月17日	東京都地域医療対策協議会看護人材部会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年7月20日	東京都保健医療計画推進協議会	渡邊 千香子(専務理事)	書面開催
令和2年7月21日	東京都日本病院会支部理事会	山元 恵子(会長)	
令和2年7月21日	東京都日本病院会支部看護部会	山元 恵子(会長)	
令和2年7月27日	東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年7月27日	東京都福祉保健財団定時評議員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年7月29日	東京都地域医療対策協議会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年7月30日～31日	日本看護協会理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年7月30日	東京都看護師等修学資金選考委員会	渡邊 千香子(専務理事)	
令和2年7月30日	東京都地域医療構想調整部会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和2年7月30日	東京都感染症医療体制協議会	渡邊 千香子(専務理事)	書面開催
令和2年8月1日	日本臨床看護マネジメント学会理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年8月3日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年8月4日	東京都訪問看護推進部会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和2年8月6日	東京都医師会タバコ対策委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年8月12日	国立病院機構認定看護管理者教育課程教育運営委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年8月12日	東京都輸血療法研究会世話人会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年8月14日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和2年8月14日	東京都アレルギー疾患対策検討委員会	大橋 純江(常務理事)	書面開催
令和2年8月18日	日本看護協会法人会員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年8月24日	東京都国保連合会介護給付費等審査部会	根本 万里子(千駄木訪問看護ステーション主任)	
令和2年8月27日	東京都医療従事者ネットワーク連絡会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年9月1日	東京都医療事故調査等支援団体連絡協議会運営委員会	大橋 純江(常務理事)	
令和2年9月3日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年9月3日	東京都医師会タバコ対策委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年9月8日	東京都訪問看護ステーション協会総務会	山元 恵子(会長) 渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和2年9月9日	日本看護協会看護業務の効率化・生産性向上のための 支援策検討委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年9月10日	東京都多職種連携連絡会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年9月10日	都道府県看護協会会員情報管理情報交換会	山田 美代子(事業部会員係)	Web開催
令和2年9月11日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和2年9月11日	日本看護図書館協会理事会	勢田 玲生(教育部図書係司書)	Web開催
令和2年9月15日	日本医療福祉設備学会プログラム委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年9月15日	東京都日本病院会支部理事会	山元 恵子(会長)	
令和2年9月15日	東京都日本病院会支部看護部会	山元 恵子(会長)	
令和2年9月15日	東京都糖尿病医療連携協議会	大橋 純江(常務理事)	書面開催
令和2年9月16日	日本看護図書館協会理事会	勢田 玲生(教育部図書係司書)	Web開催
令和2年9月17日	東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年9月17日	東京都がん対策推進協議会・ 東京都がん対策推進協議会計画推進部会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和2年9月17日	日本看護協会認定看護管理者教育機関担当者会議	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年9月24日	日本看護協会・日本看護連盟合同会議	山元 恵子(会長)	
令和2年9月24日	東京都医師会地域包括ケア委員会	渡邊 千香子(専務理事)	
令和2年9月25日	日本看護協会理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年9月28日	日本医療受診支援研究機構理事会	山元 恵子(会長)	
令和2年9月29日	東京都国保連合会介護給付費等審査委員会	根本 万里子(千駄木訪問看護ステーション主任)	
令和2年10月1日	東京都医師会タバコ対策委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年10月2日	東京都准看護師試験委員会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年10月7日	東京都地域医療対策協議会看護人材部会 ワーキンググループ	山元 恵子(会長)	
令和2年10月13日	東京都訪問看護ステーション協会総務会	山元 恵子(会長) 渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和2年10月14日	東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和2年10月15日	東京都医師会医療介護等人材検討委員会	山元 恵子(会長)	

日程	委員会・会議名	出席者	備考
令和2年10月15日	東京都医学総合研究所評議員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和2年10月15日	東京都感染症医療体制協議会	渡邊 千香子(専務理事)	書面開催
令和2年10月20日	東京都日本病院会支部理事会	山元 恵子(会長)	
令和2年10月21日	日本看護図書館協会理事会	勢田 玲生(教育部図書係司書)	Web開催
令和2年10月22日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年10月22日	東京都医師会地域包括ケア委員会	渡邊 千香子(専務理事)	
令和2年10月23日	日本看護協会看護業務の効率化・生産性向上のための支援策検討委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年10月26日	東京都保健医療計画推進協議会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和2年10月27日	東京都国保連合会介護給付費等審査委員会	根本 万里子(千駄木訪問看護ステーション主任)	
令和2年10月27日	東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議	佐川 きよみ(副会長)	書面開催
令和2年10月28日	東京都医療情報に関する理解促進委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年10月29日	日本看護協会地区別法人会会員会	山元 恵子(会長) 渡邊 千香子(専務理事)	
令和2年10月29日	東京都地方精神保健福祉審議会依存症対策部会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和2年10月30日	東京都社会福祉協議会評議員会	渡邊 千香子(専務理事)	書面開催
令和2年10月30日	東京都准看護師試験委員会資格審査専門部会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年10月30日	日本看護協会全国職能委員長会	神楽岡 澄(保健師職能理事) 菊地 敦子(助産師職能理事) 中野 博美(看護師職能理事) 間瀬 由紀子(看護師職能Ⅱ委員長)	Web開催
令和2年11月4日	東京都地域医療対策協議会看護人材部会 ワーキンググループ	山元 恵子(会長)	
令和2年11月5日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年11月5日	東京都医師会タバコ対策委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年11月6日	日本看護協会看護業務の効率化・生産性向上のための支援策検討委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年11月6日	国立成育医療研究センター医療事故調査委員会	大橋 純江(常務理事)	
令和2年11月10日	団体向け新型コロナウイルス感染防止対策自主点検等支援事業補助事業者選定委員会	黒田 美喜子(常務理事)	メール 開催
令和2年11月11日	日本看護協会認定看護師教育機関審査会	佐藤 浩子(ナースプラザ所長)	
令和2年11月11日	都道府県看護協会災害看護担当者会議	仙道 かほる(危機管理対策係長)	Web開催
令和2年11月12日	東京都多職種連携連絡会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年11月12日	東京都地域医療構想調整会議(北多摩南部圏域)	池亀 俊美(多摩南地区理事)	Web開催
令和2年11月13日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年11月13日	東京都訪問看護ステーション協会総務会	山元 恵子(会長) 渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和2年11月16日	東京都福祉保健財団臨時評議員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年11月16日	東京都介護労働懇談会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年11月17日	東京都日本病院会支部理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年11月19日	都道府県看護協会・ 都道府県訪問看護連絡協議会合同会議	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和2年11月19日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (区中央部圏域)	佐藤 八重子(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年11月19日	東京都国保連合会介護給付費等審査部会	根本 万里子(千駄木訪問看護ステーション主任)	
令和2年11月20日	東京都地域医療構想調整会議(西多摩圏域)	山崎 あゆ子(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年11月24日	東京都日本病院会支部看護部会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年11月24日	東京都地方精神保健福祉審議会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和2年11月24日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (西多摩圏域)	井上 理恵(地域包括ケア副委員長)	Web開催
令和2年11月25日	団体向け新型コロナウイルス感染防止対策自主点検等支援事業補助事業者選定委員会	黒田 美喜子(常務理事)	メール 開催
令和2年11月25日	都道府県看護協会看護労働担当者会議	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年11月26日	日本看護協会理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年11月26日	東京都医師会地域包括ケア委員会	渡邊 千香子(専務理事)	
令和2年11月26日	東京都後期高齢者医療懇談会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催

日程	委員会・会議名	出席者	備考
令和2年11月27日	日本看護協会法人会会員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年11月27日	東京都地域医療構想調整会議(区中央部圏域)	木村 ひづる(中部地区理事)	Web開催
令和2年11月30日	公益法人運営に関する地区別勉強会	黒川 亨(事務局長) 成田 梯子(総務課会計係長)	Web開催
令和2年11月30日	東京都地域医療構想調整会議(区西部圏域)	大沼 扶久子(西部地区理事)	Web開催
令和2年12月1日	東京都医療事故調査等支援団体連絡協議会運営委員会	大橋 純江(常務理事)	
令和2年12月1日	東京都地域医療構想調整会議(区南部圏域)	佐藤 文江(南部地区理事)	Web開催
令和2年12月2日	東京都地域医療対策協議会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年12月3日	東京都医師会タバコ対策委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年12月3日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (北多摩西部圏域)	伊東 恵美子(多摩北地区理事)	Web開催
令和2年12月4日	東京都地域医療構想調整会議(区西南部圏域)	笠松 由佳(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年12月9日	東京都立広尾病院業務委託等総合評価委員会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和2年12月10日	日本看護協会全国准看護師理事会議	伊藤 ちえ(准看護師理事)	Web開催
令和2年12月11日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和2年12月11日	東京都訪問看護ステーション協会総務会	山元 恵子(会長) 渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和2年12月15日	東京都日本病院会支部理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年12月15日	東京都リハビリテーション協議会地域リハビリテーション 支援体制機能強化検討部会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年12月16日	東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和2年12月17日	東京都医師会医療介護等人材検討委員会	山元 恵子(会長)	
令和2年12月18日	女性も男性も輝くTOKYO会議	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和2年12月19日	日本臨床看護マネジメント学会理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和2年12月19日	日本看護図書館協会理事会	勢田 玲生(教育部図書係司書)	
令和2年12月22日	東京都地域医療構想調整会議(北多摩西部圏域)	伊東 恵美子(多摩北地区理事)	Web開催
令和2年12月23日	東京都保健医療計画中間見直し検討部会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和2年12月23日	東京都地域医療対策協議会勤務環境改善部会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和2年12月24日	東京都医師会地域包括ケア委員会	渡邊 千香子(専務理事)	
令和2年12月24日	東京都地域医療構想調整会議(北多摩北部圏域)	藤島 智子(地域包括ケア委員)	Web開催
令和2年12月25日	昭和大学看護キャリア開発・研究センター 認定看護管理者教育課程教育委員会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和2年12月28日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年1月5日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (南多摩圏域)	伊藤 由美子(地域包括ケア委員)	Web開催
令和3年1月7日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年1月7日	東京都医師会タバコ対策委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年1月7日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (北多摩南部圏域)	池亀 俊美(多摩南地区理事)	Web開催
令和3年1月8日	東京都地域医療構想調整会議(南多摩圏域)	平田 真由美(地域包括ケア委員)	Web開催
令和3年1月12日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (北多摩北部圏域)	廣田 利枝(地域包括ケア委員)	Web開催
令和3年1月13日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (区西南部圏域)	塘地 正美(地域包括ケア副委員長)	Web開催
令和3年1月14日	HOSPEX Japan 2020展示実行計画委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年1月14日	東京都地域医療対策協議会看護人材部会 ワーキンググループ	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年1月14日	東京都多職種連携連絡会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和3年1月14日	東京都地域医療構想調整会議(区東北部圏域)	小原 かおる(地域包括ケア委員)	Web開催
令和3年1月14日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (区西北部圏域)	市橋 富子(地域包括ケア委員長)	Web開催
令和3年1月15日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和3年1月15日	都道府県看護協会広報担当役員会議	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年1月18日	日本赤十字社幹部看護師研修センター運営委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年1月18日	東京都高齢者保健福祉計画策定委員会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催

日程	委員会・会議名	出席者	備考
令和3年1月19日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (区南部圏域)	佐藤 文江(南部地区理事)	Web開催
令和3年1月20日	東京都地域医療構想調整会議(区東部圏域)	佐久間 あゆみ(東部地区理事)	Web開催
令和3年1月21日	東京マラソン医療救護委員会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和3年1月21日	東京都地域医療構想調整会議(区西北部圏域)	市橋 富子(地域包括ケア委員長)	Web開催
令和3年1月22日	東京都医療安全推進協議会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年1月26日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (区西部圏域)	大沼 扶久子(西部地区理事)	Web開催
令和3年1月27日	日本看護図書館協会理事会	勢田 玲生(教育部図書係司書)	Web開催
令和3年1月27日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (区東部圏域)	佐久間 あゆみ(東部地区理事)	Web開催
令和3年1月27日	東京都地域医療構想調整会議(島しょ圏域)	西浜 直江(地域包括ケア委員)	Web開催
令和3年1月28日	日本病院会ホスピタルショウ委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年1月28日	東京都医師会地域包括ケア委員会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年1月28日	東京都地域医療構想調整会議在宅療養ワーキング (区東北部圏域)	小原 かおる(地域包括ケア委員)	Web開催
令和3年1月28日	東京都国保連合会介護給付費等審査委員会	根本 万里子(千駄木訪問看護ステーション主任)	
令和3年1月29日	東京都保健医療計画中間見直し検討部会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年1月29日	都道府県看護協会図書室担当者研修会	勢田 玲生(教育部図書係司書)	Web開催
令和3年2月4日	東京都医師会タバコ対策委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年2月8日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年2月8日	都道府県看護協会母子のための地域包括ケアシステム 推進会議	佐川 きよみ(副会長) 松本 弘子(副会長) 渡邊 千香子(専務理事) 黒田 美喜子(常務理事) 菊地 敦子(助産師職能理事)	Web開催
令和3年2月9日	東京都日本病院会支部看護部会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年2月10日	東京都ナースプラザ運営協議会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年2月10日	日本看護協会全国看護基礎教育担当役員会議	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年2月12日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和3年2月15日	東京都地域医療構想調整部会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年2月15日	東京都後期高齢者医療懇談会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和3年2月15日	東京都高齢者保健福祉施策推進委員会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和3年2月16日	東京都医療関係施設整備費補助対象事業者審査委員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和3年2月18日	東京都国保連合会介護給付費等審査部会	根本 万里子(千駄木訪問看護ステーション主任)	
令和3年2月22日	東京都訪問看護ステーション協会総務会	山元 恵子(会長) 渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年2月22日	東京都二次保健医療圏地域災害医療連携会議 (北多摩北部圏域)	仙道 かほる(危機管理対策係長)	Web開催
令和3年2月24日	東京都地域医療対策協議会看護人材部会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年2月25日	都道府県看護協会政策責任者会議	山元 恵子(会長) 渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年2月25日~26日	日本看護協会理事会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年2月25日	東京都医師会地域包括ケア委員会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年2月25日	東京都介護労働懇談会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和3年2月25日	東京都二次保健医療圏地域災害医療連携会議 (北多摩西部圏域)	仙道 かほる(危機管理対策係長)	Web開催
令和3年2月25日	東京都二次保健医療圏地域災害医療連携会議 (区南部圏域)	仙道 かほる(危機管理対策係長)	Web開催
令和3年2月26日	東京都准看護師試験委員会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和3年2月26日	東京都在宅療養推進会議	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和3年3月1日	東京都二次保健医療圏地域災害医療連携会議 (区西部圏域)	仙道 かほる(危機管理対策係長)	Web開催
令和3年3月2日	東京都アレルギー疾患対策検討委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年3月3日	看護職賠償責任保険制度事故審査委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月3日	東京都保健医療計画推進協議会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催

日程	委員会・会議名	出席者	備考
令和3年3月3日	都道府県看護協会医療安全担当役員会議	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年3月4日	国立病院機構認定看護管理者教育課程教育運営委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月4日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月4日	東京都医師会タバコ対策委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年3月5日	日本看護協会看護業務の効率化・生産性向上のための 支援策検討委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月5日	東京都立広尾病院業務委託等総合評価委員会	黒田 美喜子(常務理事)	
令和3年3月5日	東京都二次保健医療圏地域災害医療連携会議 (区西南部圏域)	仙道 かほる(危機管理対策係長)	Web開催
令和3年3月8日	日本赤十字社幹部看護師研修センター運営委員会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年3月8日	東京都薬剤師会地域包括ケアシステムにおける薬局・ 薬剤師の機能強化事業関係者連絡会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和3年3月8日	日本看護図書館協会理事会	勢田 玲生(教育部図書係司書)	Web開催
令和3年3月8日	東京都二次保健医療圏地域災害医療連携会議 (区中央部圏域)	仙道 かほる(危機管理対策係長)	メール開催
令和3年3月10日	日本看護協会全国看護師職能委員長会(領域Ⅰ)	中野 博美(看護師職能理事)	Web開催
令和3年3月10日	日本看護協会全国看護師職能委員長会(領域Ⅱ)	間渕 由紀子(看護師職能Ⅱ委員長)	Web開催
令和3年3月11日	東京都多職種連携連絡会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和3年3月11日	東京マラソン医療救護委員会	黒田 美喜子(常務理事)	Web開催
令和3年3月11日	日本看護協会全国保健師職能委員長会	神楽岡 澄(保健師職能理事)	Web開催
令和3年3月11日	日本看護協会全国助産師職能委員長会	菊地 敦子(助産師職能理事)	Web開催
令和3年3月12日	国立病院機構村山医療センター治験審査委員会	山元 恵子(会長)	
令和3年3月16日	東京都医療審議会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和3年3月17日	国立病院機構幹部看護師任用候補者選考研修等 テキスト選定委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月17日	東京都二次保健医療圏地域災害医療連携会議 (区東北部圏域)	仙道 かほる(危機管理対策係長)	Web開催
令和3年3月18日	東京都二次保健医療圏地域災害医療連携会議 (区東部圏域)	仙道 かほる(危機管理対策係長)	書面開催
令和3年3月22日	国立病院機構幹部看護師任用候補者選考研修等 テキスト選定委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月22日	東京都福祉保健財団定時評議員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月23日	東京都立病院医療安全推進委員会	山元 恵子(会長)	書面開催
令和3年3月23日	東京都リハビリテーション協議会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年3月23日	東京都介護保険審査会	竹内 里絵子(千駄木訪問看護ステーション管理者)	
令和3年3月24日	東京都立病院経営委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月24日	東京都地域医療対策協議会勤務環境改善部会	大橋 純江(常務理事)	Web開催
令和3年3月25日	東京都医師会地域包括ケア委員会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年3月25日	東京都循環器病対策推進協議会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年3月26日	東京都地域医療対策協議会	山元 恵子(会長)	
令和3年3月26日	東京都社会福祉協議会評議員会	渡邊 千香子(専務理事)	Web開催
令和3年3月26日	東京都介護労働懇談会	黒田 美喜子(常務理事)	書面開催
令和3年3月29日	東京都医療審議会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月30日	医療の質・安全学会医療安全管理者ネットワーク委員会	山元 恵子(会長)	Web開催
令和3年3月30日	東京都国保連合会介護給付費等審査委員会	根本 万里子(千駄木訪問看護ステーション主任)	

	日程	学会等名称
共催	令和2年9月20日	第35回医療安全管理者ネットワーク会議
	令和2年9月26日	第4回日本ヘルスケアダイバーシティ学会
	令和2年11月3日	産み・育て・家族・そして未来に！2020
	令和2年11月11日～13日	HOSPEx Japan 2020 看護セミナー
	令和3年1月28日	東京都日本病院会支部看護部会研修会
協賛	令和2年11月11日～13日	HOSPEx Japan 2020
後援	令和2年10月3日～4日	第9回全国医療経営士実践研究大会 東京大会
	令和2年10月10日～25日	日本転倒予防学会第7回学術集会
	令和2年10月14日～16日	第3回医療と介護の総合展・東京
	令和2年11月10日～12月10日	第68回手足の不自由な子どもを育てる運動
	令和2年11月11日～12日	第49回日本医療福祉設備学会
	令和2年11月14日	第10回国際医療英語認定試験(CBMS)・ジュニアCBMS
	令和2年11月20日～12月6日	第25回日本難病看護学会・第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会
	令和2年11月30日～令和3年3月31日	第19回東京都輸血療法研究会
	令和2年12月5日～6日	第23回日本アロマセラピー学会学術総会
	令和2年12月6日	東京都医師会主催第84回准看護師卒後教育講習会
	令和2年12月19日	連続セミナー〔実例から知る、「発達の遅れ」が気になる子どもの教え方〕第21回
	令和2年12月25日～令和3年1月24日	第9回日本公衆衛生看護学会学術集会
	令和3年1月10日～24日	第39回東京都理学療法学術大会
	令和3年3月14日～28日	日本集団精神療法学会第38回学術大会

行事名称	日程	会場
第1回書面理事会	令和2年4月10日	書面開催
第1回理事会	令和2年5月8日	JNAホール(東京)Web開催
通常総会、全国職能別交流集会	令和2年6月11日	JNAホール(東京)Web開催
第2回書面理事会	令和2年6月11日	書面開催
ナースセンター事業担当者会議	令和2年7月3日	書面開催
第1回全国職能委員長会	令和2年7月15日	ホームページ資料掲載
第2回理事会	令和2年7月30日	JNAホール(東京)Web開催
新会員情報管理体制(ナースシップ)担当者会議	令和2年9月10日	Web開催
都道府県看護協会教育担当者会議	令和2年9月17日	Web開催
第3回理事会	令和2年9月25日	JNAホール(東京)Web開催
地区別法人会員会	令和2年10月29日～30日	ホテルオークラ新潟(新潟)
地区別職能委員長会	令和2年10月30日	Web開催
日本看護学会学術集会 Web学会	令和2年11月1日～30日	Web開催
都道府県看護協会災害看護担当者会議	令和2年11月11日	Web開催
訪問看護連絡協議会全国会議	令和2年11月19日	Web開催
都道府県看護協会 看護労働担当者会議	令和2年11月25日	Web開催
第4回理事会	令和2年11月26日	JNAホール(東京)Web開催
災害支援ナース派遣調整合同訓練	令和2年12月8日～10日	Web開催
都道府県看護協会広報担当役員会議	令和3年1月15日	Web開催
Nursing Nowフォーラム・イン・ジャパン 「看護の日・看護週間」制定30周年記念イベント	令和3年1月21日	Web開催
都道府県看護協会政策責任者会議	令和3年2月25日	Web開催
第5回理事会	令和3年2月25日～26日	JNAホール(東京)Web開催
第2回全国職能委員長会	令和3年2月26日～3月31日	ホームページ資料掲載
代議員研修会	中止	
都道府県看護協会支部役員等研修	中止	
都道府県看護協会事務担当者会議	中止	
全国准看護師制度担当役員会議	中止	

委員会名	委員	職位	氏名
保健師職能委員会	担当理事	専務理事	渡邊 千香子
		副会長	佐川 きよみ
	委員長	職能理事	神楽岡 澄
	委員		相良 裕美
			西内 千代子
			関根 麻里絵
小竹 明里			
寺山 奈見			
		藤原 紀子	
	アドバイザー		中板 育美
助産師職能委員会	担当理事	常務理事	黒田 美喜子
		副会長	松本 弘子
	委員長	職能理事	菊地 敦子
	委員		安藤 美香
			小笠原 慶子
西山 悦子			
梅本 かおり			
山中 伸美			
		櫻井 明美	
看護師職能委員会 領域Ⅰ	担当理事	常務理事	大橋 純江
		副会長	佐野 廣子
		准看理事	伊藤 ちえ
	委員長	職能理事	中野 博美
	委員		山本 洋子
五十嵐 裕子			
小門 尚子			
萩本 孝子			
町田 あかね			
		岩崎 康子	
看護師職能委員会 領域Ⅱ	担当理事	常務理事	黒田 美喜子
		副会長	佐野 廣子
		職能理事	中野 博美
	委員長		間瀬 由紀子
	委員		細谷 恵子
佐野 優美			
志賀 逸子			
教育委員会	担当理事	常務理事	大橋 純江
	委員長		大坂 勉
	委員		小倉 嘉子
			小島 昌人
			小林 宏栄
			猪又 知子
			磯 知恵
			阿部 典子
			横田 由佳
			菊地 美貴
			栗原 良子
			鈴木 淳子
中村 くに子			
		滝口 珠子(～8月)	

委員会名	委員	職位	氏名
学術推進委員会	担当理事	常務理事	大橋 純江
	委員長		駒形 朋子
	委員		高井 今日子
			小澤 かおり
岡 美雪			
宮崎 隆			
菊地 美貴			
栗原 良子			
鈴木 淳子			
中村 くに子			
滝口 珠子(～8月)			
医療安全委員会	担当理事	常務理事	大橋 純江
	委員長		藤原 喜美子
	委員		益田 亜佐子
			上田 千鶴
土師 菜緒子			
塩谷 真理子			
李代 馨香			
梶 良恵			
菊地 美貴			
滝口 珠子(～8月)			
社会経済 福祉委員会	担当理事	常務理事	大橋 純江
	委員長		樋口 幸子
	委員		澁澤 盛子
			阿部 珠美
古屋 節子			
渡邊 啓子			
看護制度委員会	担当理事	常務理事 准看理事	黒田 美喜子 伊藤 ちえ
	委員長		影山 美子
	委員		西川 英子
			上坂 千代美
成田 朋子			
五十嵐 登美江 伊勢谷 佐代子			
感染対策委員会	担当理事	常務理事	黒田 美喜子
	委員長		佐藤 香理奈
	委員		杉木 優子
			西川 美由紀
中野 聖子			
武田 悦恵			
眞柄 雄樹			
佐々木 恭兵			
長井 直人			
高麗 美由紀 鴨田 玲子			

委員会名	委員	職位	氏名
災害対策委員会	担当理事	専務理事	渡邊 千香子
	委員長		宮地 富士子
	委員		黒澤 和子
			内木 美恵
			牧野 由紀子
			石澤 緑
			椿 貴年
北澤 隆二			
加藤 千鶴子			
仙道 かほる			
広報委員会	担当理事	専務理事	渡邊 千香子
	委員長		北條 志穂
	委員		金子 美由紀
			中山 裕子
			関口 和子
			大田 千恵
			三浦 由美子
大島 久美			
伊藤 麻乃			
地域包括ケア 委員会	担当理事	専務理事	渡邊 千香子
	委員長		市橋 富子
	委員		鶴ヶ崎 かほる
			藤野 恭子
			小原 かおる
			佐久間 あゆみ
			木村 加代子
			久野 めぐみ
			大沼 扶久子
			小林 映子
			川合 美穂子
			武良 浩子
			藤井 由加里
			大城 優子
			相馬 泰子
			佐藤 文江
			笠松 由佳
			浜本 奈美江
			塘地 正美
			佐藤 八重子
			鈴木 千晴
			宮本 千恵美
			中野 博美
			樋口 幸子
			西浜 直江
			藤島 智子
			廣田 利枝
			樋口 早智子
松浦 典子			
山崎 あゆ子			

委員会名	委員	職位	氏名
地域包括ケア 委員会	委員		井上 理恵
			平田 真由美
			伊藤 由美子
			北川 ひとみ
			長谷部 美津代
子育て支援委員会	担当理事	常務理事	黒田 美喜子
	委員長		大久保 嘉子
	委員		今井 洋子
			尾高 大輔
			吉武 慎治
			志村 明子
			関口 和子
			須賀 己代子
			本間 佐衣子
			谷本 美保子
			佐々木 祥子
秋野 たみ子			
十日市 科奈子			
推薦委員会	担当	事務局長	黒川 亨
	委員長		坂口 康広
	委員		岡田 美保
			菅原 美鈴
			清水 緑
			林 あゆみ
			大西 明子
			北川 亜希子
			下大迫 明子
中井 多摩美			
選挙管理委員会	担当	事務局長	黒川 亨
	委員長		廣谷 ひろみ
	委員		田中 郁子
			松本 早苗
			武田 智子
			若林 輝美
			西井 順子
			畠山 優子
			児玉 知実
櫻井 寿美			
山内 光			
劔持 雄二			
高橋 美樹			

支部名	役職	氏名
東部地区支部	支部長	佐久間 あゆみ
	副支部長(支部長補佐)	佐々木 誠子
	副支部長	眞柄 恵子
	書記	明吉 美智代 植山 誠一
	会計	石渡 寿美代 吉富 治美
	監事	松本 英子 飯塚 晶子
	推薦委員	友野 みつ子 百石 仁美
	選挙管理委員	松本 早苗 田中 郁子
	教育委員	中村 絵美子 植田 友美 酒井 泉 今井 裕子 羽賀 充実 植山 誠一(兼任)
	教育委員(看護研究含)	佐野 純子 濱崎 郁代 横川 忍 石渡 寿美代(兼任)
	地域サービス委員	松田 里香 若山 由美 田中 弘子 工藤 教子 金指 るみ子 野澤 幸 青木 航人 明吉 美智代(兼任)
	広報委員	大木 圭子 眞柄 恵子(兼任)
西部地区支部	支部長	大沼 扶久子
	副支部長	佐藤 未智子 武田 智子 川合 美穂子
	書記	千葉 夏代 松村 恵美子
	会計	松本 由美子 大塚 満寿美

支部名	役職	氏名
西部地区支部	監事	大関 百合子 今井 恵子
	推薦委員	川口 要子 嶋田 美刈 岩田 恵子 平間 美穂
	選挙管理委員	若林 輝美 渡邊 夕美 松崎 佐希子 増井 佐和子
	教育委員	青木 知行 須崎 智恵 北澤 和枝 沖 真由美 篠 聡子 高橋 淳子 源 名保美
	広報委員	加藤 美香 羽場崎 直美 坪 祐子 一番合戦 ひとみ 齋藤 美加子 木村 美和子
	支部長	佐藤 文江
	第一副支部長	路川 環
	第二副支部長	湯川 多美子
	書記	石澤 緑 江口 ゆう
	会計	丹下 幸子 菊地 裕子
	監事	後藤 純子
	推薦委員	牧田 弘美 前田 智美
	選挙管理委員	廣谷 ひろみ 西井 順子
	教育委員	仁平 菜穂子 那須 照代 渡辺 尚子 遠藤 純子 高橋 珍子
	広報委員	高松 洋子
南部地区支部		

支部名	役職	氏名
南部地区支部	広報委員	横田 和子 鈴木 海 出水 訓寿
	支部長	木村 ひづる
	第一副支部長	石田 亜紀
	第二副支部長	中曽根 朋子
中部地区支部	書記	五十嵐 瑞恵 三橋 恭子
	会計	鈴木 めぐみ
	監事	上原 佳代子 石川 よし子
	推薦委員	土方 ふじ子 高柳 国子
	選挙管理委員	児玉 知実 畠山 優子
	教育委員	宮本 和子 木村 麻紀 及川 香織 西堀 光重 但木 祥子 出山 智美 横山 いずみ
	教育委員(～8月)	谷井 真弓
	教育委員(9月～)	久原 みな代
	広報委員	田宮 優子 吉井 明子
	支部長	伊東 恵美子
	副支部長	一柳 景子
	書記	櫻井 寿美 市村 清香
多摩北地区支部	会計	高野 和夫 岡田 浩一
	監事	菱沼 啓子 飯倉 祐子
	推薦委員	岩浪 千恵子 大岡 奈緒
	選挙管理委員	井上 恵美子 今西 裕幸
	選挙管理委員(補佐)	中村 美佐子
	教育委員	内堀 雅里子 大熊 昭子

支部名	役職	氏名
多摩北地区支部	教育委員	住谷 信乃 山内 光 山地 ひろみ 田口 利恵子 田村 木綿子 石澤 真美
	教育委員(～8月)	比留間 あゆみ
	広報委員	河副 ゆかり 阿部 千幸
	地域活動委員	菅原 久美 鈴木 裕介 小泉 亜理沙 山口 久聖子
多摩南地区支部	支部長	池亀 俊美
	第一副支部長	長谷部 美津代
	第二副支部長	内藤 友美
	書記	森谷 明美 星 理津子
	会計	堀辺 昌俊 岩塚 明美
	監事	藤本 由香 中川 優子
	推薦委員	小島 浩美 中田 栄美子
	選挙管理委員(委員長)	高橋 美樹
	選挙管理委員	剣持 雄二
	教育委員(委員長)	高橋 明子
	教育委員(副委員長)	北澤 隆二
	教育委員	小河 百合子 中島 文江
	広報委員	川上 順二 荻原 歩

代議員 233名（東部：27名 西部：61名 南部：40名 中部：45名 多摩北：23名 多摩南：37名）

地区	No.	職種	会員氏名	地区	No.	職種	会員氏名
東部	1	保健師	大松 雅美	西部	22	看護師	田中 美里
	2	助産師	菅沼 寿江		23	看護師	高橋 甲江
	3	看護師	足達 有希也		24	看護師	齋藤 あゆみ
	4	看護師	李 美那		25	看護師	高村 総子
	5	看護師	高橋 薫		26	看護師	中舘 久美子
	6	看護師	小川 恵		27	看護師	大久保 嘉子
	7	准看護師	鈴木 里美		28	看護師	宮澤 和美
	8	看護師	多田 理恵		29	看護師	佐藤 智子
	9	看護師	高橋 奈美江		30	看護師	野末 聖香
	10	看護師	平賀 照美		31	看護師	北澤 和枝
	11	看護師	藤森 雪美		32	看護師	羽場崎 直美
	12	看護師	鮫島 博美		33	看護師	栗田 郁子
	13	看護師	中村 千恵子		34	看護師	永田 喜美江
	14	看護師	内田 ミカ		35	看護師	柳瀬 守利
	15	看護師	相澤 悦子		36	看護師	鈴木 康子
	16	看護師	金杉 佳代子		37	看護師	大山 文恵
	17	看護師	小林 紅仁子		38	看護師	山後 衣里
	18	看護師	木村 芳子		39	看護師	松本 朋子
	19	看護師	桐生 香代子		40	看護師	猪股 洋子
	20	看護師	安藤 法子		41	看護師	谷口 康子
	21	看護師	安藤 美帆子		42	看護師	浅木 貴子
	22	看護師	中林 由江		43	看護師	渡辺 美紀
	23	看護師	小原 かおる		44	看護師	山口 美香
	24	看護師	海老原 絹子		45	看護師	平井 菜穂子
	25	看護師	森 美佐子		46	看護師	須崎 智恵
	26	看護師	久野 めぐみ		47	看護師	白取 絹恵
	27	看護師	吹田 絹恵		48	看護師	成田 由香
西部	1	看護師	鈴木 尚	南部	49	看護師	野尻 馨
	2	看護師	平島 由美子		50	看護師	市橋 富子
	3	看護師	大塚 満寿美		51	看護師	佐々木 美枝子
	4	看護師	田中 由美子		52	看護師	鈴木 しづ子
	5	看護師	藤田 広美		53	看護師	市瀬 たみ子
	6	看護師	小林 万里子		54	看護師	小泉 祐子
	7	看護師	新宅 直子		55	看護師	鈴木 利枝
	8	看護師	丸山 恵美		56	助産師	高橋 早織
	9	看護師	川合 美穂子		57	看護師	金内 綾
	10	看護師	星野 由美		58	看護師	田中 千世
	11	看護師	土田 真紀		59	看護師	内田 智栄
	12	看護師	中村 佐智子		60	看護師	石川 沙織
	13	看護師	木津 まゆみ		61	看護師	芳賀 路恵
	14	看護師	石井 由美子	中部	1	保健師	宗川 千恵子
	15	保健師	倉門 佳代		2	助産師	國行 理恵
	16	助産師	吉田 亜由美		3	看護師	牛澤 多恵子
	17	看護師	塚本 真美		4	看護師	藤岡 歩
	18	看護師	木村 美和子		5	看護師	佐藤 美加
	19	看護師	田邊 智春		6	看護師	岩塚 晶子
	20	看護師	大内 明		7	看護師	渡辺 久枝
	21	看護師	染川 佐央里		8	看護師	多田 香代子

地区	No.	職種	会員氏名	地区	No.	職種	会員氏名
南部	9	看護師	仁平 菜穂子	中部	9	看護師	武田 聡子
	10	看護師	久保 孝		10	看護師	福家 幸子
	11	看護師	永野 妙子		11	看護師	齋藤 美子
	12	看護師	圓館 真由美		12	看護師	出山 智美
	13	看護師	海老沼 美代子		13	看護師	添田 陽子
	14	看護師	川上 由香子		14	看護師	岡本 恵美子
	15	看護師	緒方 まさ美		15	看護師	石井 敦子
	16	看護師	大場 幹子		16	看護師	高橋 亜由美
	17	看護師	村松 海惟	多摩北	1	保健師	佐藤 麻未
	18	看護師	坂田 貴代		2	助産師	山下 弥生
	19	看護師	鈴木 栄里子		3	看護師	松尾 綾子
	20	看護師	池田 幸子		4	看護師	河副 ゆかり
	21	看護師	中山 且子		5	看護師	小柳 貴子
	22	看護師	藤井 和美		6	看護師	山川 正志
	23	看護師	猪股 みゆき		7	看護師	星野 麻紀子
	24	看護師	大川 智恵子		8	看護師	山下 小百合
	25	看護師	柴田 基子		9	看護師	宮川 幸子
	26	看護師	松浦 直子		10	看護師	中野 明美
	27	看護師	遠藤 純子		11	看護師	小松 久代
	28	看護師	山崎 夕紀子		12	看護師	福室 真理子
	29	看護師	杉本 二三代		13	看護師	関谷 優子
	30	看護師	武本 千恵美		14	看護師	黒野 義孝
	31	看護師	井比 舞子		15	看護師	森松 直美
	32	看護師	岩澤 清美		16	看護師	今枝 政美
	33	看護師	伊宝 広枝		17	看護師	小山 早苗
	34	看護師	岸野 信代		18	看護師	齊藤 清子
	35	看護師	多和田 睦美		19	看護師	餅原 素美
	36	看護師	清水 美津子	多摩南	20	看護師	新冢 瑞恵
	37	看護師	米本 美保		21	看護師	金子 恵美
	38	看護師	藤田 智美		22	看護師	阿部 智子
	39	看護師	遠藤 真弓		23	看護師	鳩宿 あゆみ
	40	看護師	斉藤 支奈子		24	看護師	矢吹 典子
中部	1	看護師	笠島 令子		25	看護師	神山 美千代
	2	看護師	石川 よし子		26	看護師	富家 幸子
	3	看護師	鈴木 恭子		27	看護師	齋藤 美子
	4	看護師	細矢 美紀		28	看護師	出山 智美
	5	看護師	金川 智子		29	看護師	添田 陽子
	6	看護師	小澤 昌子		30	看護師	岡本 恵美子
	7	看護師	石田 亜紀		31	看護師	石井 敦子
	8	看護師	清水 泉		32	看護師	高橋 亜由美
	9	看護師	武田 聡子		33	看護師	齋藤 美子
	10	看護師	福家 幸子		34	看護師	出山 智美
	11	看護師	齋藤 美子		35	看護師	添田 陽子
	12	看護師	出山 智美		36	看護師	岡本 恵美子
	13	看護師	添田 陽子		37	看護師	石井 敦子
	14	看護師	岡本 恵美子		38	看護師	高橋 亜由美
	15	看護師	石井 敦子		39	看護師	齋藤 美子
	16	看護師	高橋 亜由美		40	看護師	出山 智美
	17	看護師	齋藤 美子		41	看護師	添田 陽子
	18	看護師	出山 智美		42	看護師	岡本 恵美子
	19	看護師	添田 陽子		43	看護師	石井 敦子
	20	看護師	岡本 恵美子		44	看護師	高橋 亜由美
	21	看護師	石井 敦子		45	看護師	齋藤 美子
	22	看護師	高橋 亜由美		46	看護師	出山 智美
	23	看護師	齋藤 美子		47	看護師	添田 陽子
	24	看護師	出山 智美		48	看護師	岡本 恵美子
	25	看護師	添田 陽子		49	看護師	石井 敦子
	26	看護師	岡本 恵美子		50	看護師	高橋 亜由美
	27	看護師	石井 敦子		51	看護師	齋藤 美子
	28	看護師	高橋 亜由美		52	看護師	出山 智美
	29	看護師	齋藤 美子		53	看護師	添田 陽子
	30	看護師	出山 智美		54	看護師	岡本 恵美子
	31	看護師	添田 陽子		55	看護師	石井 敦子
	32	看護師	岡本 恵美子		56	看護師	高橋 亜由美
	33	看護師	石井 敦子		57	看護師	齋藤 美子
	34	看護師	高橋 亜由美		58	看護師	出山 智美
	35	看護師	齋藤 美子		59	看護師	添田 陽子
	36	看護師	出山 智美		60	看護師	岡本 恵美子
	37	看護師	添田 陽子		61	看護師	石井 敦子

地区	No.	職種	会員氏名	
中部	17	看護師	北 明子	
	18	看護師	包國 幸代	
	19	看護師	鈴木 亜矢子	
	20	看護師	本島 信子	
	21	看護師	原田 麗子	
	22	看護師	熊倉 美保子	
	23	看護師	古川 和子	
	24	看護師	柴田 美央	
	25	看護師	上原 佳代子	
	26	看護師	山崎 やよい	
	27	看護師	尼田 昭子	
	28	看護師	森 綾乃	
	29	看護師	田宮 優子	
	30	保健師	阿久澤 友美	
	31	助産師	得松 奈月	
	32	看護師	山田 幸枝	
	33	看護師	杉森 裕美	
	34	看護師	鈴木 恵子	
	35	看護師	藤本 麗子	
	36	看護師	千田 英理子	
	37	看護師	稲田 浩美	
	38	看護師	棕本 郁子	
	39	助産師	櫻井 恭子	
	40	看護師	新家 瑞恵	
	41	看護師	金子 恵美	
	42	看護師	阿部 智子	
	43	看護師	鳩宿 あゆみ	
	44	看護師	矢吹 典子	
	45	看護師	神山 美千代	
	多摩北	1	保健師	佐藤 麻未
		2	助産師	山下 弥生
		3	看護師	松尾 綾子
		4	看護師	河副 ゆかり
		5	看護師	小柳 貴子
		6	看護師	山川 正志
		7	看護師	星野 麻紀子
		8	看護師	山下 小百合
		9	看護師	宮川 幸子
		10	看護師	中野 明美
		11	看護師	小松 久代
		12	看護師	福室 真理子
		13	看護師	関谷 優子
		14	看護師	黒野 義孝
		15	看護師	森松 直美
		16	看護師	今枝 政美
17		看護師	小山 早苗	
18		看護師	齊藤 清子	
19		看護師	餅原 素美	

東京都看護協会は、保健師、助産師、看護師及び准看護師が看護に関する教育と研鑽に根ざした専門性に基づき看護の質の向上を図るとともに、安心して働き続けられる環境づくりを推進し、もって人々の健康な生活の実現に寄与することを目的としています。

また、看護職の働く環境等の改善や人材確保と定着推進事業は、医療事故発生の抑制や医療に従事する看護職の離職等を防止するなど、看護提供体制構築にも大きく寄与しています。

日本は世界に類をみない超少子高齢化の進展により、看護人材のさらなる確保とともに、地域共生社会の実現が急がれています。また現在、世界各地で蔓延している新型コロナウイルス感染症により、日本でもさまざまな問題が顕在化し、医療崩壊の危機にさらされています。当協会はさまざまな社会課題に対して、誰に（何に）貢献できるか、必要とされる役割は何か、必要とする場所（人）はどこかを見極め、行動していきます。



令和2年度 決算の概要

1 決算方針

本協会の決算は、公益法人会計基準（20年基準）に基づき、「公益目的事業会計」、「収益事業等会計」、「法人会計」の3つに区分して決算処理を行った。

2 決算規模（一般正味財産増減の部）

（単位：千円）

区 分	令和2年度	平成31年度	増 減
経 常 収 益	1,196,229	1,211,243	△ 15,014
経 常 費 用	1,156,320	1,176,159	△ 19,839
当期経常増減額	39,909	35,084	4,825

(1) 収益増減の主な要因

- ① 事業収益△ 71,693 千円（研修受講料、受託収益の減）
- ② 受取寄附金60,647 千円（寄附金の増）
- ③ 受取補助金等5,466 千円（新型コロナウイルス関連補助金等受領によるもの）
- ④ 受取家賃等△ 6,391 千円（会館会議室貸出しの減）

(2) 費用増減の主な要因

【事業費】 3,110千円減

<主な内訳>

- ① 常勤給料手当23,026 千円（公益目的事業の職員の増）
- ② 支援物資購入費20,021 千円（医療施設等への支援物資購入によるもの）
- ③ 諸謝金△ 14,231 千円（研修中止による講師謝礼の減）
- ④ 租税公課△ 25,387 千円（不動産取得税の減）

【管理費】 16,728千円減

<主な内訳>

- ① 租税公課△ 3,002 千円（不動産取得税の減）
- ② 渉外費△ 6,022 千円（新会館落成式に係る費用の減）

3 その他（資産及び負債の主な増減）

(1) 資産 54,588千円増

- ① 建物△ 93,379 千円（減価償却による減）
- ② 会館改良・修繕積立資産40,000 千円（会館改良・修繕のための計画積立による増）
- ③ 医療従事者支援資産79,835 千円（新型コロナウイルス感染症対策寄附金の増）

(2) 負債 65,156千円減

- ① 未払金29,403 千円（受託料返還額の増）
- ② 長期借入金△ 105,000 千円（土地・建物取得のための借入金返済による減）

貸借対照表 令和3年3月31日現在（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	973,678,650	946,696,644	26,982,006
未収金	33,077,449	28,870,955	4,206,494
前払金	15,000	1,093,800	△ 1,078,800
前払費用	2,071,661	2,393,170	△ 321,509
流動資産合計	1,008,842,760	979,054,569	29,788,191
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
土地	3,356,716,411	3,356,716,411	0
建物	2,415,826,767	2,509,206,199	△ 93,379,432
構築物	28,312,307	30,281,692	△ 1,969,385
退職給付引当資産	43,120,190	42,793,630	326,560
会館改良・修繕積立資産	217,805,813	177,805,813	40,000,000
医療従事者支援資産	79,835,258	0	79,835,258
特定資産合計	6,141,616,746	6,116,803,745	24,813,001
(2) その他固定資産			
什器備品	26,383,212	33,024,567	△ 6,641,355
電話加入権	5	5	0
ソフトウエア	5,251,824	7,760,237	△ 2,508,413
リース資産	14,595,920	5,459,184	9,136,736
敷金	5,181,760	5,181,760	0
その他固定資産合計	51,412,721	51,425,753	△ 13,032
固定資産合計	6,193,029,467	6,168,229,498	24,799,969
資産合計	7,201,872,227	7,147,284,067	54,588,160
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	105,324,618	75,921,153	29,403,465
未払費用	3,611,200	3,746,629	△ 135,429
前受金	405,700,000	405,047,300	652,700
預り金	3,743,367	2,773,350	970,017
賞与引当金	24,512,754	25,023,604	△ 510,850
一年以内返済予定長期借入金	105,000,000	105,000,000	0
一年以内返済予定リース債務	3,747,120	1,765,584	1,981,536
流動負債合計	651,639,059	619,277,620	32,361,439
2. 固定負債			
長期借入金	1,811,250,000	1,916,250,000	△ 105,000,000
退職給付引当金	43,120,190	42,793,630	326,560
長期リース債務	10,848,800	3,693,600	7,155,200
固定負債合計	1,865,218,990	1,962,737,230	△ 97,518,240
負債合計	2,516,858,049	2,582,014,850	△ 65,156,801
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	493,437,508	413,602,250	79,835,258
指定正味財産合計	493,437,508	413,602,250	79,835,258
（うち特定資産への充当額）	(493,437,508)	(413,602,250)	(79,835,258)
2. 一般正味財産	4,191,576,670	4,151,666,967	39,909,703
（うち特定資産への充当額）	(3,688,809,048)	(3,639,157,865)	(49,651,183)
正味財産合計	4,685,014,178	4,565,269,217	119,744,961
負債及び正味財産合計	7,201,872,227	7,147,284,067	54,588,160

正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	531	532	△ 1
受取入会金	21,105,000	24,085,000	△ 2,980,000
受取会費	247,270,000	247,960,000	△ 690,000
事業収益	561,368,122	633,061,780	△ 71,693,658
会館維持管理負担金	242,620,000	244,340,000	△ 1,720,000
受取補助金等	23,796,800	18,330,800	5,466,000
受取給付金	3,805,066	0	3,805,066
受取寄附金	64,494,511	3,846,553	60,647,958
受取家賃等	23,781,848	30,173,535	△ 6,391,687
雑収益	7,988,115	9,445,235	△ 1,457,120
経常収益計	1,196,229,993	1,211,243,435	△ 15,013,442
(2) 経常費用			
事業費	(1,003,840,726)	(1,006,951,311)	(△ 3,110,585)
役員報酬	19,250,000	19,250,000	0
常勤給料手当	245,929,665	222,903,069	23,026,596
非常勤給料手当	79,170,956	79,182,890	△ 11,934
パート賃金	53,964,291	40,072,572	13,891,719
委員謝金	4,884,716	8,981,000	△ 4,096,284
法定福利費	58,772,234	55,000,943	3,771,291
賞与引当金繰入	19,377,950	20,251,401	△ 873,451
退職給付費用	8,563,140	4,900,450	3,662,690
福利厚生費	2,396,914	1,287,205	1,109,709
通勤手当	14,719,569	14,027,325	692,244
旅費交通費	2,676,765	7,409,994	△ 4,733,229
通信運搬費	31,242,106	25,991,243	5,250,863
減価償却費	94,944,676	104,862,856	△ 9,918,180
消耗什器備品費	8,608,640	4,098,134	4,510,506
消耗品費	19,653,916	21,365,887	△ 1,711,971
支援物資購入費	20,021,300	0	20,021,300
修繕費	1,914,770	1,079,264	835,506
印刷製本費	27,971,565	33,883,739	△ 5,912,174
支払家賃	15,897,596	15,518,761	378,835
会場費	1,546,380	6,461,373	△ 4,914,993
光熱水料費	10,728,030	11,041,003	△ 312,973
賃借料	5,076,877	6,453,524	△ 1,376,647
保険料	1,566,038	1,606,350	△ 40,312
諸謝金	49,988,829	64,220,561	△ 14,231,732
支払報酬	0	1,043,461	△ 1,043,461
租税公課	45,910,200	71,297,678	△ 25,387,478
支払給付金	1,950,720	0	1,950,720
支払助成金	300,000	60,000	240,000
支払寄附金	0	8,515	△ 8,515
委託費	82,692,707	83,478,443	△ 785,736
保守料	19,694,583	19,046,280	648,303
新聞図書費	3,823,298	2,754,252	1,069,046
会議費	1,438,602	3,102,632	△ 1,664,030
広報費	20,120,792	27,433,714	△ 7,312,922
支払手数料	9,530,672	7,665,738	1,864,934
渉外費	62,592	301,200	△ 238,608
諸会費	356,300	358,040	△ 1,740
支払利息	18,827,952	19,868,817	△ 1,040,865
研修費	173,600	492,170	△ 318,570
雑費	91,785	190,827	△ 99,042

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	(152,479,563)	(169,208,107)	(△ 16,728,544)
役員報酬	18,250,000	18,250,000	0
常勤給料手当	54,400,325	51,419,494	2,980,831
パート賃金	2,101,213	1,090,219	1,010,994
委員謝金	1,253,000	1,459,000	△ 206,000
法定福利費	12,344,948	12,354,576	△ 9,628
賞与引当金繰入	5,134,804	4,772,203	362,601
退職給付費用	2,441,840	1,044,400	1,397,440
福利厚生費	358,356	307,731	50,625
通勤手当	2,950,508	2,796,162	154,346
旅費交通費	135,096	1,257,780	△ 1,122,684
通信運搬費	1,251,205	1,905,889	△ 654,684
減価償却費	15,560,795	16,252,372	△ 691,577
消耗什器備品費	815,705	836,278	△ 20,573
消耗品費	1,094,223	2,434,560	△ 1,340,337
修繕費	0	887,740	△ 887,740
印刷製本費	1,290,147	975,434	314,713
光熱水料費	1,687,445	1,747,806	△ 60,361
賃借料	1,127,761	927,125	200,636
保険料	299,885	270,745	29,140
諸謝金	26,660	403,668	△ 377,008
支払報酬	6,360,496	7,767,890	△ 1,407,394
租税公課	11,602,020	14,604,422	△ 3,002,402
委託費	4,480,622	4,823,513	△ 342,891
保守料	3,119,270	3,119,349	△ 79
新聞図書費	5,830	0	5,830
会議費	42,294	655,973	△ 613,679
支払手数料	863,418	631,195	232,223
渉外費	14,400	6,037,055	△ 6,022,655
諸会費	12,000	0	12,000
支払利息	3,322,580	3,506,261	△ 183,681
研修費	53,900	40,500	13,400
雑費	78,817	6,628,767	△ 6,549,950
経常費用計	1,156,320,289	1,176,159,418	△ 19,839,129
当期経常増減額	39,909,704	35,084,017	4,825,687
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	234,678,875	△ 234,678,875
経常外収益計	0	234,678,875	△ 234,678,875
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	1	64,766	△ 64,765
経常外費用計	1	64,766	△ 64,765
当期経常外増減額	△ 1	234,614,109	△ 234,614,110
当期一般正味財産増減額	39,909,703	269,698,126	△ 229,788,423
一般正味財産期首残高	4,151,666,967	3,881,968,841	269,698,126
一般正味財産期末残高	4,191,576,670	4,151,666,967	39,909,703
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	100,694,857	500,000	100,194,857
固定資産売却益	0	91,679,321	△ 91,679,321
一般正味財産への振替額	△ 20,859,599	△ 500,005	△ 20,359,594
当期指定正味財産増減額	79,835,258	91,679,316	△ 11,844,058
指定正味財産期首残高	413,602,250	321,922,934	91,679,316
指定正味財産期末残高	493,437,508	413,602,250	79,835,258
III 正味財産期末残高	4,685,014,178	4,565,269,217	119,744,961

正味財産増減計算書内訳表

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:円)

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	0	0	531	531
特定資産利息	0	0	531	531
受取入会金	10,552,500	0	10,552,500	21,105,000
受取入会金	10,552,500	0	10,552,500	21,105,000
受取会費	125,960,000	32,251,104	89,058,896	247,270,000
会員受取会費	121,310,000	32,251,104	89,058,896	242,620,000
賛助会員受取会費	4,650,000	0	0	4,650,000
事業収益	561,368,122	0	0	561,368,122
研修等事業収益	53,082,180	0	0	53,082,180
受託収益	367,030,537	0	0	367,030,537
支部事業収益	111,100	0	0	111,100
療養費収益訪問	65,555,000	0	0	65,555,000
介護利用収益訪問	66,853,075	0	0	66,853,075
介護計画収益	8,203,480	0	0	8,203,480
認定調査収益	32,450	0	0	32,450
レスパイト収益	175,200	0	0	175,200
その他収益	51,300	0	0	51,300
呼吸器難病収益	273,800	0	0	273,800
会館維持管理負担金	206,227,000	0	36,393,000	242,620,000
会館維持管理負担金	206,227,000	0	36,393,000	242,620,000
受取補助金等	17,041,360	6,755,440	0	23,796,800
日看協助成金	11,022,160	6,755,440	0	17,777,600
受取地方補助金	3,179,200	0	0	3,179,200
受取民間助成金	2,840,000	0	0	2,840,000
受取給付金	3,805,066	0	0	3,805,066
受取給付金	3,805,066	0	0	3,805,066
受取寄附金	64,494,511	0	0	64,494,511
受取寄附金	43,634,912	0	0	43,634,912
受取寄附金振替額	20,859,599	0	0	20,859,599
受取家賃等	23,781,848	0	0	23,781,848
受取家賃	23,781,848	0	0	23,781,848
雑収益	5,399,334	1,979,192	609,589	7,988,115
雑収益	5,399,334	1,979,192	609,589	7,988,115
経常収益計	1,018,629,741	40,985,736	136,614,516	1,196,229,993
(2) 経常費用				
事業費	962,854,990	40,985,736		1,003,840,726
役員報酬	19,250,000	0		19,250,000
常勤給料手当	237,754,835	8,174,830		245,929,665
非常勤給与手当	79,170,956	0		79,170,956
パート賃金	51,832,906	2,131,385		53,964,291
委員謝金	4,884,716	0		4,884,716
法定福利費	57,364,094	1,408,140		58,772,234
賞与引当金繰入	18,461,683	916,267		19,377,950
退職給付費用	7,918,540	644,600		8,563,140
福利厚生費	1,655,890	741,024		2,396,914
通勤手当	14,293,728	425,841		14,719,569
旅費交通費	2,669,397	7,368		2,676,765
通信運搬費	22,766,469	8,475,637		31,242,106
減価償却費	93,570,912	1,373,764		94,944,676
消耗什器備品費	8,429,560	179,080		8,608,640
消耗品費	19,298,235	355,681		19,653,916
支援物資購入費	20,021,300	0		20,021,300
修繕費	1,639,770	275,000		1,914,770
印刷製本費	17,723,164	10,248,401		27,971,565
支払家賃	15,897,596	0		15,897,596
会場費	1,546,380	0		1,546,380
光熱水料費	10,728,030	0		10,728,030
賃借料	5,076,877	0		5,076,877
保険料	1,328,298	237,740		1,566,038
諸謝金	49,978,629	10,200		49,988,829
租税公課	45,898,200	12,000		45,910,200
支払給付金	1,950,720	0		1,950,720

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
支払助成金	0	300,000		300,000
委託費	77,798,311	4,894,396		82,692,707
保守料	19,694,583	0		19,694,583
新聞図書費	3,823,298	0		3,823,298
会議費	1,438,602	0		1,438,602
広報費	20,120,792	0		20,120,792
支払手数料	9,393,090	137,582		9,530,672
渉外費	31,792	30,800		62,592
諸会費	356,300	0		356,300
支払利息	18,827,952	0		18,827,952
研修費	173,600	0		173,600
雑費	85,785	6,000		91,785
管理費			152,479,563	152,479,563
役員報酬			18,250,000	18,250,000
常勤給料手当			54,400,325	54,400,325
パート賃金			2,101,213	2,101,213
委員謝金			1,253,000	1,253,000
法定福利費			12,344,948	12,344,948
賞与引当金繰入			5,134,804	5,134,804
退職給付費用			2,441,840	2,441,840
福利厚生費			358,356	358,356
通勤手当			2,950,508	2,950,508
旅費交通費			135,096	135,096
通信運搬費			1,251,205	1,251,205
減価償却費			15,560,795	15,560,795
消耗什器備品費			815,705	815,705
消耗品費			1,094,223	1,094,223
印刷製本費			1,290,147	1,290,147
光熱水料費			1,687,445	1,687,445
賃借料			1,127,761	1,127,761
保険料			299,885	299,885
諸謝金			26,660	26,660
支払報酬			6,360,496	6,360,496
租税公課			11,602,020	11,602,020
委託費			4,480,622	4,480,622
保守料			3,119,270	3,119,270
新聞図書費			5,830	5,830
会議費			42,294	42,294
支払手数料			863,418	863,418
渉外費			14,400	14,400
諸会費			12,000	12,000
支払利息			3,322,580	3,322,580
研修費			53,900	53,900
雑費			78,817	78,817
経常費用計	962,854,990	40,985,736	152,479,563	1,156,320,289
当期経常増減額	55,774,751	0	△ 15,865,047	39,909,704
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
固定資産売却益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	0	0	1	1
経常外費用計	0	0	1	1
当期経常外増減額	0	0	△ 1	△ 1
当期一般正味財産増減額	55,774,751	0	△ 15,865,048	39,909,703
一般正味財産期首残高				4,151,666,967
一般正味財産期末残高				4,191,576,670
II 指定正味財産増減の部				
受取寄附金	100,694,857	0	0	100,694,857
固定資産売却益	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 20,859,599	0	0	△ 20,859,599
当期指定正味財産増減額	79,835,258	0	0	79,835,258
指定正味財産期首残高				413,602,250
指定正味財産期末残高				493,437,508
III 正味財産期末残高				4,685,014,178

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

公益法人会計基準（平成20年4月11日制定 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(1) 固定資産の減価償却の方法

- 建物・建物附属設備・構築物 …………… 定額法によっている。
- 什器備品 …………… 定率法によっている。
- ソフトウェア …………… 利用可能期間（5年）に基づく定額法によっている。
- リース資産
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
 - リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(2) 引当金の計上基準

- 賞与引当金 …………… 職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- 退職給付引当金 …… 職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末に発生していると認められる額を計上している。なお、退職給付債務は、期末自己都合要支給額に基づいて計算している。

(3) 重要なヘッジ会計の方法

- ① ヘッジ会計の方法
 - 繰延ヘッジを採用している。
 - なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップ取引については特例処理を採用している。
- ② ヘッジ手段とヘッジ対象
 - 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は次の通りである。
 - ヘッジ手段…金利スワップ
 - ヘッジ対象…借入金の支払利息
- ③ ヘッジ方針
 - デリバティブ取引については、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、実需に基づくものに限定し、投機目的の取引は行わない。
- ④ ヘッジ有効性評価の方法
 - 全て、特例処理を採用している金利スワップ取引であるため、有効性の評価を省略している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
土地	3,356,716,411	0	0	3,356,716,411
建物	2,509,206,199	0	93,379,432	2,415,826,767
構築物	30,281,692	0	1,969,385	28,312,307
退職給付引当資産	42,793,630	9,787,560	9,461,000	43,120,190
会館改良・修繕積立資産	177,805,813	40,000,000	0	217,805,813
医療従事者支援資産	0	100,694,857	20,859,599	79,835,258
合 計	6,116,803,745	150,482,417	125,669,416	6,141,616,746

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
特定資産				
土地	3,356,716,411	(413,602,250)	(1,939,364,161)	(1,003,750,000)
建物	2,415,826,767	0	(1,503,326,767)	(912,500,000)
構築物	28,312,307	0	(28,312,307)	0
退職給付引当資産	43,120,190	0	0	(43,120,190)
会館改良・修繕積立資産	217,805,813	0	(217,805,813)	0
医療従事者支援資産	79,835,258	(79,835,258)	0	0
合 計	6,141,616,746	(493,437,508)	(3,688,809,048)	(1,959,370,190)

5. 担保に供している資産

コミットメント期間付タームローン契約に基づく金銭債務（貸付限度額：3,000,000,000円、実行残高：長期借入金 2,100,000,000円）の担保に供している資産は、次のとおりである。
土地 3,356,716,411円

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	2,610,345,524	194,518,757	2,415,826,767
構築物	32,415,191	4,102,884	28,312,307
什器備品	49,527,896	23,144,684	26,383,212
ソフトウェア	70,947,405	65,695,581	5,251,824
リース資産	26,751,360	12,155,440	14,595,920
合 計	2,789,987,376	299,617,346	2,490,370,030

7. 保証債務等の偶発債務

該当なし

8. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
教育助成金他	公益社団法人 日本看護協会	0	17,777,600	17,777,600	0	—
新型コロナウイルス感染症 看護職員派遣事業	東 京 都	0	645,608	645,608	0	—
新型コロナウイルス感染症 医療従事者派遣事業	大阪府・北海道	0	3,179,200	3,179,200	0	—
新型コロナウイルス感染症 看護職員派遣助成金	日 本 財 団	0	2,840,000	2,840,000	0	—
新型コロナウイルス感染症 緊急包括支援(介護分)	東 京 都	0	1,639,091	1,639,091	0	—
新型コロナウイルス感染症 介護保険サービス支援金	文 京 区	0	1,000,000	1,000,000	0	—
新型コロナウイルス感染症 介護従事者特別給付金	練 馬 区	0	178,000	178,000	0	—
新型コロナウイルス感染症 小学校休業等対応助成金	厚生労働省	0	342,367	342,367	0	—
合 計		0	27,601,866	27,601,866	0	—

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
医療従事者支援事業の実施に伴う費用の振替額	20,859,599
合 計	20,859,599

11. 関連当事者との取引の内容

該当なし

12. リース取引関係

- (1) ファイナンス・リース取引
- ① 所有権移転外ファイナンス・リース取引
- リース資産の内容
- その他固定資産…高速印刷機及びサーバーである。

13. 退職給付関係

- (1) 採用している退職給付制度の概要
- 確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。
- (2) 退職給付債務及びその内訳 (単位：円)
- | | |
|------------------|--------------|
| ① 退職給付債務 | △ 43,120,190 |
| ② 会計基準変更時差異の未処理額 | 0 |
| ③ 退職給付引当金 (①+②) | △ 43,120,190 |
- (3) 退職給付費用に関する事項 (単位：円)
- | | |
|-------------------|------------|
| ① 勤務費用 | 11,004,980 |
| ② 会計基準変更時差異の費用処理額 | 0 |
| ③ 退職給付費用 (①+②) | 11,004,980 |
- (4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項
- 退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

14. 金融商品の状況に関する事項

- (1) 金融商品に対する取組方針
- 当法人は、資金運用については短期的な預金等に限定し、金融機関からの借入れにより資金を調達している。借入金は新会館建設に必要な資金の調達を目的としたものであり、当該資金を機動的かつ安定的に確保することを狙いとして、金融機関とコミットメント期間付タームローン契約を締結している。
- (2) 金融商品の内容及びそのリスク
- 借入金の支払利息は、金利の変動のリスクに晒されているが、それについてデリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしている。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「重要な会計方針」の「重要なヘッジ会計の方法」に記載している。
- (3) 金利変動のリスクの管理
- デリバティブ取引の運用・管理については、社内規程に基づいて、会計責任者が会長の承認を得て行っている。

15. 重要な後発事象

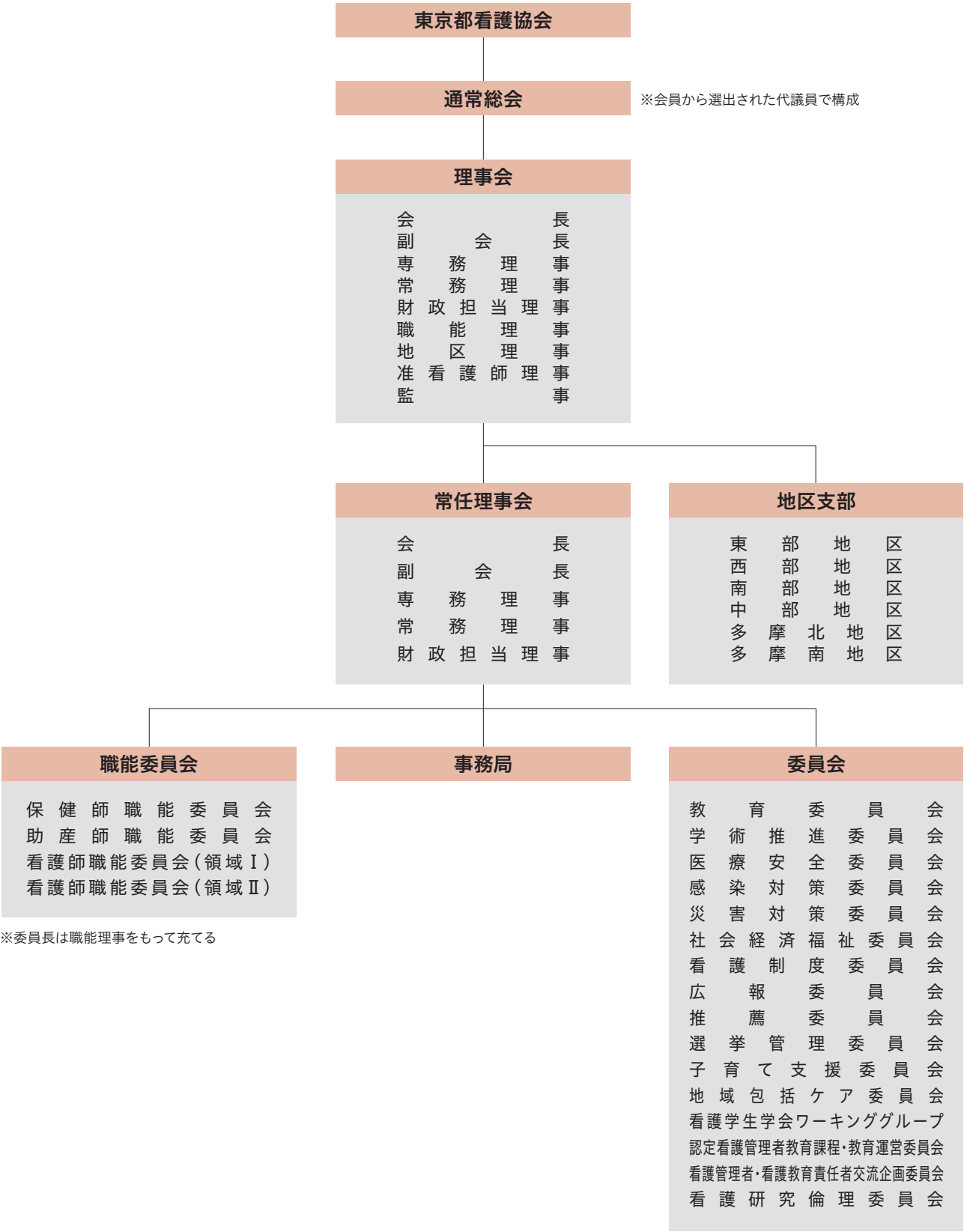
該当なし

財産目録 令和3年3月31日現在 (単位:円)

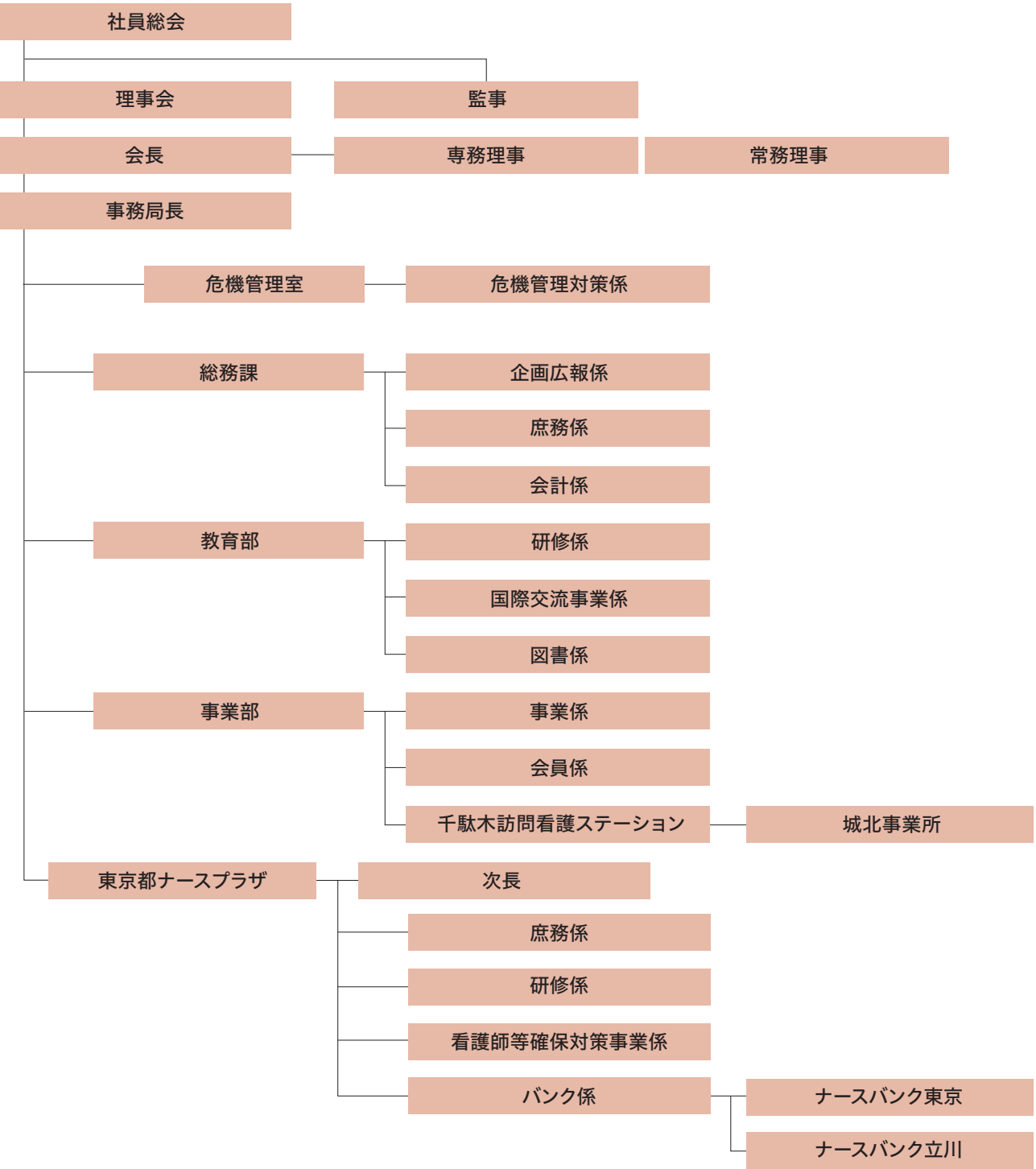
貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額		
(流動資産)	現金預金					
	現金	手許有高	運転資金として	248,717		
	普通預金	みずほ銀行飯田橋支店(15口)	運転資金として	973,296,471		
		ゆうちょ銀行 総合口座	運転資金として	50,873		
		三菱UFJ銀行神楽坂支店	運転資金として	82,589		
		未収金	東京都国民健康保険団体連合会	公益目的事業-訪問看護の介護 利用収益・療養費収益	16,988,090	
		東京都社会保険診療報酬支払基金	公益目的事業-訪問看護の療養費 収益	5,337,010		
		東京都・日本看護協会他	公益目的事業-受託料・補助金等 請求額	7,954,298		
		その他	公益目的事業-訪問看護介護利用 収益自己負担額他	2,798,051		
	前払金	訪問看護ステーション協会	令和3年度会費	15,000		
前払費用		保険料・OA機器保守料	1,368,230			
		訪問看護ステーション賃料・更 新料他	703,431			
流動資産合計				1,008,842,760		
(固定資産)	特定資産	土地	新宿区西新宿4丁目2番19号 (地積 1437.39㎡)	公益目的保有財産であり、公益 目的事業の用に供している	2,853,208,949	
			(地積 1221.78㎡)			
			(地積 215.61㎡)			
		建物	東京都看護協会会館 新宿区西新宿4丁目2番19号	公益目的保有財産であり、公益 目的事業の用に供している	2,053,452,753	
				管理運営の用に供している	362,374,014	
		構築物	会館外構工事他	公益目的保有財産であり、公益 目的事業の用に供している	24,065,461	
				管理運営の用に供している	4,246,846	
		退職給付引当資産	みずほ銀行飯田橋支店 定期預金(1口)	職員に対する退職金の支払いに 備えたもの	5,320,081	
			みずほ銀行飯田橋支店 普通預金(4口)		37,800,109	
		会館改良・修繕積立資産	みずほ銀行飯田橋支店 普通預金(1口)	会館の改良・修繕に備えて資産 取得資金として管理している預金	217,805,813	
		医療施設支援資産	みずほ銀行飯田橋支店 普通預金(1口)	寄附により受け入れた新型コロナ ウイルス感染症対策として医療 従事者支援に使用する預金	79,835,258	
		特定資産合計				6,141,616,746
		その他固定資産	什器備品	東京都看護協会の事務所付帯設備一式	公益目的保有財産であり、公益 目的事業の用に供している	24,377,095
					管理運営の用に供している	2,006,117

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
	電話加入権	東京都看護協会会館他 5回線	管理運営の用に供している	5
	ソフトウェア	研修管理システム・ホームページ他一式	公益目的保有財産であり、公益 目的事業の用に供している	2,466,288
		会員管理システム他一式	共益目的事業の用に供している	2,505,600
		会計ソフト	管理運営の用に供している	279,936
	リース資産	高速印刷機	公益目的保有財産であり、公益 目的事業の用に供している	3,693,600
		ネットワーク用サーバー	公益目的保有財産であり、公益 目的事業の用に供している	8,721,856
			管理運営の用に供している	2,180,464
	敷金	ナースバンク立川・千駄木・城北訪問看護 ステーション事務所賃借	公益目的保有財産であり、公益 目的事業の用に供している	5,181,760
その他固定資産合計			51,412,721	
固定資産合計			6,193,029,467	
資産合計			7,201,872,227	
(流動負債)	未払金	新宿税務署	当期確定消費税	8,935,700
		東京都・日本財団	委託費戻入・返還助成金他	44,247,645
		その他	未払給与（3月分）他	52,141,273
	未払費用	みずほ銀行	借入金利息・手数料	3,611,200
			令和3年度前受会費	201,685,000
			令和3年度前受入金金	2,230,000
	前受金		令和3年度前受会館維持管理費	201,685,000
			令和3年度賛助会費	100,000
			令和3年3月分源泉所得税他	3,743,367
	預り金		令和2年度負担額	24,512,754
	賞与引当金		土地・建物取得のための借入金	105,000,000
	一年以内返済予定長期 借入金	みずほ銀行		
	一年以内返済予定リース 債務	高速印刷機・ネットワーク用サーバー		3,747,120
流動負債合計			651,639,059	
(固定負債)	長期借入金	みずほ銀行	土地・建物取得のための借入金	1,811,250,000
	退職給付引当金	期末退職給付要支給額		43,120,190
	長期リース債務	高速印刷機・ネットワーク用サーバー		10,848,800
固定負債合計			1,865,218,990	
負債合計			2,516,858,049	
正味財産			4,685,014,178	



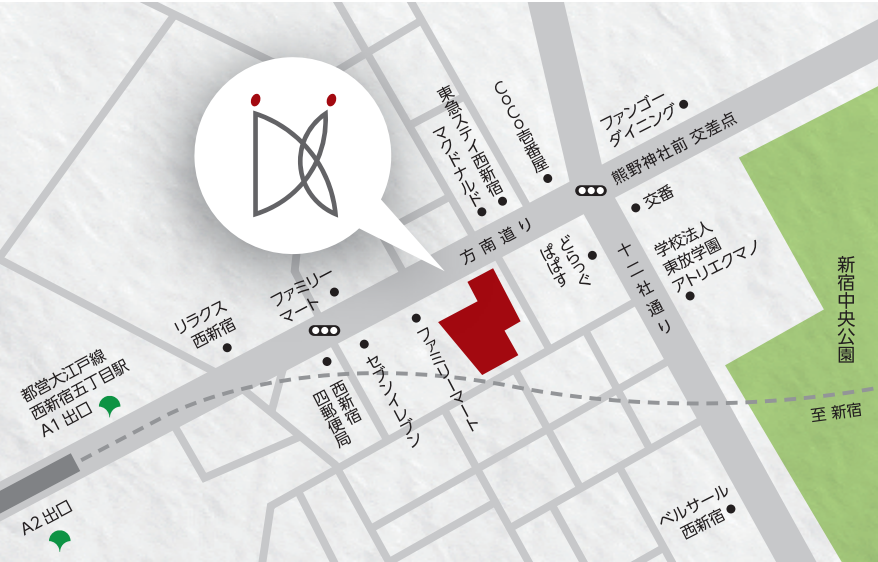
※委員長は職能理事をもって充てる



法人名	公益社団法人東京都看護協会	事業所
設立	1947年（昭和22年）	千駄木訪問看護ステーション
所在地	東京都新宿区西新宿四丁目2番19号	東京都文京区向丘一丁目7番17号　マインハイム本郷101
職員数	113名	千駄木訪問看護ステーション城北事業所
決算日	3月31日	東京都練馬区北町八丁目37番22号　第5相原ビル202
通常総会	6月	
会計監査法人	有限責任あずさ監査法人	

アクセス

都営大江戸線「西新宿五丁目駅」A1またはA2出口から徒歩約4分
東京メトロ丸ノ内線「西新宿駅」2番出口から徒歩約10分



編集方針

東京都看護協会では、当協会の取り組みについて、会員をはじめとする幅広いステークホルダーの皆さまにご紹介し、対話の促進を図るため「年次報告」を発行することといたしました。

制作にあたっては、会長の山元恵子と専務理事の渡邊千香子がコンセプト・構成・コンテンツ・デザインについて議論を行いながら各部門とも検討を重ね、当協会の公益事業や看護の「知の拠点」として貢献するための戦略や計画を一冊でご理解いただけるように構成しています。

本年次報告をツールとして対話を深め、一人でも多くの皆さまとの価値共有の取り組みにつなげていけるよう努めてまいります。

引き続き、公益社団法人東京都看護協会へのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和2年度（2020年）公益社団法人東京都看護協会 年次報告

発行	令和3年9月
編集発行者	公益社団法人東京都看護協会 〒160-0023　東京都新宿区西新宿四丁目2番19号 電話　03（6300）0730（代表）
印刷	凸版印刷株式会社

本書の無断複写・転載は禁じます。